

年度	2025
科目名	看護研究Ⅰ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
中信 利恵子
◎ 百田 武司

授業概要	研究の基本的概念、および研究の過程について学習し、各自が探究しようとしている研究課題（その時点における）に基づき研究計画書を作成するにあたっての留意点を学び、研究者としての基礎的能力を育成する。本科目では、看護研究のプロセスと多様な看護学で活用する研究法、文献クリティーク、研究における倫理、量的・質的研究法の基礎を学ぶ。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.2-5.に対応する。
到達目標	1. 看護実践と研究の関連性を理解する。 2. 研究目的に合わせた研究方法としての質的研究と量的研究の相違点を理解する。 3. 研究における文献活用の意義を理解し、効率的に文献を検索できる。 4. 研究における倫理的配慮について理解する。 5. 研究論文を批判的に吟味できる。 6. 研究計画書を立案にあたっての留意点を理解する。

授業内容

回	内 容	予習復習	遠隔授業	担当教員
第1回	看護研究の目的、 看護研究と看護実践の関連、エビデンス（研究成果）に基づく看護実践	①pp.3-25,690-721 ②pp.15-35, 83-101		百田
第2回	研究者としての倫理、科学者としての行動規範	①pp.143-164 ②pp.153-188		百田
第3回	研究のプロセス、研究課題の明確化、研究目的に合わせた研究方法の特徴	①pp.46-62, 65-88, 227-249 ②pp.,36-81,102-119,136-152		百田
第4回	文献検討の意義と位置づけ、効果的な文献検索論文の種類と論文の構成	①pp.89-114, 615-646 ②pp.120-135		百田
第5回	研究目的と量的研究のデザイン 質問紙調査を中心とした量的研究におけるデータ収集	①pp.165-204, 298-324, 327-350, 351-386, 387-410, 411-426, ②pp.330-391,491-513	遠隔授業可	百田
第6回	測定用具の信頼性と妥当性 量的データ分析の概略（記述統計・推測統計・多変量解析）	①pp.427-462、465-489, 490-522, 523-557 ②pp.363-425,514-565	遠隔授業可	百田
第7回	量的研究と質的研究の相違、質的研究の基礎となる哲学 質的研究法の種類（グラウンデッド・セオリー，エスノグラフィー，現象学など）	①pp.46-62, 250-279 ②pp.15-35, 60-82		中信
第8回	質的研究におけるデータ収集方法：インタビュー法① サンプリング，インタビューの方法	①pp.342-386 ②pp.253-289		中信
第9回	質的研究におけるデータ収集方法：インタビュー法② インタビューガイドの作成，研究者に必要なトレーニング	②pp.253-289, 402-404		中信
第10回	質的研究におけるデータ収集方法：参加観察法 研究者に必要なトレーニング，フィールドへのエントリー，フィールドノート作成	①pp.387-410 ②pp.253-289, 400-402		中信

第11回	研究論文のクリティーク	①pp.89-114, 673-689 ②pp.427-444	遠隔授業可	百田
第12回	質的研究におけるデータのもつ意味 観察やインタビューなどから得られたデータの読み方、分析の仕方	①pp.582-612 ②pp.253-289	遠隔授業可	中信
第13回	質的研究で用いられるデータ分析の方法 質的研究における分析結果の判断基準	①pp.582-612 ②pp.253-289	遠隔授業可	中信
第14回	ミックスドメソッドの必要性 どのようなときにこの研究法が必要になるのか	①pp.280-297 ②pp.311-329	遠隔授業可	中信
第15回	研究計画書の意義と作成上の注意 研究計画書の基本的形式	①pp.647-669 ②pp.606-643	遠隔授業可	百田

参考文献	①Polit, D. F., & Beck, C.T.(2004)/近藤潤子(監訳) (2010). 看護研究 原理と方法(第2版). 医学書院. ②Gray, J. R., Grove, S.K. (2021)/黒田裕子, 逸見功, 佐藤富美子 (2023). 看護研究入門 原著第9版-評価・統合・エビデンスの生成. エルゼビア・ジャパン. ③前田樹海, 江藤裕之 (2023) . APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール(第2版). 医学書院. ④日本学術会議 (2013) . 声明「科学者の行動規範－改訂版－」 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-s168-1.pdf その他授業時に提示する。
評価方法	プレゼンテーションや資料、授業の参加・貢献度：30％、最終課題「レポート：自身の研究疑問を構造化しFINER基準で検討する」：70％ 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。最終課題にはコメントをつけて返却を行う。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「看護研究」に該当する。 遠隔授業として参加可能な授業は上記の授業内容に示しています。事前に担当教員に申し出てください。
オフィスアワー	百田：金曜日 12：30～14：30 ／ 中信：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	看護研究Ⅱ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 百田 武司

授業概要	看護現象を探究する研究方法について量的な観点から学習する。記述統計と推測統計において、基本的な統計量の読み方を学び、多変量解析の概略について理解する。また、量的データを用いた看護研究論文のクリティークを通して、研究目的に対応した尺度の選択、および統計解析手法の利用方法を学ぶ。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. 2-5. に対応する。
到達目標	1. 記述統計と推測統計の、基本的な統計量の読み方を考えることができる。 2. 研究目的に適切な研究デザインを考えることができる。 3. 研究目的に応じた対応した種々の統計手法を選択することができる。 4. 量的な研究と質的な研究に対して基礎的な水準のクリティークをすることができる。

授業内容

回	内容	予習復習	遠隔授業	担当教員
第1回	診療ガイドラインの成り立ち	資料配布		百田
第2回	量的研究における研究プロセスの概観	資料配布 ①pp.46-62		百田
第3回	文献検討の方法	資料配布		百田
第4回	仮説の設定、標本抽出（サンプリング） 量的研究のデザイン（関連検証、因果関係検証、実態調査・因子探索）	①pp.65-88.165-204. 298-324 ②pp.125-142.175-236. 316-344. 371-403		百田
第5回	量的研究における概念と概念枠組み 研究課題と概念枠組みの明確化	資料配布 ①pp.115-140 ②pp.68-88.106-124	遠隔授業可	百田
第6回	文献の情報整理・文献の読み方（クリティーク）	資料配布	遠隔授業可	百田
第7回	質問紙調査を中心とした量的研究におけるデータ収集	資料配布 ①pp.465-480 ②pp.456-344	遠隔授業可	百田
第8回	測定概念、尺度水準、変数の明確化 エンドポイントの選択の方法	資料配付 ①pp.427-462 ②pp.175-236	遠隔授業可	百田
第9回	データの収集方法と管理 集計作業の流れ、データ・クリーニング、コーディング	資料配付 ①pp.465-480 ②pp.456-344	遠隔授業可	百田
第10回	記述統計（平均とバラツキ、母集団と標本、分布、相関分析）	資料配付 ①pp.465-489	遠隔授業可	百田
第11回	推測統計① 正規分布、仮説検定、質的変数と質的変数の関連、	資料配付 ①pp.490-522	遠隔授業可	百田
第12回	推測統計② 平均値の差の検定、相関分析、順位相関係数	資料配付 ①pp.490-522	遠隔授業可	百田

第13回	多変量解析の概略 重回帰分析、共分散分析、因子分析	資料配付 ①pp.523-557	遠隔授業可	百田
第14回	実際の研究例 調査研究	資料配布	遠隔授業可	百田
第15回	研究の公表 学会発表の仕方	資料配布	遠隔授業可	百田

参考文献	①Polit, D. F., & Beck, C.T.(2004)/近藤潤子(監訳)(2010). 看護研究 原理と方法（第2版）. 医学書院. ②Grove, S.K, &Burns, N.,& Gray, J. R.(2013)/黒田裕子, 中木高夫, 逸見功(2015). 看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-(原著第7版). エルゼビア・ジャパン. ③小笠原知枝, 松本光子(2012). これからの看護研究（第3版）. ヌーベルヒロカワ. ④Hulley, Stephen B .,Cummings, Steven R, et al.(2013)/木原雅子, 木原正博(訳)(2014). 医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ(第4版), メディカル・サイエンス・インターナショナル. ⑤牧本清子, 山川みやえ (2020). よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ. 日本看護協会出版会.
評価方法	プレゼンテーションや資料、授業の参加・貢献度：30%、課題「研究論文のクリティーク」：70% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	遠隔授業として参加可能な授業は上記の授業内容に示しています。事前に担当教員に申し出てください。
オフィスアワー	百田：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	看護理論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	看護の専門職者として看護現象の理解を深めるために、看護実践の基盤となるさまざまな看護理論の理解を通して理論と実践のつながりを探求する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3, 1-6, 2-5, に対応する。
到達目標	1. 看護の専門性と理論のつながりを理解することができる。 2. 看護実践における理論の必要性を理解することができる。 3. 看護理論の評価を通して、実践における意義を探求することができる。 4. 自らの看護実践を看護理論を通して分析することができる。

授業内容

回	内 容	予習復習	遠隔授業	担当教員
第1回	看護科学（看護学）の歴史と動向	①pp.2-3, pp.54-73 ②pp.14-17		山村
第2回	看護科学の中心概念	①pp.3-9 ②pp.2-5		山村
第3回	看護理論の実践・教育・研究における意義	①pp.9-30 ②pp.10-13		山村
第4回	看護理論の変遷、理論の種類	①pp.31-44 ②pp.6-9		山村
第5回	看護理論の評価	①pp.45-53 ②pp.10-13		山村
第6回	オレム看護理論　理論の分析と理論のクリティーク	配付資料（オレム看護理論に関する文献）		山村
第7回	レイニンガー看護理論　理論の分析と理論のクリティーク	配付資料（レイニンガー看護理論に関する文献）		山村
第8回	ロジャーズ看護科学　理論の分析と理論のクリティーク	配付資料（ロジャーズ看護科学に関する文献）		山村
第9回	キング看護理論　理論の分析と理論のクリティーク	配付資料（キング看護理論に関する文献）		山村
第10回	ベナー看護理論　理論の分析と理論のクリティーク	配付資料（ベナー看護理論に関する文献）		山村
第11回	看護理論の評価と実践への活用 ① オレム看護理論の評価と実践への活用に関するディスカッション	配付資料（オレム看護理論に関する文献）	可能です（事前に担当教員に連絡ください）	山村
第12回	看護理論の評価と実践への活用 ② レイニンガー看護理論の評価と実践への活用に関するディスカッション	配付資料（レイニンガー看護理論に関する文献）	可能です（事前に担当教員に連絡ください）	山村

第13回	看護理論の評価と実践への活用 ③ ロジャーズ看護科学の評価と実践への活用に関するディスカッション	配付資料（ロジャーズ看護科学に関する文献）	可能です（事前に担当教員に連絡ください）	山村
第14回	看護理論の評価と実践への活用 ④ キング看護理論の評価と実践への活用に関するディスカッション	配付資料（キング看護理論に関する文献）	可能です（事前に担当教員に連絡ください）	山村
第15回	看護理論の評価と実践への活用 ⑤ ベナー看護理論の評価と実践への活用に関するディスカッション	配付資料（ベナー看護理論に関する文献）	可能です（事前に担当教員に連絡ください）	山村

参考文献	①筒井真優美(編)(2020). 看護理論家の業績と理論評価(第2版). 医学書院. ②筒井真優美(編)(2019). 看護理論 看護理論21の理解と実践への応用 改訂第3版. 南江堂. その他は、初回授業で文献リストを配布する。
予習復習	事前に理論に関連した文献を読み、時代背景や理論の概要を調べる。また、自らの看護実践を理論によって分析し、疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行うので、討議により理解が深められるようにする。授業後は、討議内容を踏まえ復習する。
評価方法	授業への参加・取り組み：50％、プレゼンテーション：50％ 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「看護理論」に該当する。 第10回までは対面とします。第11回以降は遠隔授業も可能ですが、その場合は、事前に担当教員に連絡ください。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	看護倫理
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 川西 美佐
中信 利恵子
山村 美枝
百田 武司
奥村 ゆかり
戸村 道子
木下 真吾

授業概要	看護実践の基盤となる倫理の基礎的知識について理解する。そして、文献や事例の分析をとおして、自らの専門分野の看護現場において看護職が直面する倫理的問題・葛藤について、関係者間での倫理的調整を行うための倫理的基盤とする。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-4. 1-5. 1-6. 2-4. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 医療における倫理の基礎知識について述べられる。 2. 看護職が直面する倫理的問題・葛藤について説明できる。 3. 看護現場における倫理的問題・葛藤を分析し、関係者間で倫理的調整を行うための方法を提案できる。 4. 看護倫理にもとづく実践を行うための看護専門職の役割と行動について、自己の考えを述べられる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	現代の医療現場において看護師が直面する倫理的問題・葛藤	①pp.73-344 ②pp.19-48 ③pp.36-45	川西
第2回	医療における倫理原則	①pp.73-344 ②pp.19-48 ③pp.36-45	川西
第3回	看護倫理の基礎知識① （患者の権利、看護者の倫理綱領）	②pp.65-75 ③pp.94-99	川西
第4回	看護倫理の基礎知識② （バスターナリズム、インフォームド・コンセント、個人情報保護と自己情報コントロール権）	③pp.87-120	川西
第5回	看護倫理の基礎知識③ （がん患者の意思決定支援と苦痛の緩和）	②pp.143-158	木下
第6回	看護倫理の基礎知識④ （高齢者の意思決定支援）	③pp.137-146	百田
第7回	看護倫理の基礎知識⑤ （出生前診断における意思決定支援）	②pp.89-128	奥村
第8回	看護倫理の基礎知識⑥ （子どもの権利、インフォームド・アセント）	②pp.224-225	山村

第9回	看護倫理の基礎知識⑦ (精神障がい者の権利とアドボカシー)	②pp.49-51,129-142 ③pp.75-81	戸村
第10回	倫理的問題・葛藤に対する関係者間での倫理的調整	②pp.75-84 ④pp.2-15	川西
第11回	倫理的問題・葛藤に対する倫理的調整① がん患者と家族の意思決定支援と倫理的課題に関する事例に基づく討論	③pp.137-146	木下
第12回	倫理的問題・葛藤に対する倫理的調整② 精神障がい者の権利擁護と倫理的課題に関する事例に基づく討論	③pp.163-171	戸村
第13回	倫理的問題・葛藤に対する倫理的調整③ 小児の権利擁護と倫理的課題に関する事例に基づく討論	③pp.155-162	山村
第14回	倫理的問題・葛藤に対する倫理的調整④ 災害時における倫理的課題ハリケーン・カトリーナの事例に基づく討論	③pp.121-124	中信
第15回	看護倫理にもとづく実践を行うための看護専門職の役割と行動	②pp.203-242	川西

参考文献	①Beauchamp, T. L., & Childress, J. F. (2001) /立木教夫, 足立智孝 (訳) (2009) . 生命医学倫理 (第5版) . 麗澤大学出版会. ②Fry, S. T., & Johnstone, M. (1994) /片田範子, 山本あい子 (訳) (2010) . 看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド(第3版). 日本看護協会出版会. ③鶴若麻理, 長瀬雅子(2022). 看護師の倫理調整力 専門看護師の実践に学ぶ (第2版) . 日本看護協会出版会.
評価方法	プレゼンテーション：50%、課題レポート：50% 授業中にプレゼンテーション内容についてコメントを返す。課題レポートはコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「看護倫理」に該当する。
オフィスアワー	川西：金曜日 11：00～13：00 ／ 中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 百田：金曜日 12：30～14：30 ／ 奥村：金曜日 12：30～14：30 山村：金曜日 11：00～13：00 ／ 戸村：火曜日 16：30～17：30 ／ 木下：金曜日 12：30～13：30

年度	2025
科目名	赤十字と災害看護学
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 東 智子

授業概要	赤十字誕生の経緯と赤十字運動の歴史を学び、災害や紛争等による健康危機に対する赤十字の足跡を理解する。さらに、昨今の国内外で発生する自然災害あるいは紛争等の危機的な状況が、社会/集団/個人の健康にどのような影響をもたらすのかを深く検討し、看護専門職としてどのように介入するかを熟考するとともに、赤十字の基本原則や人道支援の国際規範との関連性を探究する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-4. 1-5. 1-6. 2-4. に対応する。
到達目標	1. 国際赤十字および日本赤十字の発祥とその活動について説明できる。 2. 赤十字の理念および国際人道法について説明できる。 3. 災害や紛争に対する赤十字の人道支援について説明できる。 4. 昨今の人道支援と赤十字の基本原則や国際規範との関連性を自分の言葉で述べることができる。
授業内容	授業の進め方 ①参加学生で担当する授業内容を分担する。 ②学生は担当する授業内容について文献等を集め、資料を作成する。 ③資料を基にプレゼンテーションを行う。 ④参加者全員でディスカッションを行い学びを深める。（ディスカッションのテーマは担当学生が考えておく） ⑤学生は輪番制でディスカッションの内容を記録する。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	人道思想の発祥：国際赤十字の誕生とその発展	東
第2回	人道思想の発祥：日本赤十字の誕生とその発展	東
第3回	世界の社会状況から考える人道危機とは何か	東
第4回	国際人道法、ジュネーブ条約の発展－人権をどう守るか	東
第5回	人道支援の国際規範：Code of Conduct、スフィア基準	東
第6回	赤十字の基本原則とその適応	東
第7回	人間の安全保障とは何か	東
第8回	事例を通して人道支援のあり方、赤十字の基本原則や国際規範との関連性を考える ①ロシア・ウクライナ戦争	東
第9回	事例を通して人道支援のあり方、赤十字の基本原則や国際規範との関連性を考える ②イスラエル・パレスチナ紛争	東
第10回	事例を通して人道支援のあり方、赤十字の基本原則や国際規範との関連性を考える ③日本航空123便墜落事故	東
第11回	事例を通して人道支援のあり方、赤十字の基本原則や国際規範との関連性を考える ④阪神・淡路大震災	東
第12回	事例を通して人道支援のあり方、赤十字の基本原則や国際規範との関連性を考える ⑤東日本大震災	東

第13回	事例を通して人道支援のあり方、赤十字の基本原則や国際規範との関連性を考える ⑥熊本地震	東
第14回	事例を通して人道支援のあり方、赤十字の基本原則や国際規範との関連性を考える ⑦COVID-19 パンデミック	東
第15回	事例を通して人道支援のあり方、赤十字の基本原則や国際規範との関連性を考える ⑧能登半島地震	東

参考文献	①アンリー・デュナン(1959). ソルフェリーノの思い出. 日本赤十字社. ②ジャン・ピクテ(2006). 解説 赤十字の基本原則－人道機関の理念と行動規範. 東信堂 ③枅居孝・森正尚(2014). 新版 世界と日本の赤十字－世界最大の人道支援機関の活動. 東信堂 ④スフィアハンドブック：人道憲章と人道支援における最低基準　日本語版、第4版、東京、日本、2019 https://jqan.info/documents/ ⑤その他：ICRC、IFRC、日本赤十字社のホームページ、授業内容に関連したウェブサイトなど
予習復習	【予習】 学生は以下の項目について調べ、資料を作成する。 ①災害および紛争の概況 ②どのような支援（看護）活動が行われたのか ③過去の災害から得られた教訓がどのように活かされたのか、また活かされなかったのか ④新たに見い出された課題は何か ⑤赤十字の基本原則や国際規範と照らし合わせて、行われた活動の意義は何か、また今後行うべき活動とはどのようなものか ⑥その他 【復習】 授業での学びや疑問点、次回授業でさらに深めたいディスカッション等について「授業コメント」に記載する。
評価方法	演習形式で行う。 評価は、演習への参加状況およびプレゼンテーション（50％）、最終のレポート課題（50％）で総合的に行う。 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。最終レポートはコメントをつけて返却する。
オフィスアワー	東：出勤している金曜日 10:40～12:10

年度	2025
科目名	教育哲学
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 矢野 博史

授業概要	教育は人間に関わるすべてのものとの連関のなかにある営為である。この講義では、以下に示すテーマを扱いながら、教育をその存立根拠から考察していく。教育学は看護学と人間学的な基底を共にしており、この講義における教育の哲学的考察は、人間存在についての洞察を通じて、看護学研究にもつながるものである。また、ここでの教育に関する考察は、看護教育の基礎理論として、将来、看護教育に関わるうえで求められる教育的思考の作法の獲得にもつながるものである。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-2. 2-2. に対応する。
到達目標	1. 教育について論理的に考察するための知見を獲得し、それらを関連付けて説明することができる。 2. 教育に関する出来事を事象の全体的な連関のなかで把握する態度を身につけている。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	教育学の「内」と「外」① 教育ということばの分析	矢野
第2回	教育学の「内」と「外」② 教育の定義/教育のパラドックス	矢野
第3回	教育における「方法」概念の検討 「方法」の限界と機能	矢野
第4回	教育関係の論じ方① 教育モデルの考察	矢野
第5回	教育関係の論じ方② 教育関係の考察	矢野
第6回	学習概念の歴史① 古典的な学習概念	矢野
第7回	学習概念の歴史② 近代以降の学習概念	矢野
第8回	経験と学習の関係 「経験」概念と教育観	矢野
第9回	教育における理論－実践問題① 反省的实践とは	矢野
第10回	教育における理論－実践問題② 教師の熟達化とは	矢野
第11回	教育課程の歴史① 古代・中世の教育とカリキュラム前史	矢野
第12回	教育課程の歴史② 近代以降のカリキュラム論議	矢野
第13回	教育課程の歴史③ 学習観の転換とこれからのカリキュラム研究	矢野
第14回	成人学習と教育 成人学習者の特性と教育的関わり	矢野
第15回	再び教育学の「内」と「外」 自明性の喪失と正当化問題	矢野

参考文献	①今井康雄(編) (2009) . 教育思想史. 有斐閣. ②小笠原道雄(編) (2015) . 教育哲学の課題. 福村出版. ③佐藤学(2004). 改訂版教育の方法. 放送大学教育振興会. ④田中每実(編) (2012) . 教育人間学 臨床と超越. 東京大学出版会. ⑤矢野智司, 今井康雄他 (編) (2009) . 変貌する教育学. 世織書房. ⑥坂越正樹(監修) (2019). 教育的関係の解釈学. 東信堂.
	①各回の講義内容に関するノートを事前に配布する。該当箇所には事前に目を通し、問題意識を深めて講義にのぞむこと。

予習復習	②毎時間の冒頭に前回の内容を振り返るので、復習して質問事項等を整理しておくこと。 ③発展的な学習に際しては、講義ノートに提示する文献や上記の参考文献に示されている文献リストを活用すること。
評価方法	①すべての講義を終えた後に課す期末レポートによって評価を行う（100%）。 ②提出されたレポートについては、コメントをつけて返却する。
オフィスアワー	矢野：金曜日 12：30～14：00

年度	2025
科目名	疫学
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 矢嶋 裕樹
松田 智大
歌田真依

授業概要	疫学は、健康事象の分布とその関連要因を明らかにし、その成果を健康問題の解決に役立てる学問である。本授業では、保健・医療・福祉分野における疫学研究の実施・評価に不可欠な疫学の理論と方法を学ぶ。また、松田智大先生（国立がん研究センター 国際政策研究部長）によるがん疫学、小児QOL研究等先駆的な疫学研究事例および歌田真依先生（放影研）の原爆被爆者追跡研究などを通して、疫学の意義・必要性と疫学的実践の実際について学ぶ。なお、授業は講義形式で進めるが、受講生一人ひとりが疫学的な見方・考え方を深められるように、一部、対話・演習形式と取り入れる予定である。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3, 2-5. に対応する。
到達目標	- 保健・医療・福祉分野における疫学の意義や重要性について説明できる。 - 疫学研究を実施するために必要な疫学的知識・技術を習得する。 - 疫学的視点に基づき、研究・実践・施策を立案・展開・評価することができる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	疫学とは	予習:① 第1章	矢嶋
第2回	疫学指標（有病率、罹患率など）	予習:① 第2章	矢嶋
第3回	効果指標（リスクの指標）	予習:① 第2章	矢嶋
第4回	疫学研究方法①（観察研究）	予習:① 第4章	矢嶋
第5回	疫学研究方法②（介入研究）	予習:① 第4章	矢嶋
第6回	誤差とバイアス	予習:① 第5章	矢嶋
第7回	疫学データの解析（データの可視化）	文献を事前に提示します	矢嶋
第8回	疫学データの解析（統計的検定）	文献を事前に提示します	矢嶋
第9回	疫学データの解析（回帰モデルによる交絡の調整）	文献を事前に提示します	矢嶋
第10回	がんの客観的評価からみた疫学の視点（罹患・死亡）	文献を事前に提示します	松田
第11回	がんの主観的評価からみた疫学の視点（QOL・PRO）	文献を事前に提示します	松田
第12回	原爆被爆者の追跡研究①（集団設定と追跡方法）	文献を事前に提示します	歌田
第13回	原爆被爆者の追跡研究②（どのような結果が得られているか）	文献を事前に提示します	歌田
第14回	疫学研究結果の解釈① （リスクを計算してみる-データと作業方法の説明-）	文献を事前に提示します	歌田
第15回	疫学研究結果の解釈② （リスクを計算してみる-リスクを推定し、解釈する-）	文献を事前に提示します	歌田

参考文献	毎回、資料を配布する。また、教科書を特に指定しないが、予習・復習のため、以下の参考文献を読んでおくこと。 ① 坪野吉孝(2021). 疫学－新型コロナ論文で学ぶ基礎と応用.勁草書房.
予習復習	①毎回、授業に臨む際は、参考書の関連部分を読んでおくこと。また、授業終了後は、配布した資料や参考文献等で復習すること。 ②演習形式の授業では、フリーの統計ソフトEZRを用いた演習を行う。各自ノートパソコンを準備すること。

評価方法	授業への参加度・貢献度（30％）、レポート（70％）により総合的に評価する。課題・レポートについて講義時にコメントをつけて返却する。
オフィスアワー	矢嶋・松田・歌田：講義前後

年度	2025
科目名	統計学
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 梯 正之

授業概要	看護の研究・教育を行う上で必要となる統計的手法に関する知識を、統計解析ソフトウェア（主としてR）を使用した演習を通して学習する。具体的には、仮説検定、区間推定、回帰分析、ロジステック回帰分析、比例ハザード回帰分析などを取り上げる。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-6. 2-2. 2-5. に対応する。
到達目標	1. 仮説検定を理解し、目的に適した検定を使うことができる。 2. 重回帰分析、ロジスティック回帰分析、比例ハザード回帰分析などの多変量解析の手法を理解し、用途に応じた分析を使うことができる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	統計とは、統計ソフトの使い方と準備、データの種類、記述統計	配付資料	梯
第2回	母集団、標本、母集団分布	配付資料	梯
第3回	統計量、標本分布	配付資料	梯
第4回	区間推定と仮説検定	配付資料	梯
第5回	パラメトリック検定	配付資料	梯
第6回	ノンパラメトリック検定	配付資料	梯
第7回	相関分析と単回帰分析	配付資料	梯
第8回	単変量解析と多変量解析の違い	①pp.11-24	梯
第9回	重回帰分析-重回帰モデルとは	①pp.25-46	梯
第10回	重回帰分析-説明変数の扱い方と解釈、残差分析	①pp.47-107	梯
第11回	重回帰分析における交絡とインターアクション	①pp.107-132	梯
第12回	分散分析	①pp.133-159	梯
第13回	オッズ比とロジスティック回帰分析	①pp.160-182	梯
第14回	ロジスティック回帰分析における交絡とインターアクション	①pp.183-206	梯
第15回	比例ハザード回帰分析と傾向スコア分析	①pp.231-259	梯

参考文献	①新谷渉 (2017). みんなの医療統計 多変量解析編. 講談社. （必須文献） ②栗原伸一(2011). 入門統計学. オーム社 ③内田治, 西澤英子 (2012). Rによる統計的検定と推定. オーム社. ④藤井良宜, 佐藤健一, 富田哲司, 和泉志津恵 (2015). 医療系のための統計入門. 実教出版 ⑤柴田康順 (2018). 心理統計の使い方を学ぶ. 大正大学出版会. ⑥星野匡郎・田中久稔 (2016). Rによる実証分析－回帰分析から因果分析へ－. オーム社. ⑦森脇睦子・林田賢史 (2024). いまから始める看護のためのデータ分析－病院電子カルテデータの活用ガイド－. 東京図書. ⑧森脇睦子・林田賢史 (2024). 6ステップで実現する 看護マネジメント・質改善につなげるデータ分析入門. 医学書院.
------	--

予習復習	予習は、シラバス掲載の文献・配布資料や予告・指示などを参考に行う。復習のための、演習問題を適宜だすので指定した期限までにやっておく。質問は随時受け付けるので、学習した内容は次回までに復習しておく。
評価方法	授業への参加・貢献度（授業中に作成したファイルの提出・課題等の提出を含む）：30％、レポート：70％ 課題等で解答・解説が必要なものに関しては資料を配布する。レポートに対する総評を公開する。
オフィスアワー	梯：講義後

年度	2025
科目名	コンサルテーション論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子
札埜 和美
三浦 真衣

授業概要	コンサルテーションのために基本的に必要な知識や技術について理解し、コンサルティとコンサルタントの関係性構築のプロセスについて学習を深める。これらをもとに、保健・医療・福祉領域においてより質の高い援助を提供するために、看護管理者、看護スタッフ、CNSが直面する課題を明確にし、解決に向かう方法を検討する。さらに、コンサルテーションの知識や技術を活用について、文献および院生が体験した事例を分析・検討する。また、講義、討論、およびロールプレイ、CNSによるコンサルテーション実践事例に基づく学習などを取り入れる。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. CNSの役割と高度看護実践を行う上でのコンサルテーションの意義・必要性を理解することができる。 2. コンサルテーションの定義・目的及びその歴史的経緯について説明できる。 3. コンサルテーションの種類とその特徴、成立要件について説明できる。 4. コンサルテーション・プロセスにおける援助関係について探求することができる。 5. コンサルテーションにおける文化的ルール及び計画的フィードバックについて説明できる。 6. コンサルテーションにおける倫理、教育的課題を明確にできる。 7. コンサルテーションにおける専門看護師としての自己の課題を明確にできる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	コースオリエンテーション／CNSの歴史的背景と役割について／コンサルテーション活動とCNSの課題	文献①②③	戸村
第2回	コンサルテーションの定義、目的、歴史的経緯／コンサルテーションの2つのタイプ：課題適応型コンサルテーション、プロセス適応型コンサルテーション	文献①②③	戸村
第3回	コンサルテーションの4つモデル 患者中心のケースコンサルテーション、コンサルティ中心のケースコンサルテーション、プログラム中心管理に関するコンサルテーション、コンサルティ中心管理コンサルテーション	配布資料 文献④	戸村
第4回	クライアントの諸タイプ（コンタクト・クライアント、中間クライアント、プライマリー・クライアント、自覚のないクライアント、究極のクライアント、ノンクライアント）／ノン・クライアントが及ぼす影響	文献④第4章	戸村
第5回	コンサルタントの内面のプロセス／コンサルタントに必要な能力	文献④第5章	戸村
第6回	がん看護専門看護師のコンサルテーションの実践事例と討議	文献①②③⑥	札埜・戸村
第7回	リエゾン精神専門看護師のコンサルテーションの実践と討議	文献①②③⑥	三浦・戸村
第8回	コンサルティとコンサルタントの立場を均等化するプロセスとしての面接法	文献④	戸村
第9回	ケースコンサルテーションの事例検討：1対1のロールプレイ	配布資料及び ④⑥⑦	戸村
第10回	ケースコンサルテーションの事例検討：1対1のロールプレイ（役割交代をして）	配布資料及び ④⑥⑦	戸村

第11回	グループコンサルテーションの事例検討：1対1のロールプレイ（役割交代をして）	配布資料及び④⑥⑦	戸村
第12回	組織コンサルテーション（組織改革とコンサルテーション）事例を交えて	文献①②④⑤	戸村
第13回	院生によるコンサルテーション事例発表とリエゾン精神専門看護師によるスーパービジョンおよび討議	院生が臨床におけるコンサルテーション事例をレポートにまとめる	戸村・三浦
第14回	院生によるコンサルテーション事例発表とがん看護専門看護師によるスーパービジョンおよび討議	院生が臨床におけるコンサルテーション事例をレポートにまとめる	戸村・札幌
第15回	まとめ／コンサルテーションにおける自己の学習課題の明確化	院生が臨床におけるコンサルテーション事例をレポートにまとめる	戸村

参考文献	①Tracy, M., O'Grady, E., & Phillips, S. (2022). Hamric & Hanson's Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach (7th edition). St. Louis, MO: Elsevier. ②Hamric, A. B., & Hanson, C. M. (2017)/中村美鈴、江川幸二（監訳）. 高度実践看護 統合的アプローチ.へるす出版. ③Lippitt, G.,& Lippitt, R. (1986). The Consulting Process in Action. San Francisco, CA: Jossey-Bass Pfeiffer ④Schein, E. H.(2012）/稲葉元吉（訳）（2002）.プロセス・コンサルテーション. 白桃書房. ⑤Anton,O.(2006）/武井麻子（監訳）（2014）. 組織のストレスとコンサルテーション. 金剛出版. ⑥Underwood, P./南裕子(監修)（2003）. 看護理論の臨床活用. 日本看護協会出版会. ⑦Hill, C. E.(2004）/藤生英行(監訳)（2014）.ヘルピングスキル. 金子書房.
評価方法	①授業への参加・貢献度20％ ②プレゼンテーション20％ 課題レポート60％。 課題に対するプレゼンテーションでは、参加者で意見交換を行い、コメントを行う。 課題レポートには、コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程における「コンサルテーション論」に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30 ／ 札幌・三浦：講義前後

年度	2025
科目名	看護政策論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 林 千冬
益 加代子

授業概要	1. わが国における医療・看護政策の変遷と、政策決定過程の基本的概念と実際とを理解する。 2. 看護に関する政策決定過程の事例をもとに、関連諸団体の力学的な相互関係を理解する。 3. 今日の看護をめぐる政策の諸課題を明らかにし、看護職者が、実践のおよび研究的な側面から、これら諸課題にどのように取り組むかを考察する。 4. 政策策定に必要な諸能力について理解する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-4, 1-6, 2-4, に対応する。
到達目標	1. 現場の課題を元に看護政策を考えそれを推進するプロセスを理解し行動に活かすことができる。 2. 政策過程への関与を意識しつつ看護学を追究できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	わが国の医療・看護政策の歴史と特徴について、保助看法、医療法、健康保険法ならびに介護保険法の歴史を中心に講義する。	林
第2回	政策決定のプロセスについて、新法制定過程の実例を示しながら講義する。	林
第3回	政策決定における圧力団体の機能について、保助看法のさまざまな事例を示しながら講義する。	林
第4回	政策決定における圧力団体の機能について、保助看法のさまざまな事例を示しながら講義する。	林
第5回	政策を考える社会的な視点と、社会の視点からの政策課題の把握と整理	益
第6回	政策を所与の外部環境としてでなく主体的に捉えた現場の課題からの構築法	益
第7回	課題を政策化するための課題の把握力と体系化のプロセス	益
第8回	政策を生み出す企画力と社会課題としての整理法	益
第9回	政策を実現していくための問題解決の流れと政策実現ステップ	益
第10回	政策実現のための社会システムづくりとコーディネート力の理解	益
第11回	地域医療構想における看護政策の課題について、プレゼンテーションと討論を通して理解する①-地域包括ケアにおける施設内看護の課題	林
第12回	地域医療構想における看護政策の課題について、プレゼンテーションと討論を通して理解する②-地域包括ケアにおける在宅看護の課題	林
第13回	「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会報告書」における看護政策の課題について、プレゼンテーションと討論を通して理解する。①-タスクシフトを中心に	林
第14回	「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会報告書」における看護政策の課題について、プレゼンテーションと討論を通して理解する。②-協働を中心に	林
第15回	専攻する看護分野における看護政策の課題と目標・戦略について、プレゼンテーションと討論を通して考える。	林

	※授業資料は授業時間に配布します。 ①二木立（2020）コロナ危機後の医療・社会保障改革.勁草書房。 ②二木立（2020）2020年代初頭の医療・社会保障：コロナ禍、全世代型社会保障・高額新薬.勁草書房。
--	--

参考文献	③権丈善一（2023）ちょっと気になる医療と介護(第3版) ④権丈善一・権丈英子（2022）もっと気になる社会保障. 勁草書房. ⑤権丈善一（2020）もっと気になる社会保障V3. 勁草書房. ⑥津川友介(2020) 世界一わかりやすい「医療政策」の教科書. ⑦尾形裕也（2022）この国の医療のかたち 医療政策の動向と課題 2025年のヘルスケアシステム（看護管理実践Guide）. 日本看護協会出版会. ⑧島崎謙治(2020) 日本の医療 増補改訂版: 制度と政策.東京大学出版会. ⑨野村洋子. (2015). 看護制度と政策. 法政大学出版会. ⑩見藤隆子ら. (2017). 看護職者のための政策過程入門(第2版). 日本看護協会出版会. 他に、雑誌として 社会保険旬報（社会保険研究所）と週刊社会保障（株式会社法研）は図書館で目を通すことを強く推奨する。
予習復習	林：授業開始前までに参考文献①、②を読んでおくこと。基本的な知識理解には参考文献③を活用すること。 益：授業において建設的な議論ができるように、現場だけでは解決できない課題を探し出し、それを組織の課題とし社会のシステムとして解決していくための方策を考えて事例として準備して臨むこと。
評価方法	①林：プレゼンテーション(40%)、ディスカッションにおける発言(10%)、最終レポート(50%)で評価する。 ②益：授業(50%)及び討論(50%)への参加度・貢献度を総合して評価する。 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「看護政策論」に該当する。
オフィスアワー	林・益：講義前後

年度	2025
科目名	保健福祉行政論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 水馬 朋子
高原 伸幸

授業概要	わが国における保健医療福祉行政施策にかかわる課題について国際的な観点から理解し、今後の地域保健医療福祉サービスの構築のあり方について現状を踏まえ考察する。受講院生が予定している研究テーマを題材として保健医療福祉関連の社会資源とどのように関わっているかを把握並びに考察することによって、自分を取り組もうとしている研究の社会的な意義および地域保健医療福祉等における看護職の役割を認識することを目的とする。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-2. 1-3. 1-4. 1-6. 2-4. に対応する。
到達目標	1. わが国における保健医療福祉行政施策に関わる課題について理解できる。 2. 保健医療福祉関連の社会資源やサービス提供体制の課題を理解し、課題解決の方策を考えることができる。 3. 自分を取り組もうとしている研究に関連した保健医療福祉行政の施策の現状を理解できる。

授業内容

回	内 容	予習復習	担当教員
第1回	「わが国における保健医療福祉行政の現状と課題」	①第1編、第4編第1章 ②第1章	水馬
第2回	「わが国における保健医療福祉行政の課題（健康づくり）」	①第3編第1章	水馬
第3回	「地域ケアシステム（高齢者介護と障害福祉を中心に）」 ①地域包括ケアシステム（医療介護連携、認知症施策等）	③R5年版第7章pp292～319	高原
第4回	「地域ケアシステム（高齢者介護と障害福祉を中心に）」 ②障害福祉施策の展開	③R5年版第9章pp404～418	高原
第5回	「子どもに係る施策と課題（医療的ケア児の支援）」	レジュメを用意	高原
第6回	「子どもに係る施策と課題（子育て支援、子どもの貧困など）」	③R5年版第1章pp148～169	高原
第7回	「孤独孤立対策と生活困窮者自立支援等の施策課題」	③R5年版第1部pp3～145	高原
第8回	「地域共生社会の推進に係る諸課題について」	③R5年版第4章pp240～249	高原
第9回	「わが国における保健医療福祉行政の課題（母子保健）」	①第3編 第2章母子保健 ②第4章 子ども・家庭のために	水馬
第10回	「わが国における保健医療福祉行政の課題（精神保健）」	①第3編 第2章精神保健 ②第4章 精神科における医療サービス、障害者・障害児サービスのガイド	水馬
第11回	「わが国における保健医療福祉行政の課題（災害保健）」	①第1編 保健医療行政の動向、健康危機管理体制、第4編災害時医療 第9編災害廃棄物	水馬
第12回	「わが国における保健医療福祉行政の課題（高齢者保健）」	①第5編 第1章、第2章高齢者福祉等 ②第4章 高齢者サービスのガイド	水馬
第13回	「わが国における保健医療福祉行政の課題（難病）」	①第3編 第4章 難病対策 ②第4章 難病患者への支援	水馬

第14回	「わが国における保健医療福祉行政の課題（感染症）」	①第3編 第3章感染症対策	水馬
第15回	「わが国における保健医療福祉行政の課題（がん対策）」	①第3編 第4章がん対策	水馬

参考文献	①厚生労働統計協会(2025). 国民衛生の動向2025/2026. 厚生労働統計協会. ②N P O 法人日本医療ソーシャルワーク研究会(2025). 医療福祉相談ガイドブック2025年度版. 明石書店. ③厚生労働省白書(令和5年版). 厚生労働省. ※厚生労働省HPからダウンロード可、必要に応じて令和6、7年度版を追加予定 ④令和6年版こども白書, こども家庭庁. ※こども家庭庁HPからダウンロード可
予習復習	参考文献の指定箇所を読んで参加してください。各回、記載している文献等で自己学修し、講義に臨み、終了後は資料、文献で復習しましょう。
評価方法	講義・ディスカッションへの参加度・プレゼンテーション（40％）、レポート（60％）により総合的に評価します。授業中にプレゼンテーション内容や方法についてコメントを返却します。
備考	感染症対応など必要時、遠隔授業を行います。
オフィスアワー	水馬：土曜日 11：00～12：00 ／ 高原：講義前後

年度	2025
科目名	看護教育学
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
矢野 博史
◎ 田村 由美

授業概要	社会の変化に対応できる看護基礎教育及び看護継続教育における教育の機能と役割を理解するとともに、生涯教育としての人材育成のあり方を探究する。さらに、看護教育プログラムの作成法、教育システム教授学習、教育方法、評価についての基本的理論を理解する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-2. 1-3. 1-4. 1-5. 1-6. 2-2. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 看護職の人材育成に関わる政策及び学習理論等の基礎的知識を理解する。 2. 看護基礎教育における教育カリキュラム、講義・演習・実習の指導案作成、教育方法、評価ための基礎知識を理解する。 3. 看護職のキャリア開発について、人材育成システムの基本的考え方を理解し、今後を展望できる。 4. 看護基礎教育及び継続教育における倫理的配慮の重要性を理解する。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	これからの看護の機能と教育のあり方ー政策と看護教育	資料配布	田村
第2回	社会の変化に対応できる生涯教育としての看護職の人材育成	資料配布	田村
第3回	看護基礎教育および継続教育と学習理論①学習支援に必要なコンピテンシー	資料配布	矢野
第4回	看護基礎教育および継続教育と学習理論②経験学習とリフレクション	資料配布	矢野
第5回	看護教育カリキュラムの変遷、カリキュラムとは	資料配布	田村
第6回	学内における授業設計 ：講義法・演習	最新の文献を検索	田村
第7回	看護基礎教育ならびに継続教育におけるプログラム作成の理論 プログラム作成時の留意点	資料配布	田村
第8回	実践の場における授業設計 ：実習指導	最新の文献を検索	田村
第9回	教育パラダイムの変化、「学びと能力」を育成する効果的な教育方法	最新の文献を検索	田村
第10回	実習において学びを育む	最新の文献を検索	田村
第11回	教育評価の理論(講義、演習の評価)	最新の文献を検索	田村
第12回	実習の評価方法(何を、どのように評価するか)	最新の文献を検索	田村
第13回	人を育てる看護教育のシステム（新人教育と実践の場の指導者）	最新の文献を検索	田村
第14回	人を育てる看護教育のシステム（キャリア開発とクリニカルラダー）	最新の文献を検索	田村
第15回	看護学ならびに継続教育における倫理的配慮	最新の文献を検索	田村

参考文献	①Billings,D.M.&Halstead,J.A.Teaching in Nursing A Guide for Faculty,6th.ed(2020),佐々木幾見,奥宮暁子,小林美子監訳（2021）.看護を教授すること(原著第6版) 大学教員のためのガイド,医歯薬出版. ②小山真理子（編）(2000).看護教育のカリキュラム.医学書院. ③浅田匡,古川治（編）（2021）.教師の学習と成長ー人間教育を実現する教育指導のためにー.ミネルヴァ書房. ④浅田匡,河村美穂（編）（2021）.教育における評価の再考ー人間教育における評価とは何かー.ミネルヴァ書房.
------	---

評価方法	プレゼンテーションの資料と講義への参加度 20% 課題レポート 80% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「看護教育論」に該当する。 「教育哲学」の受講を推奨する。
オフィスアワー	田村：金曜日 12：10～14：00 ／ 矢野：金曜日 12：30～14：00

年度	2025
科目名	看護管理学
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 村田 由香

授業概要	組織運営に関する諸理論、及び組織における人間の行動について理論を活用しながら、実践の場におけるマネジメントとリーダーシップのあり方を検討する。 さらに、質の高いケアを提供するために必要な保健医療福祉従事者間の調整や協働、高度実践看護師としての役割を果たすための管理者間連携・調整、組織における役割に関する知識を修得する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-2. 1-3. 1-4. 1-5. 1-6. 2-2. 2-4. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 組織運営に関する諸理論、及び組織における人間の行動について理論を理解できる。 2. 臨床現場において有効なリーダーシップとマネジメントについて理解できる。 3. 看護の質評価の方法について理解できる。 4. 看護の質の向上を図るための多職種間の調整や協働、情報管理に関しての知識を理解できる。 5. 社会の動向に応じた看護組織運営について考察できる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	看護管理概説 看護管理の歴史と現状課題	村田
第2回	集団行動の基礎 リーダーシップに関する現場の課題	村田
第3回	組織の成り立ちと構造 組織文化 看護組織の特徴	村田
第4回	看護サービス管理の特性 看護サービス管理のプロセス	村田
第5回	看護の質評価 ① 質評価とはなにか 医療の質評価の方法と評価	村田
第6回	看護の質評価 ② 看護の質評価とはなにか 看護の質評価の方法と評価	村田
第7回	看護の質評価 ③ チームワークと協働、調整	村田
第8回	看護の質評価 ④ 情報管理	村田
第9回	看護の質を高めるマネジメント ① 業務分析と業務改善	村田
第10回	看護の質を高めるマネジメント ② コンフリクトと交渉	村田
第11回	看護の質を高めるマネジメント ③高度 実践看護師の組織での役割 管理者連携・調整	村田
第12回	看護の質を高めるマネジメント ④ 医療安全推進の経緯と現状 医療安全文化醸成のあり方	村田
第13回	看護の質を高めるマネジメント ⑤ 臨床におけるリスクマネジメント(現状分析)	村田
第14回	看護の質を高めるマネジメント ⑥ 労務管理とストレスマネジメント	村田
第15回	看護における人的資源活用 専門職業人とキャリア開発	村田

参考文献	①井部俊子(2025). 看護管理学習テキスト(第3版)第1巻 ヘルスケアシステム論, 日本看護協会出版会. ②井部俊子(2025). 看護管理学習テキスト(第3版)第2巻 看護サービスの質管理, 日本看護協会出版会. ③井部俊子(2025). 看護管理学習テキスト(第3版)第3巻 人材管理論. 日本看護協会出版会.
------	---

	④井部俊子(2025). 看護管理学習テキスト(第3版)第4巻 組織管理論. 日本看護協会出版会. ⑤Stephben P.Robbins.(2005)/高木晴夫(訳)(2009).組織行動のマネジメント,ダイヤモンド社.
予習復習	各回のテーマに関連ある自分で検索した文献、または指定文献を精読し、疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。授業後に自己課題を明確にする。
評価方法	プレゼンテーション 50% 看護実践の場におけるマネジメントに関する 課題レポート50% 提出されたレポートには、次回の授業で、特徴的な見解や誤解についてコメントする。または、コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「看護管理論」に該当する。 第1,2回は対面授業です。第3回以降は遠隔授業も可能です。その場合は事前に担当教員に連絡ください。
オフィスアワー	村田：金曜日 12：30～14：00

年度	2025
科目名	臨床薬理学
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
山村 美枝
戸村 道子
◎ 木村 康浩
形部 宏文
二五田 基文

授業概要	専門看護師としての臨床薬理学に関する知識を学修し、臨床判断する力、説明する技術を高める。具体的には、緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識と看護技術を学ぶ。この授業科目は、ディプロマポリシー1-4. 2-1. 2-3. に対応する。
到達目標	1. 臨床判断に必要な薬理学について理解できる。 2. 各種疾患の治療に用いられる代表的な薬剤の薬物動態、作用・副作用・相互作用について説明できる。 3. 薬剤の投与方法や投与後のモニタリングについてその意義を理解できる。 4. 薬物療法を受ける対象に対する薬物療法の意義とその症状管理、服薬管理・指導などケアについて説明できる。 5. 各専門分野の特徴を踏まえて、実践的な臨床判断について説明できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	臨床薬理学に関する基本的理解	木村
第2回	薬剤の体内動態と相互作用に関する基礎知識、薬剤に関する緊急応急処置	木村
第3回	中枢神経系疾患 ・パーキンソン病の症例をもとにした薬物動態、投与後のモニタリング、症状調整、慢性疾患管理および服薬管理	木村
第4回	代謝系疾患 ・主な代謝系疾患に用いる薬剤の症例をもとにした薬物動態、投与後のモニタリング、症状調整、慢性疾患管理および服薬管理	木村
第5回	循環器系疾患 ・主な循環器系疾患に用いる薬剤の症例をもとにした薬物動態、投与後のモニタリング、症状調整、慢性疾患管理および服薬管理	形部
第6回	呼吸器系疾患 ・主な呼吸器疾患に用いられる薬剤の症例をもとにした薬物動態、投与後のモニタリング、症状調整、慢性疾患管理および服薬管理	形部
第7回	消化器系疾患 ・主な消化器疾患に用いられる薬剤の症例をもとにした薬物動態、投与後のモニタリング、症状調整、慢性疾患管理および服薬管理	二五田
第8回	免疫系疾患・感染症 ・免疫系疾患と感染との関連や免疫系疾患に用いられる薬物動態、投与後のモニタリングと服薬管理 ・特にHIV感染に関する症状調整や長期疾患管理	二五田
第9回	感染症 ・特に抗生物質を用いた場合の薬物動態、投与後のモニタリング、症状調整、慢性疾患管理および服薬管理	木村
第10回	がん薬物療法 ・特にがん化学療法における主な薬剤の薬物動態、投与後のモニタリング、症状調整、服薬管理	木村

第11回	内分泌系疾患・生殖系疾患 ・特に内分泌器官とホルモンとの関係、主な内分泌系疾患と生殖系疾患に用いられる薬剤の症例をもとにした薬物動態、投与後のモニタリング、症状調整、慢性疾患管理および服薬管理	形部
第12回	腎・泌尿器系疾患 ・主な腎・泌尿器系疾患に用いる薬剤の症例をもとにした薬物動態、投与後のモニタリング、症状調整、慢性疾患管理および服薬管理	形部
第13回	精神疾患 ・主な精神疾患に用いる薬剤の症例をもとにした薬物動態、投与後のモニタリング、症状調整、慢性疾患管理および服薬管理	木村
第14回	学生による事例検討(専門看護師として求められる臨床判断に関する発表) ① ・学生が取り上げた事例の薬剤に関する薬物動態の説明、臨床における問題点や課題、それに対する看護師としての対応及び課題などを発表し、ディスカッションする	木村、戸村 山村
第15回	学生による事例検討(専門看護師として求められる臨床判断に関する発表) ② ・学生が取り上げた事例の薬剤に関する薬物動態の説明、臨床における問題点や課題、それに対する看護師としての対応及び課題などを発表し、ディスカッションする	木村、戸村 山村

参考文献	適宜提示する。
予習復習	プレゼンテーションではいくつかの疾患をテーマにし、実際の症例を自身の経験あるいは文献等から選び、そこで用いられる薬剤について参考文献等で自ら調べたことを発表するため、そのまとめ方については講義内容を参考にすること。なお、各疾患領域における代表的な薬剤の名称は自己学習し講義に臨むことが望ましい。
評価方法	授業への参加態度（意欲や発言等）50%、プレゼンテーションおよびその要旨提出50% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「臨床薬理学」に該当する。
オフィスアワー	木村・形部・二五田：講義前後 ／ 戸村：火曜日 16：30～17：30 ／ 山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	病態生理学
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
中信 利恵子
山村 美枝
◎ 朝原 秀昭
戸村 道子

授業概要	高度看護実践の基盤となる人体の構造、機能について理解する。また、対象の全身にわたる病態生理学的变化について、エビデンスに基づき理解する。さらに、看護を实践するうえで知っておかなければならない代表的な疾患について、原因、病態生理、臨床症状、治療法、予後などについて学修するとともに、患者の状況を理解するためには、どのような情報が必要か、また、得られた情報をどのように解釈するかを学ぶ。それらを基に、専門看護師として臨床看護判断を行うために必要な知識と技術について理解する。 この授業科目は、ディプロマポリシー－1-3. 2-1. に対応する。
到達目標	1. 人体の構造と機能について理解することができる。 2. 代表的疾患の原因や発症機序、疾病に伴い出現する症状のメカニズムについて説明できる。 3. 対象者の病態生理学的变化を考慮した看護について考えることができる。

授業内容

回	内 容	予 習 復 習	担当教員
第1回	病態生理と看護学。自分が何を知らないのか、なぜ今まで知らないままだったのか、自分が何をしなければならないのか等について考える。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原
第2回	循環器系に炎症、感染、血管障害、免疫系障害、腫瘍性病変など異常が生じた場合の状態の変化とそれらが生じる生理学的機構を論理的に考察する。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原
第3回	呼吸器系に炎症、感染、血管障害、免疫系障害、腫瘍性病変など異常が生じた場合の状態の変化とそれらが生じる生理学的機構を論理的に考察する。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原
第4回	血液・免疫系に炎症、感染、血管障害、腫瘍性病変など異常が生じた場合の状態の変化とそれらが生じる生理学的機構を論理的に考察する。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原
第5回	消化器系に炎症、感染、血管障害、免疫系障害、腫瘍性病変など異常が生じた場合の状態の変化とそれらが生じる生理学的機構を論理的に考察する。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原

第6回	腎・泌尿器系に炎症、感染、血管障害、免疫系障害、腫瘍性病変など異常が生じた場合の状態の変化とそれらが生じる生理学的機構を論理的に考察する。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原
第7回	内分泌系に炎症、感染、血管障害、免疫系障害、腫瘍性病変など異常が生じた場合の状態の変化とそれらが生じる生理学的機構を論理的に考察する。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原
第8回	代謝系に炎症、感染、血管障害、免疫系障害、腫瘍性病変など異常が生じた場合の状態の変化とそれらが生じる生理学的機構を論理的に考察する。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原
第9回	脳・神経系に炎症、感染、血管障害、免疫系障害、腫瘍性病変など異常が生じた場合の状態の変化とそれらが生じる生理学的機構を論理的に考察する。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原
第10回	運動器系に炎症、感染、血管障害、免疫系障害、腫瘍性病変など異常が生じた場合の状態の変化とそれらが生じる生理学的機構を論理的に考察する。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原
第11回	生殖器系に炎症、感染、血管障害、免疫系障害、腫瘍性病変など異常が生じた場合の状態の変化とそれらが生じる生理学的機構を論理的に考察する。	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原
第12回	事例検討① 高次脳機能障害の病態生理と看護事例	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原・戸村
第13回	事例検討② がん性疼痛の病態生理と看護事例	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原・中信
第14回	事例検討③ リンパ浮腫の病態生理と看護事例	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原・中信
第15回	事例検討④ 水と電解質の病態生理と看護事例	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。	朝原・山村

参考文献	①Fauci, A., Hauser, S., Longo, D., Jameson, J., Loscalzo, J. & Kasper, D. (2015)/福井次矢, 黒川清(監修)(2017). ハリソン内科学(第5版). メディカルサイエンスインターナショナル. ②Kumar, V., Abbas, A. K. & Aster, J. C. (2012)/豊國伸哉, 高橋雅英(訳)(2014). ロビンズ基礎病理学. 丸善出版. ③Guyton. A. C. & Hall, J. E. (2005)/御手洗玄洋, 間野忠明, 小川徳雄, 永坂鉄夫, 伊藤嘉房, 松井信夫(訳)(2010). ガイトン生理学. エルゼビア・ジャパン. ④Nelson, D. L. & Cox, M. M. (2012)/川畠敏祐, 中山和久(編)(2015). レーニンジャーの新生化学. 廣川書店.
予習復習	対象となる疾患の病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握していること。検査等に関しては、原理や解釈についても理解しておくこと。講義後は理解が十分でない部分を成書、論文（英語論文を検索し、どうしても最適なものがない場合のみ日本語の論文を選ぶこと）などで補強すること。
評価方法	症例検討のプレゼンテーション（100％）、発表時にコメントする。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「病態生理学」に該当する。
オフィスアワー	朝原：月曜日 8：30～9：30 ／ 戸村：火曜日 16：30～17：30 ／ 中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	フィジカルアセスメント
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 川西 美佐
中信 利恵子
戸村 道子

授業概要	複雑な健康問題をもった対象者の健康状態と生活への影響について、系統的に観察するための問診技術とフィジカルイグザミネーション技術を習得する。また、観察した情報を看護介入に活用するための臨床看護判断について学ぶ。さらに、看護実践におけるフィジカルアセスメントの活用に関する課題と今後の展望を考察する。 この授業科目は、 ディプロマポリシー1-1. 1-3. 2-1. に対応する。
到達目標	1. 対象者の健康状態と生活への影響を観察するための問診とフィジカルイグザミネーションを実施できる。 2. 収集した情報を看護介入に活用するための臨床看護判断を行うことができる。 3. 複雑な症状・徴候をもつ事例に対するフィジカルアセスメント・シミュレーション演習において、必要な観察を実施し臨床判断を行うことができる。 4. 自己の看護実践においてフィジカルアセスメントを活用するための課題と展望について述べられる。

授業内容

回	内 容	予習復習	担当教員
第1回	フィジカルアセスメントにおける臨床推論のプロセス 問診とフィジカルイグザミネーションの基本技術	①pp.2-23 ②pp.46-55 ③pp.3-102	川西
第2回	呼吸器系のアセスメント①（全身への酸素供給障害）	①pp.100-137 ②pp.56-95 ③pp.105-142,295-334	川西
第3回	呼吸器系のアセスメント②（換気障害）	①pp.100-137 ②pp.56-95 ③pp.105-142,295-334	川西
第4回	循環器系のアセスメント①（末梢循環障害）	①pp.138-169 ②pp.96-131 ③pp.335-408	川西
第5回	循環器系のアセスメント②（心機能の障害）	①pp.138-169 ②pp.96-131 ③pp.335-408	川西
第6回	感覚器（外皮、眼、耳、鼻、口）、頭頸部のアセスメント（感覚、知覚機能障害） フィジカルイグザミネーション・テスト①（呼吸器系、循環器系）	①pp.84-99 ②pp.150-167 ③pp.173-294	川西
第7回	筋・骨格系、脳・神経系のアセスメント①（運動機能障害）	①pp.326-347 ②pp.168-205 ③pp.601-770	川西
第8回	筋・骨格系、脳・神経系のアセスメント②（感覚機能障害） フィジカルイグザミネーション・テスト②（感覚器）	①pp.326-347 ②pp.168-205 ③pp.601-770	川西
第9回	摂食嚥下機能のアセスメント 消化器系のアセスメント（急性腹症、消化吸收機能障害）	①pp.170-203 ②pp.132-149 ③pp.437-493,523-580	川西

第10回	腎泌尿器系のアセスメント（腎機能障害、排尿障害） 生殖器系、乳房・腋窩のアセスメント フィジカルイグザミネーション・テスト③（筋・骨格系、脳・神経系）	①pp.170-203 ②pp.132-149 ③pp.437-493,523-580	川西
第11回	認知機能のアセスメント（認知症、高次脳機能障害）	②pp.202-205 ③pp.159-161	川西
第12回	精神状態のアセスメント（精神現症の評価：思考、気分、自我）	④pp.189-203	戸村
第13回	複雑な症状・徴候をもつ事例に対するフィジカルアセスメント演習①（問診とフィジカルイグザミネーションの実施）	予習として授業で提示する事例に必要な観察項目とその根拠を挙げる。 復習として観察結果と判断を整理する。	川西、中信
第14回	複雑な症状・徴候をもつ事例に対するフィジカルアセスメント演習②（アセスメント・レポートの作成）	予習として授業で提示する事例に必要な観察項目とその根拠を挙げる。 復習として観察結果と判断を整理する。	川西、中信
第15回	看護におけるフィジカルアセスメントの課題と今後の展望（プレゼンテーション）	プレゼン内容をまとめる。	川西

参考文献	①岡庭豊(2019). 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント. メディックメディア. ②山内豊明（2011）. フィジカルアセスメント ガイドブック(第2版). 医学書院. ③Bickley, L. S. & Szilagyi, P.G.（2020）/福井次矢, 井部俊子, 山内豊明（訳）（2023）. ベイツ診察法（第3版）. メディカル・サイエンス・インターナショナル. ④鎌倉やよい（2012）. 実践するヘルスアセスメント. 学研メディカル.
予習復習	予習として、各単元において対象となる主な疾患を提示するため、その病因、発症機序、検査結果、経過、治療などを把握する。検査に関しては、原理や解釈についても理解しておく。復習として、フィジカルイグザミネーション・テストの採点結果をもとに知識を整理する。
評価方法	①身体各系統のフィジカルイグザミネーションに関する筆記テストおよび実技テスト：50％ ②フィジカルアセスメント演習のアセスメントレポート：30％ ③授業におけるプレゼンテーション：20％ 筆記テストおよび実技テストは授業時に採点結果を返却する。プレゼンテーション内容については授業時にコメントを返す。アセスメントレポートはコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「フィジカルアセスメント」に該当する。
オフィスアワー	川西：金曜日 11：00～13：00 ／ 戸村：火曜日 16：30～17：30 ／ 中信：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	基盤看護学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
川西 美佐
◎ 村田 由香

授業概要	看護の本質とこれからのチーム医療時代に向けての看護職の役割拡大を鑑みて、看護専門職の教育・管理・倫理的側面に焦点化し、看護専門職の発展に寄与できる能力を探究する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1.1-2.1-3.1-4.1-5.1-6.に対応する。
到達目標	1. 看護の本質をふまえたうえで、社会の変化に応じた看護職の役割拡大について考察できる。 2. 継続教育プログラム作成・評価の原理原則を理解し、教育プログラムを作成できる。 3. 看護専門職のリーダーとして組織を変革していくために必要な知識・理論的基盤の理解を深め、能力開発について考察できる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	看護の本質と看護職の役割拡大① 社会の変化と役割の変化	村田
第2回	看護の本質と看護職の役割拡大② 社会の変化と政策との関連	村田
第3回	教育プログラムの作成の原理、原則について	村田
第4回	学習目標の設定	村田
第5回	教育プログラムにおける効果的な教育方法	村田
第6回	教育プログラムの評価の理論と方法	村田
第7回	ImSAFERの手法を用いたヒューマンエラー事例分析の授業設計	川西
第8回	ImSAFERの手法を用いたヒューマンエラー事例分析の実際	川西
第9回	仕事の中の学習　-経験学習　理論的概観	村田
第10回	仕事の中の学習　-経験学習　教育現場・臨床現場の課題	村田
第11回	学習する組織の理論的概観	村田
第12回	学習する組織づくりの方略の検討	村田
第13回	組織文化・組織分析と組織変革　理論的概観	村田
第14回	組織分析と組織変革　事例を用いた組織分析と組織変革の方略の検討	村田
第15回	看護管理における倫理的課題の検討	村田

参考文献	①勝原裕美子(2016).組織で生きる　管理と倫理のはざままで.医学書院. ②松尾睦(2011).職場が生きる人が育つ「経験学習」入門.ダイヤモンド社. ③Robbins, S. P. (2005). /高木晴夫(2009). 組織行動のマネジメント.東京：ダイヤモンド社. 他，初回に文献リストを配布する。

予習復習	各回のテーマに関連ある文献、または課題文献を検索、精読し、疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。授業後に自己課題を明確にする。
評価方法	課題レポート①プレゼンテーションと資料 40％ ②授業への参加・貢献度 30％ 課題レポート 30％ 提出された資料には、授業の中で、特徴的な見解や誤解についてコメントする。課題レポートは、コメントをつけて返却する。
備考	専攻領域以外の特論を履修した場合は、選択科目として扱う。 第1,2回は対面授業です。第3回以降は遠隔授業も可能です。その場合は事前に担当教員に連絡ください。
オフィスアワー	村田：金曜日 12：30～14：00 ／ 川西：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	基盤看護学演習
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
代表曜日	土曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 川西 美佐
村田 由香
田村 由美

授業概要	看護教育や看護実践の場の現象における関心領域を明確にしたうえで、自身の研究課題に関する研究論文を系統的に検索してクリティークし、既知の知見を文献検討として統合する。また、文献検討をもとに自己の研究課題を明確にし、課題に取り組むための研究方法について探求する。さらに、看護基礎教育課程における授業案の設計もしくは現任教育における研修案の設計を通して、効果的な看護学教育のあり方を探求する。院生によるプレゼンテーションや討議を通して論理的思考を養い、言語化する能力を修得する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-2. 1-3. 1-4. 1-5. 1-6. .に対応する。
到達目標	1. 看護教育や看護実践の場の現象を分析して関心領域を明確にしたうえで、関連する文献をクリティークし統合して、現象を論理的に説明できる。 2. 研究課題を明確にしたうえで、適切な研究方法を選択し、背景・目的・方法論が一貫した研究計画書(案)を作成できる。 3. 看護基礎教育課程における授業案もしくは現任教育における研修案を設計できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	研究のプロセス① 研究課題の設定と文献検討の方法	川西・田村・村田
第2回	研究のプロセス② 研究計画書作成の方法	川西・田村・村田
第3回	授業設計(案)もしくは研修設計(案)の作成① 授業・研修案作成の基本	川西・田村・村田
第4回	授業設計(案)もしくは研修設計(案)の作成② 授業・研修案作成の実例	川西・田村・村田
第5回	看護教育や看護実践の場の現象の分析	川西・田村・村田
第6回	文献クリティークと関心のある現象の説明	川西・田村・村田
第7回	文献レビューとクリティーク①	川西・田村・村田
第8回	文献レビューとクリティーク②	川西・田村・村田
第9回	文献レビューとクリティーク③	川西・田村・村田
第10回	文献レビューとクリティーク④	川西・田村・村田
第11回	研究課題の明確化①	川西・田村・村田

第12回	研究課題の明確化②	川西・田村・村田
第13回	研究課題の背景と研究目的の論述①	川西・田村・村田
第14回	研究課題の背景と研究目的の論述②	川西・田村・村田
第15回	研究方法の検討①	川西・田村・村田
第16回	研究方法の検討②	川西・田村・村田
第17回	データ収集と分析の要点	川西・田村・村田
第18回	結果と考察の論述方法の要点	川西・田村・村田
第19回	授業設計(案)もしくは研修設計(案)の作成③ 発表と討議	川西・田村・村田
第20回	授業設計(案)もしくは研修設計(案)の作成④ 発表と討議	川西・田村・村田
第21回	授業設計(案)もしくは研修設計(案)の作成⑤ 発表と討議	川西・田村・村田
第22回	授業設計(案)もしくは研修設計(案)の作成⑥ 発表と討議	川西・田村・村田
第23回	第23～24回は各院生の研究課題に関する学会やセミナー等に参加するかフィールドワークと行い、得た知見をまとめ、研究計画書に反映させる内容を明確にし、第29～30回の授業で発表する。	川西・田村・村田
第24回	第23～24回は各院生の研究課題に関する学会やセミナー等に参加するかフィールドワークと行い、得た知見をまとめ、研究計画書に反映させる内容を明確にし、第29～30回の授業で発表する。	川西・田村・村田
第25回	授業設計(案)もしくは研修設計(案)の作成⑦ 発表と討議	川西・田村・村田
第26回	授業設計(案)もしくは研修設計(案)の作成⑧ 発表と討議	川西・田村・村田
第27回	授業設計(案)もしくは研修設計(案)の作成⑨ 発表と討議	川西・田村・村田
第28回	授業設計(案)もしくは研修設計(案)の作成⑩ 発表と討議	川西・田村・村田
第29回	研究計画書（案）の発表と討議①	川西・田村・村田
第30回	研究計画書（案）の発表と討議②	川西・田村・村田

参考文献	①Polit, D. F., & Beck, C.T.(2004)/近藤潤子(監訳)(2010). 看護研究 原理と方法 第2版. 医学書院. ②Burns, N., & Grove, S. K.(2021)/黒田裕子, 逸見功, 佐藤富美子, (訳) (2023). バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版 評価・統合・エビデンスの生成.エルゼビア・ジャパン. 他
予習復習	各授業回の内容について、自己の研究課題と関心がある看護実践についてプレゼンテーションと討議ができるように、資料などを準備して臨む。授業後は、討議内容をもとにプレゼンテーション内容を再考し、研究計画書（案）と授業設計案もしくは研修設計案の作成に反映させる。
評価方法	プレゼンテーション50％、授業への参加・貢献度50％ 授業中にプレゼンテーションの内容や方法、授業への参加・貢献度についてコメントを返しフィードバックを行う。
備考	本授業は、演習である性質上、対面を原則とする。ただし、やむを得ない理由により、対面が叶わない場合は、事前相談の上で、遠隔授業での対応を検討する。
オフィスアワー	川西：金曜日 11：00～13：00 ／ 田村：金曜日 12：10～14：00 ／ 村田：金曜日 12：30～14：00

年度	2025
科目名	成育期看護学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
山村 美枝
◎ 奥村 ゆかり

授業概要	成育期にある人と家族の特性を理解するための理論を学ぶ。成育期看護に必要な基礎的理論を用いて、ケアについて探求する。講義、文献精読、学生によるプレゼンテーション、討議により学習する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1, 1-3, 1-4, 1-6. に対応する。
到達目標	1. 成育期看護に必要な基礎的理論について理解できる。 2. 成育期看護に関する諸理論を用いて看護に有用な看護実践への活用を検討できる。 3. 看護実践において成育期看護に関する諸理論を活用する上での課題を見出すことができる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	成育期に関する看護理論とその活用	奥村、山村
第2回	心理社会的発達理論（E. H. Erikson）	奥村、山村
第3回	心理社会的発達理論（E. H. Erikson）と看護実践への活用	奥村、山村
第4回	母性論（ルヴァ・ルービン）	奥村、山村
第5回	母性論（ルヴァ・ルービン）と看護実践への活用	奥村、山村
第6回	認知発達理論（J. Piaget）	奥村、山村
第7回	認知発達理論（J. Piaget）と看護実践への活用	奥村、山村
第8回	愛着理論（J. Bowlby）	奥村、山村
第9回	愛着理論（J. Bowlby）と看護実践への活用	奥村、山村
第10回	成育期看護を理解するための理論（ストレス・コーピング）①	奥村、山村
第11回	成育期看護を理解するための理論（ストレス・コーピング）②	奥村、山村
第12回	成育期看護を理解するための理論（ソーシャルサポート）①	奥村、山村
第13回	成育期看護を理解するための理論（ソーシャルサポート）②	奥村、山村
第14回	成育期看護を理解するための理論（家族看護）①	奥村、山村
第15回	成育期看護を理解するための理論（家族看護）②	奥村、山村

参考文献	①Ruva,Rubin.(1984)/新道幸恵他（訳）(1997) .ルヴァ・ルービン 母性論-母性の主観的体験-.医学書院. ②筒井真優美(編)(2020).看護理論家の業績と理論評価(第2版).医学書院.
予習復習	各自、事前に関連した文献を精読し、疑問点を明確にして授業に参加する。 学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。
評価方法	プレゼンテーション：50%、授業への参加・貢献度50% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。

備考	専攻領域以外の特論を履修した場合は、選択科目として扱う。ただし、専攻領域の学生が履修登録をしない科目は、開講しない。
オフィスアワー	奥村：金曜日 12：30～14：30 ／ 山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	成育期看護学演習
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
代表曜日	土曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
山村 美枝
◎ 奥村 ゆかり

授業概要	成育期における看護実践で見出した課題について、関連のある資料および文献の組織的な検索と要約を行い、課題の焦点をより鮮明にする。また、成育期看護における教育の意義を考え、教育の内容および方法を理解し、教授法を探究する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-2. 1-3. 1-4. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 成育期看護に関連する文献を系統的に検索し、文献検討をすることができる。 2. 文献検索によって得られた内容を系統的にまとめることができる。 3. 成育期看護学に関連した授業案を作成し、実践できる。 4. 成育期看護における課題を明確にできる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	授業案作成方法①	奥村、山村
第2回	授業案作成方法②	奥村、山村
第3回	授業案作成方法③	奥村、山村
第4回	授業案作成方法④	奥村、山村
第5回	授業案作成方法⑤	奥村、山村
第6回	授業案作成方法⑥	奥村、山村
第7回	授業案作成方法⑦	奥村、山村
第8回	授業案作成方法⑧	奥村、山村
第9回	作成した授業案の発表とフィードバックと評価①	奥村、山村
第10回	作成した授業案の発表とフィードバックと評価②	奥村、山村
第11回	研究テーマに関連した文献レビューとクリティーク①子どもの事故、安全管理	奥村、山村
第12回	研究テーマに関連した文献レビューとクリティーク②子どもの貧困、虐待、いじめ	奥村、山村
第13回	研究テーマに関連した文献レビューとクリティーク③発達障害	奥村、山村
第14回	研究テーマに関連した文献レビューとクリティーク④思春期の性の問題、心の問題、性教育	奥村、山村
第15回	研究テーマに関連した文献レビューとクリティーク⑤母性意識、母性行動	奥村、山村
第16回	研究テーマに関連した文献レビューとクリティーク⑥育児不安、育児ストレス	奥村、山村
第17回	研究課題の明確化と研究方法の検討①	奥村、山村
第18回	研究課題の明確化と研究方法の検討②	奥村、山村
第19回	研究課題の明確化と研究方法の検討③	奥村、山村

第20回	研究課題の明確化と研究方法の検討④	奥村、山村
第21回	研究課題の背景と研究動機の記事化⑤	奥村、山村
第22回	研究課題の背景と研究動機の記事化⑥	奥村、山村
第23回	研究課題の背景と研究動機の記事化⑦	奥村、山村
第24回	研究課題の背景と研究動機の記事化⑧	奥村、山村
第25回	研究目的を達成させるための研究方法	奥村、山村
第26回	研究方法の妥当性の検討	奥村、山村
第27回	研究の実現性の検討：フィールドワーク①	奥村、山村
第28回	研究の実現性の検討：フィールドワーク②	奥村、山村
第29回	倫理的配慮①倫理申請書の作成	奥村、山村
第30回	倫理的配慮②研究依頼文の作成	奥村、山村

参考文献	①Polit,D.F., & Beck,C.(2004)/近藤潤子(監訳) (2010). 看護研究 原理と方法(第2版). 医学書院. ②Grove,S.K,&Burns,N. ,& Gray,J.R.(2013)/黒田裕子,中木高夫,逸見功(監訳) (2015). 看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-(原著第7版). エルゼビア・ジャパン. ③前田樹海,江藤裕之（2023）. APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール(第2版). 医学書院. その他授業時に提示する。
予習復習	各回の授業内容に合わせて自己の研究課題に関連させたプレゼンテーションができるよう資料などを準備して臨むこと。
評価方法	プレゼンテーション:50%, 授業への参加・貢献度:50% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
オフィスアワー	奥村：金曜日 12：30～14：30 ／ 山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	成熟期看護学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
中信 利恵子
◎ 百田 武司
山本 浩子
中村 もとゑ
木下 真吾

授業概要	成熟期看護学にある人と家族の特性を理解するための理論を理解し、エビデンスに基づくケアのための基礎的理論について探求する。講義、文献精読、学生によるプレゼンテーション、討議により学習する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-3. 1-4. 1-5. 1-6. に対応する。
到達目標	1. 国内外の看護実践の歴史的経緯と動向を理解できる。 2. 患者や家族に看護を実践するうえで基盤となる有用な理論を理解できる。 3. 看護に有用な理論の看護実践への活用を検討できる。 4. 看護実践において看護理論を活用する上での課題を検討できる。

授業内容

回	内 容	遠隔授業	担当教員
第1回	成熟期に関する看護理論の活用		百田
第2回	成熟期に関する看護理論の意義		百田
第3回	ストレス・コーピング理論の理解		山本
第4回	ストレス・コーピング理論と看護実践への活用		山本
第5回	セルフケア理論の理解		中村
第6回	セルフケア理論と看護実践への活用		中村
第7回	危機理論の理解	遠隔授業可	中村
第8回	危機理論と看護実践への活用	遠隔授業可	中村
第9回	ローカス オブ コントロールの理解	遠隔授業可	山本
第10回	ローカス オブ コントロールと看護実践への活用	遠隔授業可	山本
第11回	病みの軌跡理論の理解		木下
第12回	病みの軌跡理論と看護実践への活用		木下
第13回	エンパワーメントの理解		中信
第14回	エンパワーメントと看護実践への活用		中信
第15回	看護理論と実践・研究との関連と活用上の課題	遠隔授業可	百田、中信 山本、中村、木下

参考文献	正木治恵, 酒井郁子(2012). ナーシング・プロフェッション・シリーズ看護理論の活用看護実践の問題解決のために. 医歯薬出版.
予習復習	各自、事前に関連した文献を精読し、レポートを作成し疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。
評価方法	プレゼンテーション：50％，授業への参加・貢献度：50％ 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	遠隔授業として参加可能な授業は上記の授業内容に示しています。事前に担当教員に申し出てください。
オフィスアワー	百田：金曜日 12：30～14：30 ／ 中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 山本：金曜日 12：30～14：00 ／ 中村：金曜日 12：30～14：00 木下：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	成熟期看護学演習
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
代表曜日	土曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
中信 利恵子
◎ 百田 武司
山本 浩子
中村 もとゑ
木下 真吾

授業概要	看護基礎教育課程における授業案作成および授業を実施・評価し教育的能力を習得する。また、成熟期に関する先行研究をレビューし、内容、研究デザイン、研究方法、研究結果等からクリティークし、臨床応用について検討する。講義、文献精読、学生によるプレゼンテーション、討議により学習する。科学的・倫理的な思考に基づき、患者と家族のQOLの向上や、問題解決を検討することを目指す。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-2. 1-3. 1-4. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 学部学生を対象とした授業案を作成し、実践し評価できる。 2. 必要な文献を検索・収集し、critical reviewを行い、臨床応用について検討できる。 3. 成人学習者である学生が、臨床での現象の記述および学会や研修会の参加を通して、成人期あるいは老年期にある人の現状と課題について検討できる。看護を発展的に捉え、変革していくための課題を明らかにできる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	授業案作成方法①	百田、中信、山本、 中村、木下
第2回	授業案作成方法②	百田、中信、山本、 中村、木下
第3回	授業案作成方法③	百田、中信、山本、 中村、木下
第4回	授業案作成方法④	百田、中信、山本、 中村、木下
第5回	授業案作成方法⑤	百田、中信、山本、 中村、木下
第6回	授業案作成方法⑥	百田、中信、山本、 中村、木下
第7回	授業案作成方法⑦	百田、中信、山本、 中村、木下
第8回	授業案作成方法⑧	百田、中信、山本、 中村、木下
第9回	作成した授業案の発表とフィードバック①	百田、中信、山本、 中村、木下
第10回	作成した授業案の発表とフィードバック②	百田、中信、山本、 中村、木下

第11回	文献レビューとクリティーク(1) 高齢者の精神症状① 認知症のBPSD	中村
第12回	文献レビューとクリティーク(2) 高齢者の精神症状② せん妄	中村
第13回	文献レビューとクリティーク(3) 認知症の非薬物療法	山本
第14回	文献レビューとクリティーク(4) 転倒	山本
第15回	文献レビューとクリティーク(5) 高齢者の精神症状③ うつ、アパシー	百田
第16回	文献レビューとクリティーク(6) 脳卒中による機能障害	百田
第17回	事例検討：各自が経験した看護事例をもとに、現在の保健・医療・看護ケア・システムの問題点という観点から事例検討をおこない、特に解決すべき課題を明確化する。プレゼンテーションと討議で行う。	百田、山本、中村
第18回	事例検討：各自が経験した看護事例をもとに、現在の保健・医療・看護ケア・システムの問題点という観点から事例検討をおこない、特に解決すべき課題を明確化する。プレゼンテーションと討議で行う。	百田、山本、中村
第19回	文献検討、またはフィールド調査・参加観察などにより、新たな、またはより改良された看護ケアを提案する。プレゼンテーションと討議で行う。	百田、山本、中村
第20回	文献検討、またはフィールド調査・参加観察などにより、新たな、またはより改良された看護ケアを提案する。プレゼンテーションと討議で行う。	百田、山本、中村
第21回	文献クリティークと臨床での活用(7) 慢性疾患をもつ患者の看護：その人らしく生きる力を支える看護	木下
第22回	文献クリティークと臨床での活用(8) 慢性疾患をもつ患者の看護：エンパワメント、自己効力感、セルフマネジメントなど慢性疾患をもつ患者の看護に有用な概念を学生の臨床経験に基づき学習する。	木下
第23回	文献クリティークと臨床での活用(9) がん患者と家族が体験する診断・治療過程における意思決定支援	中信
第24回	文献クリティークと臨床での活用(10) がん患者のリハビリテーションの現状と課題	中信
第25回	学会や研修会参加、フィールド・ワークにより、看護を改革していくうえでの課題を検討する。	中信、木下
第26回	学会や研修会参加、フィールド・ワークにより、看護を改革していくうえでの課題を検討する。	中信、木下
第27回	学会や研修会参加、フィールド・ワークにより、看護を改革していくうえでの課題を検討する。	中信、木下
第28回	学会や研修会参加、フィールド・ワークにより、看護を改革していくうえでの課題を検討する。	中信、木下
第29回	学会や研修会参加、フィールド・ワークにより、看護を改革していくうえでの課題を検討する。	中信、木下
第30回	学生による発表と討議	中信、木下

参考文献	牧本清子, 山川みやえ (2020). よくわかる看護研究論文のクリティーク(第2版)：研究手法別のチェックシートで学ぶ. 日本看護協会出版会. その他、適宜提示する。
予習復習	各回の授業内容に合わせて自己の研究課題に関連させたプレゼンテーションができるよう、資料などを準備して臨むこと。
評価方法	プレゼンテーション50%、授業への参加・貢献度50% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。 遠隔授業として参加が可能です。事前に申し出てください。
オフィスアワー	百田：金曜日 12：30～14：30 ／ 中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 山本：金曜日 12：30～14：00 ／ 中村：金曜日 12：30～14：00 木下：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	精神・地域看護学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子
水馬 朋子
松原 みゆき
金藤 亜希子

授業概要	地域包括ケア時代における精神医療保健福祉、在宅看護、公衆衛生看護の視点から課題について把握し、個人・家族・集団への看護実践のあり方を探求する。 精神病患者・障害者への支援・在宅ケアの視点人権とその処遇及び精神医療保健福祉に関する法制度について、歴史的・社会的・政治的観点から探求し、精神医療保健福祉の地域包括ケアと在宅看護、公衆衛生看護の現状と課題からエビデンスに基づくケアのための基礎的理論について探求する。講義、文献検討、学生によるプレゼンテーション、討議により学習する。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー1-1. 1-3. 1-4. 1-5. 1-6. に対応する。
到達目標	1. 国内外の在宅看護、公衆衛生看護、精神看護に関する看護実践の歴史的経緯と動向を理解できる。 2. 精神病患者・障がい者や家族に看護実践するうえで基盤となる有用な理論を理解できる。 3. 精神看護、在宅看護、公衆衛生看護における看護に有用な理論の看護実践への活用を検討できる。 4. 精神看護、在宅看護、公衆衛生看護の看護実践において看護理論を活用する上での課題を検討できる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	ライフサイクルを通しての精神発達①乳幼児期から青年期	戸村
第2回	ライフサイクルを通しての精神発達②成人期から老年期	戸村
第3回	精神科医療の現状と課題 精神保健福祉法 自殺対策 虐待関連法規	戸村
第4回	司法精神医療の歴史的経緯と現状及び課題	戸村
第5回	公衆衛生看護からみた地域包括ケア①地域におけるセルフケア	水馬
第6回	公衆衛生看護からみた地域包括ケア②地域におけるソーシャルキャピタル	水馬
第7回	公衆衛生看護からみた地域包括ケア③地域におけるメンタルヘルスケア	金藤
第8回	地域包括ケアシステムの推進の実態	水馬
第9回	地域生活を支えるシステムと社会資源	戸村
第10回	地域におけるケアの方法と実際 包括型地域生活支援プログラム	戸村
第11回	学校・職場におけるメンタルヘルスと看護	戸村
第12回	在宅看護からみた地域包括ケア① 在宅ケアシステム、ケアマネジメント	松原
第13回	在宅看護からみた地域包括ケア② 入退院支援と在宅看護	松原
第14回	在宅看護からみた地域包括ケア③ 在宅看護の質向上の取り組み（人材育成も含む）	松原
第15回	精神看護、在宅看護、公衆衛生看護の地域包括ケアの実践・研究との関連と活用上の課題	戸村、水馬、 松原、金藤

参考文献	①日本精神障害リハビリテーション学会(2016). ACT包括型地域生活支援プログラム・シリーズ. コンボ出版. ②日本精神障害リハビリテーション学会 (2016). PACT包括型地域生活支援プログラム・シリーズ. コンボ出版. ③眞崎直子 (2021). 公衆衛生看護学演習・実習. クオリティケア. ④篠田道子 編 (2017). ナースのための退院支援・調整(第2版)院内チームと地域連携のシステムづくり. 日本看護協会出版会. ⑤池淵恵美(2019). こころの回復を支える 精神障害リハビリテーション. 医学書院 ⑥伊藤順一郎 (2018). 病棟に頼らない地域精神医療論ー精神障害者の生きる力をサポートする. 金剛出版 ⑦田中英樹 (2018). 精神障害者支援の思想と戦略 QOLからHOLへ. 金剛出版 その他適宜提示する。
予習復習	各自、事前に関連した文献を精読し、レポートを作成し疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。
評価方法	①プレゼンテーション、授業への参加・貢献度：50%、②課題レポート：50% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30 ／ 水馬：金曜日 16：00～18：00 ／ 松原・金藤：金曜日 16：00～17：00

年度	2025
科目名	精神・地域看護学演習
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
代表曜日	土曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子
水馬 朋子
松原 みゆき
金藤 亜希子

授業概要	看護基礎教育課程における授業案または院内や施設での研修計画の立案を行い、対象者の学習ニーズ、教育内容と方法、評価について検討し教授法を探究する。 自己の研究テーマに関する文献、もしくは精神看護学、地域看護学に関する論文を広く系統的に検討し研究テーマについて探究する。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー1-1. 1-2. 1-3. 1-4. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 看護基礎教育課程における授業案または院内や施設での研修計画の立案を行い、対象者の学習ニーズ、教育内容と方法について検討し教授法を探究する。 2. 精神看護学・地域看護学に関する研究論文等を系統的に検索し、クリティークし、統合してまとめることができる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	授業案もしくは研修案作成方法①	戸村、水馬、松原
第2回	授業案もしくは研修案作成方法②	戸村、水馬、松原
第3回	授業案もしくは研修案作成方法③	戸村、水馬、松原
第4回	授業案もしくは研修案作成方法④	戸村、水馬、松原
第5回	授業案もしくは研修案作成方法⑤	戸村、水馬、松原
第6回	授業案もしくは研修案作成方法⑥	戸村、水馬、松原
第7回	授業案もしくは研修案作成方法⑦	戸村、水馬、松原
第8回	授業案もしくは研修案作成方法⑧	戸村、水馬、松原
第9回	作成した授業案・研修案の発表とフィードバック①	戸村、水馬、松原
第10回	作成した授業案・研修案の発表とフィードバック②	戸村、水馬、松原
第11回	文献レビューとクリティーク①精神医療と看護の近年の動向と課題	戸村
第12回	文献レビューとクリティーク②精神看護地域包括ケア　心理社会的療法、援助の人間関係	戸村
第13回	文献レビューとクリティーク③公衆衛生看護からみた地域包括ケア　災害保健、地域精神保健、健康づくり	水馬
第14回	文献レビューとクリティーク④在宅看護からみた地域包括ケア　家族支援、訪問看護師人材育成	松原

第15回	文献レビューとクリティーク⑤公衆衛生看護からみた地域包括ケア 母子保健、高齢者保健	金藤
第16回	文献レビューとクリティーク⑥公衆衛生行政、公衆衛生人材育成	水馬
第17回	事例検討：各自の経験した事例をもとに、現在の保健・医療・福祉ケアシステムの視点で事例を提供し、検討する。プレゼンテーションとディスカッションで実施する。	戸村、水馬、松原、金藤
第18回	研究課題の明確化と研究方法の検討①	戸村、水馬、松原、金藤
第19回	研究課題の明確化と研究方法の検討②	戸村、水馬、松原、金藤
第20回	研究課題の明確化と研究方法の検討③	戸村、水馬、松原、金藤
第21回	研究課題の明確化と研究方法の検討④	戸村、水馬、松原、金藤
第22回	研究課題の背景と文献検討①	戸村、水馬、松原、金藤
第23回	研究課題の背景と文献検討②	戸村、水馬、松原、金藤
第24回	研究目的を達成するための研究方法①	戸村、水馬、松原、金藤
第25回	研究目的を達成するための研究方法②	戸村、水馬、松原、金藤
第26回	研究目的を達成するための研究方法③	戸村、水馬、松原、金藤
第27回	研究の実行可能性の検討	戸村、水馬、松原、金藤
第28回	研究倫理と倫理的配慮 申請書の記載について	戸村、水馬、松原、金藤
第29回	論文の執筆のための注意事項	戸村、水馬、松原、金藤
第30回	院生による課題の発表とディスカッション	戸村、水馬、松原、金藤

参考文献	①木原雅子, 木原正博 (2014). 医学的研究のデザイン -研究の質を高める疫学的アプローチ- (第4版). メディカルサイエンスインターナショナル. ②ホロウェイ・ウィラー (2002)/野口美和子 (訳) (2006). ナースのための質的研究入門－研究方法から論文作成まで (第2版). 医学書院. ③Polit, D. F., & Beck, C.T.(2004)/近藤潤子(監訳) (2010). 看護研究 原理と方法(第2版). 医学書院. ④山川みやえ, 牧本清子(2022). よくわかる看護研究論文のクリティーク. 日本看護協会出版会. ⑤Gray, J.R., & Grove, S. K.(2020)/黒田 裕子, 逸見 功, 佐藤 富美子 (翻訳)(2023).バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版 評価・統合・エビデンスの生成 エルゼビア・ジャパン株式会社 その他、適宜提示する。
予習復習	①各回の授業内容および自己の研究課題に関連した文献を精読し資料を準備して授業に参加する。 ②授業後に学生プレゼンテーション内容と討議を振り返り、課題を明確にする。
評価方法	①プレゼンテーション、授業への参加・貢献度：40％、②課題レポート：60％ 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。課題レポートには、助言とコメントをつけて返却する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30 ／ 水馬：金曜日 16：00～18：00 ／ 松原・金藤：金曜日 16：00～17：00

年度	2025
科目名	災害看護学特論Ⅰ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
宇都宮 明美

授業概要	災害に関する基本的な知識（災害の定義、種類、災害サイクル法的側面等）を学び、災害が人々の生命や生活にどのような影響を与えるのかについて、過去の災害事例に基づいて深く検討する。災害サイクルに沿った人々の反応について、文献を用いて討議し探究する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3, 1-4, 1-6. に対応する。
到達目標	1. 災害に関する基本的知識について説明できる。 2. 災害の種類別に生じる健康問題を説明できる。 3. 災害医療に関する法制度について説明できる。 4. 災害時における人間の心身の反応を説明できる。 5. 災害サイクルの考え方について説明できる。 6. 災害サイクルに沿った人々の反応とともに社会の対応について説明できる。

授業内容

回	内 容	予習復習	担当教員
第1回	昨今の災害の特徴と災害看護の重要性 災害の基本的な知識 （災害の種類や分類について検討する）	参考文献①のChapter1	中信
第2回	災害の基本的な知識 （災害の定義について検討する）	参考文献①のChapter1	中信
第3回	災害の基本的な知識 （災害サイクルのとらえ方について検討する）		中信
第4回	災害中長期の健康問題とその対応 （避難所・仮設住宅）		中信
第5回	災害の種類別における健康問題 （自然災害：地震、津波、台風、竜巻、噴火等）	参考文献①のChapter4&5	中信
第6回	災害の種類別における健康問題 （人為災害：生物・化学・放射線災害、爆発等）	参考文献①のChapter4&5	中信
第7回	災害初期の健康問題とその対応		中信
第8回	静穏期における看護活動 （復興住宅）		中信
第9回	災害時の人間の行動特性 （人はなぜ逃げ遅れるのか）	参考文献②	中信
第10回	災害時の心身の反応 （心身への影響とスクリーニング）		中信
第11回	災害時のマネジメントについて検討する		中信
第12回	災害対応について検討する	参考文献③	中信

第13回	災害時の看護専門職としての活動 -JR福知山線脱線事故時の活動を通して-		宇都宮
第14回	災害時の看護専門職としての活動 -JR福知山線脱線事故時の活動を通して-		宇都宮
第15回	災害看護のコアとなるコンピテンシーを検討する		中信

参考文献	①Tener Goodwin（2007）. Disaster Nursing and Emergency Preparedness for Chemical, Biological, and Radiological Terrorism and Other Hazards. Springer. ②広瀬弘忠（2004）. 人はなぜ逃げおくれるのか. 集英社新書. ③石巻赤十字病院, 由井りょう子（2011）. 石巻赤十字病院の100日間. 小学館.
予習復習	各自、事前に関連した文献を精読し、レポートを作成し疑問点を明確にして授業に参加する。 学生によるプレゼンテーション（第13回、14回を除く）を行い、討議により理解を深める。 学生は、授業後に討議の内容を振り返り、自己の課題を明確にする。
評価方法	評価は、演習への参加状況およびプレゼンテーション（50％）、最終のレポート課題（50％）で総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーションの内容や方法等についてコメントを返す。 最終レポートにはコメントをつけて返却する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 宇都宮：講義前後

年度	2025
科目名	災害看護学演習
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
代表曜日	土曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子

授業概要	災害看護に関するさまざまな先行研究をレビューし、研究目的や方法等のクリティークをすることを通して、災害看護活動の実践の場における適用について検討する。また、看護基礎教育における災害看護の位置づけや必要性を考慮した授業案の作成および実施・評価の過程を通して、教育的能力を養う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-2. 1-3. に対応する。
到達目標	1. 学部生を対象とした授業案を作成し、実践・評価を行い、自己の課題を述べることができる。 2. 災害看護に関する必要な文献を検索・収集し、クリティークすることができる。 3. 災害看護関連の学会や研修会の参加を通して、災害看護に関する新たな知見を探究する。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	授業案作成方法①	中信
第2回	授業案作成方法②	中信
第3回	授業案作成方法③	中信
第4回	授業案作成方法④	中信
第5回	授業案作成方法⑤	中信
第6回	授業案作成方法⑥	中信
第7回	授業案作成方法⑦	中信
第8回	授業案作成方法⑧	中信
第9回	作成した授業案の発表	中信
第10回	作成した授業案のフィードバック	中信
第11回	文献検索・収集について	中信
第12回	文献検索・収集について	中信
第13回	文献レビューとクリティーク①災害看護研究の概要	中信
第14回	文献レビューとクリティーク①災害看護研究の概要	中信
第15回	文献レビューとクリティーク②静穏期の課題	中信
第16回	文献レビューとクリティーク②静穏期の課題	中信

第17回	文献レビューとクリティーク③初動期の課題	中信
第18回	文献レビューとクリティーク③初動期の課題	中信
第19回	文献レビューとクリティーク④中長期の課題	中信
第20回	文献レビューとクリティーク④中長期の課題	中信
第21回	文献レビューとクリティーク⑤災害時の要配慮者の課題	中信
第22回	文献レビューとクリティーク⑤災害時の要配慮者の課題	中信
第23回	事例検討：学生あるいは自施設が経験した災害看護事例を基にして、これまでの文献レビューを通して、課題を明らかにする。	中信
第24回	事例検討：学生あるいは自施設が経験した災害看護事例を基にして、これまでの文献レビューを通して、課題を明らかにする。	中信
第25回	事例検討：学生あるいは自施設が経験した災害看護事例を基にして、これまでの文献レビューを通して、課題を明らかにする。	中信
第26回	第26回～29回では、興味関心のあるテーマと関連する学会や研修会に参加したり、フィールドワークをおこない、災害看護を実践していく上で、自己の課題を検討する。	中信
第27回	第26回～29回では、興味関心のあるテーマと関連する学会や研修会に参加したり、フィールドワークをおこない、災害看護を実践していく上で、自己の課題を検討する。	中信
第28回	第26回～29回では、興味関心のあるテーマと関連する学会や研修会に参加したり、フィールドワークをおこない、災害看護を実践していく上で、自己の課題を検討する。	中信
第29回	第26回～29回では、興味関心のあるテーマと関連する学会や研修会に参加したり、フィールドワークをおこない、災害看護を実践していく上で、自己の課題を検討する。	中信
第30回	学生による発表と討議	中信

参考文献	牧本清子, 山川みやえ (2020). よくわかる看護研究論文のクリティーク(第2版)：研究手法別のチェックシートで学ぶ. 日本看護協会出版会. その他、随時提示する。
予習復習	各回の授業内容に合わせて自己の研究課題に関連させたプレゼンテーションができるよう、資料などを準備して臨む。
評価方法	①プレゼンテーション50％、②授業への参加・貢献度50％ 授業中にプレゼンテーションの内容や方法等についてコメントを返す。 日程は履修生と相談の上決定する。
備考	遠隔授業として参加が可能です。事前に申し出てください。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	基礎看護学特論
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 川西 美佐

授業概要	看護実践の学問的探究の視点から、看護実践への理論とエビデンスの活用、看護実践における研究と教育の動向、看護実践能力育成のための教育的支援について探究し、看護実践を言語化するための今後の課題と展望について考察する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-2. 1-3. 1-4. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 看護実践への理論とエビデンスの活用について説明できる。 2. 看護実践における研究と教育の動向を文献レビューをもとに説明できる。 3. 看護実践能力育成のための教育的支援について説明できる。 4. 看護実践の言語化における今後の課題と展望について説明できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	看護実践への理論の活用 自らの看護実践の記述と理論を活用した実践の意味づけ	川西
第2回	看護実践における暗黙知と臨床知の探究	川西
第3回	看護実践におけるエビデンス Evidence-Based Medicine（EBM）の意義と看護実践への活用	川西
第4回	理論とエビデンスにもとづく看護実践に関する課題と展望 教育・実践・研究の視点から	川西
第5回	看護実践における研究と教育の動向① 看護技術	川西
第6回	看護実践における研究と教育の動向② フィジカルアセスメント	川西
第7回	看護実践における研究と教育の動向③ 看護倫理	川西
第8回	看護実践における研究と教育の動向④ 医療安全	川西
第9回	看護実践能力育成のための教育的支援① 臨床能力評価	川西
第10回	看護実践能力育成のための教育的支援② ICTを活用した教育	川西
第11回	看護実践能力育成のための教育的支援③ シミュレーションの設計に用いる学習理論	川西
第12回	看護実践能力育成のための教育的支援④ シミュレーションの設計	川西
第13回	看護実践能力育成のための教育的支援⑤ シミュレーションの実施	川西
第14回	看護実践能力育成のための教育的支援⑥ シミュレーションの評価	川西
第15回	看護実践の言語化における今後の課題と展望	川西

参考文献	①筒井真優美（2020）. 看護理論家の業績と評価（第2版）. 医学書院. ②Polanyi, M. (1966)/佐藤敬三, 伊東俊太郎(訳)(1980). 暗黙知の次元. 紀伊国屋書店. ③福井次矢(編)（1999）. EBM実践ガイド, 医学書院.
------	---

	④鈴木克明(2015). 研修設計マニュアル 人材育成のためのインストラクショナルデザイン. 北大路書房. ⑤河野龍太郎(2014). 医療におけるヒューマンエラー（なぜ間違える どう防ぐ）（第2版）. 医学書院.
予習復習	各回の内容に関連した文献を検索、精読し、疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。
評価方法	①授業におけるプレゼンテーション：50％ ②課題レポート：50％ 授業中にプレゼンテーション内容についてコメントを返す。課題レポートはコメントをつけて返却する。
オフィスアワー	川西：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	看護教育・管理学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 村田 由香
大林 由美子

授業概要	教育機関及び病院経営に関わる一員として、経営管理者の視点にたったマネジメントが展開できるために必要な知識、技術、能力、方法について修得し、これからの学校経営、看護部門経営、病院経営について考察する。 社会の変化・ニーズに対応した看護専門職の生涯学習としての継続教育のあり方について考察する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-2. 1-3. 1-4. 1-5. 1-6. に対応する。
到達目標	1. 経営管理者の視点にたったマネジメントが展開できるために必要な知識、技術、能力、方法について理解する。 2. 近年の教育機関・医療福祉経営の動向を鑑み、今後の組織開発・キャリア開発に向けて発展的考察ができる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	社会の変化に対応できる生涯教育としての看護職の人材育成	村田
第2回	これからの看護の機能と教育のあり方-政策と看護教育	村田
第3回	ダイバーシティ・マネジメント	村田
第4回	看護サービスの経営と質管理 看護の経済性と生産性	村田
第5回	専門職のキャリア発達・キャリア開発の概観	村田
第6回	看護専門職のキャリア発達・キャリア開発の方略	村田
第7回	臨床現場におけるリーダーシップ理論の活用	村田
第8回	教育機関におけるリーダーシップ理論の活用とリーダーシップ開発	村田
第9回	看護管理者のコンピテンシーとコンピテンシー開発	村田
第10回	看護教育者のコンピテンシーとコンピテンシー開発	村田
第11回	組織における危機管理の現状と課題	村田
第12回	高い危機管理能力をもつ人材育成	村田
第13回	看護管理者の経営戦略立案 経営戦略の立案に必要な視点	大林
第14回	看護管理者の経営戦略立案 経営戦略の立案と経営戦略に基づいた活動	大林
第15回	看護管理者の経営戦略立案プレゼンテーション	村田

参考文献	初回コースオリエンテーション時に文献リスト配布する。
予習復習	各回の課題文献あるいは、テーマに関連ある文献を検索、精読し、疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。授業後に自己課題を明確にする。
	プレゼンテーション資料50％、講義への参加度 50％、

評価方法	プレゼン資料には、授業の中で、特徴的な見解や誤解についてコメントする。 第1,2回,13,14回は対面授業です。第3回以降は遠隔授業も可能です。その場合は事前に担当教員に連絡ください。
オフィスアワー	村田：金曜日 12：30～14：00 ／ 大林：講義前後

年度	2025
科目名	母性看護学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 奥村 ゆかり
中村 敦子

授業概要	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する過程で、女性が経験する心身社会的な変化について、国内外の文献や事例をもとに、近年の母子保健状況と母子を取り巻く環境から、現代社会の母子が抱える健康問題とその介入方法について考察する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-2. 1-3. 1-4. 1-6. に対応する。
到達目標	1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と課題について説明することができる。 2. 女性の健康問題とケアについて説明することができる。 3. 周産期医療を取り巻く社会情勢とケアについて説明することができる。 4. 母性看護学に関する研究の動向から看護上の課題を見出すことができる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ リプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける課題	奥村
第2回	ジェンダーと健康，セクシュアリティと健康	奥村
第3回	思春期の健康問題	奥村
第4回	思春期の健康問題とケア	奥村
第5回	成熟期の健康問題	中村
第6回	成熟期の健康問題とケア	中村
第7回	更年期・老年期の健康問題	中村
第8回	更年期・老年期の健康問題とケア	中村
第9回	母性看護学における研究の動向（ウィメンズヘルスの現状と課題）	奥村
第10回	母性看護学における研究の動向（ウィメンズヘルスケア）	奥村
第11回	母性看護学における研究の動向（マタニティサイクルにおける現状と課題）	奥村
第12回	母性看護学における研究の動向（マタニティサイクルにおけるケア）	奥村
第13回	母性看護学における研究の動向（家族役割と家族発達における現状と課題）①	奥村
第14回	母性看護学における研究の動向（家族役割と家族発達における現状と課題）②	奥村
第15回	母性看護学における研究の動向（家族役割と家族発達におけるケア）	奥村

参考文献	①谷口真由美(2007). リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス. 信山社. ②大竹恵子(2004). 女性の健康心理学. ナカニシヤ出版. ③吉沢豊予子(編)(2004). 女性生涯看護学. 真興交易医書出版.
予習復習	各自、事前に関連した文献を精読し、疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。

評価方法	プレゼンテーション：50%、授業への参加・貢献度：50% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
オフィスアワー	奥村：金曜日 12：30～14：30 ／ 中村：金曜日 10：00～12：00

年度	2025
科目名	小児看護学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	小児看護の対象である子どもと家族に関する援助について基本的な概念を学び、それに基づき効果的な援助の方略を探求する。また、小児看護学における動向・課題を明確にし今後の対策や改善策等を検討する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1, 1-3, 1-4, 1-5, に対応する。
到達目標	1. 子どもと家族を取り巻く環境について理解できる。 2. 医療を受ける子どもと家族を取り巻く環境について理解できる。 3. 子どもや家族への援助方法について検討することができる。 4. 小児看護学に関する動向から看護上の課題を見出すことができる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	子どもの成長・発達の特徴の理解	山村
第2回	子どもや家族の健康とそれらを取り巻く環境の理解	山村
第3回	子どもと家族に関する法律・保健・医療制度や政策	山村
第4回	小児医療・小児救急医療の状況と課題	山村
第5回	子どもの権利やインフォームド・アセントの理解	山村
第6回	小児看護における倫理と課題	山村
第7回	疾患をもった子どもと家族に関する理解	山村
第8回	疾患をもった子どもと家族の状況にあわせた援助方法	山村
第9回	医療を受ける子どもと家族を取り巻く状況の理解	山村
第10回	医療を受ける子どもと家族を取り巻く状況にあわせた援助方法	山村
第11回	文献レビュー 小児看護学の動向と課題① 入院環境	山村
第12回	文献レビュー 小児看護学の動向と課題② 小児外来	山村
第13回	文献レビュー 小児看護学の動向と課題③ 子どもの在宅医療	山村
第14回	文献レビュー 小児看護学の動向と課題④ 障害児の医療と看護	山村
第15回	文献レビュー 小児看護学の動向と課題⑤ 教育・倫理	山村

参考文献	①小山剛,玉井真理子(編)(2012) . 子どもの医療と法 (第2版). 尚学社. ②白幡聡, 藤野昭宏(編)(2010). 小児医療とインフォームドコンセント-寄り添い一緒に考える. 医薬ジャーナル社. ③五十嵐隆, 及川郁子, 林富, 藤村正哲(監修)(2014). ガイダンス子ども療養支援-医療を受ける子どもの権利を守る. 中山書店. ④日本医療ソーシャルワーク研究会(編)(2023). 医療福祉総合ガイドブック 2023年度版. 医学書院. その他は、初回授業で文献リストを配布する。
予習復習	事前に関連した文献を精読し、疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。

評価方法	プレゼンテーション：50％、授業への参加・貢献度：50％ 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	遠隔授業として参加が可能です。事前に申し出てください。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	成人看護学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
木下 真吾

授業概要	成人期にある患者と家族の苦痛や苦悩を全人的に捉え、その人の生活に対応して苦痛や苦悩を緩和し、QOLを考慮した全人的ケアの実践を探究する。また、成人期にある患者や家族とのコミュニケーションや療養の場に応じた看護実践について、文献検討や臨床経験から学習を深める。講義、文献購読、学生によるプレゼンテーション、討議により学習する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-3. 1-4. 1-5. 1-6. に対応する。
到達目標	1. 成人期の特徴および健康課題を検討し、看護実践上の課題を述べることができる。 2. 患者に生じる症状の定義とメカニズム、日常生活への影響、マネジメントを理解し、看護実践上の課題について検討できる。 3. 成人期にある患者・家族とのコミュニケーション技法について説明できる。 4. 成人期にある患者・家族の療養の場に応じた看護実践について検討できる。 5. 成人期にある患者の家族に対する看護実践および研究の動向を理解し、看護実践上の課題について検討できる。

授業内容

回	内 容	遠隔授業	担当教員
第1回	症状マネジメントモデルの理解		中信
第2回	症状マネジメントモデルの臨床応用		中信
第3回	疼痛がある患者の理解		中信
第4回	疼痛がある患者のマネジメントと課題		中信
第5回	全身倦怠感がある患者の理解	遠隔授業可	中信
第6回	全身倦怠感がある患者のマネジメントと課題	遠隔授業可	中信
第7回	呼吸器症状がある患者の理解	遠隔授業可	中信
第8回	呼吸器症状がある患者のマネジメントと課題	遠隔授業可	中信
第9回	患者とのコミュニケーション技法：患者に悪いニュースを伝える		木下
第10回	患者とのコミュニケーション技法：患者の意思決定を支える		木下
第11回	地域包括ケアの実践：患者の療養の場の選択と援助		木下
第12回	地域包括ケアの実践：患者の在宅療養移行支援と課題		木下
第13回	在宅で療養する患者の援助とその課題	遠隔授業可	木下
第14回	遺族（家族）の理解と援助／倫理的課題	遠隔授業可	中信
第15回	患者の家族看護に関する実践・研究の動向と課題	遠隔授業可	中信

参考文献	①Kuebker, K. K. Davis, M. P. , &Moore C. D. (2005). Palliative Practices An Interdisciplinary Approach. St Louis, MO, Elsevier Mosby. ②大西和子, 飯野京子, 平松玉江（編）（2018）. がん看護学－臨床に活かすがん看護の基礎と実践（第2版）. ニューヴェルヒロカワ.
------	---

	③鈴木和子, 渡辺裕子,佐藤律子（2019）. 家族看護学 理論と実践（第5版）. 日本看護協会出版会. ④中野綾美, 瓜生浩子（編著）（2020）. 家族看護学―家族のエンパワーマントを支えるケア. メディカ出版. その他、適宜提示する。
予習復習	各自、事前に関連した文献を精読し、レポートを作成し疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。学生は、授業後に討議の内容を振り返り、自己の課題を明確にする。
評価方法	①毎回のプレゼンテーションおよび課題レポート50%、②最終レポート30%、③授業への参加・貢献度20% プレゼンテーションについては、授業中にコメントを行う。最終レポートにはコメントをつけて返却する。
備考	遠隔授業として参加可能な授業は、上記の授業内容に示しています。事前に担当教員に申し出てください。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 木下：金曜日 12：30～13：30

年度	2025
科目名	老年看護学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 百田 武司
山本 浩子
中村 もとゑ

授業概要	高齢者保健医療福祉制度の変遷や課題について把握した上で、高齢者に特徴的な症状と疾患、高齢者と家族へ看護を提供するための実践理論、医療・看護の質管理、倫理的課題について理解する。加えて、高齢者の健康評価の理論と方法を理解し、看護の実践と研究の統合について探求する。 講義、文献精読、学生によるプレゼンテーション、討議により学習する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1, 1-3, 1-4, 1-5. に対応する。
到達目標	1. 必要な文献を検索・収集し、critical reviewできる。 2. 文献の研究疑問に対して、概念枠組みを批判的に吟味できる。 3. データの分析、解釈が適切かどうか、批判的に吟味できる。 4. 得られた結果が臨床に適切に応用することができるかどうか吟味できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	高齢者保健医療福祉制度の変遷	百田
第2回	高齢者保健医療福祉制度の課題	百田
第3回	診療ガイドラインとその活用方法	百田
第4回	アウトカムマネジメントとディジーズマネジメント	百田
第5回	高齢者に対するケアとそのエビデンス(1) 認知症①	山本
第6回	高齢者に対するケアとそのエビデンス(2) 認知症②	山本
第7回	高齢者に対するケアとそのエビデンス(3) 脳卒中①	百田
第8回	高齢者に対するケアとそのエビデンス(4) 脳卒中②	百田
第9回	高齢者に対するケアとそのエビデンス(5) 排泄障害	山本
第10回	高齢者に対するケアとそのエビデンス(6) 睡眠障害	山本
第11回	高齢者に対するケアとそのエビデンス(7) 高齢者の社会参加	山本
第12回	高齢者に対するケアとそのエビデンス(8) エンド・オブ・ライフ・ケア	山本
第13回	高齢者の健康評価の理論と方法 (1) 高齢者総合機能評価 (CGA) の理論と方法①	中村
第14回	高齢者の健康評価の理論と方法 (2) 高齢者総合機能評価 (CGA) の理論と方法②	中村
第15回	高齢者の健康評価の理論と方法 (3) QOL尺度	中村

	①Wojner,Anne W. (2001)/井部俊子(監修)早野真佐子(訳)(2003). アウトカム・マネジメントー科学的ヘルスケア改善システムの臨床実践への応用. 日本看護協会出版会. ②森山美知子(2007). 新しい慢性疾患ケアモデル-ディジーズマネジメントとナーシングケースマネジメント.
--	---

参考文献	中央法規. ③鳥羽研二(2010). 高齢者の生活機能の総合的評価. 新興医学出版社. ④上月正博, 正門由久(2016). リハビリテーションにおける評価Ver.3. 医歯薬出版. ⑤日本脳卒中学会(2021). 脳卒中治療ガイドライン2021. 協和企画.
予習復習	各自、事前に関連した文献を精読し、レポートを作成し疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。
評価方法	プレゼンテーション50%、授業への参加・貢献度50% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	遠隔授業として参加が可能です。事前に申し出てください。
オフィスアワー	百田：金曜日 12：30～14：30 ／ 山本：金曜日 12：30～14：00 ／ 中村：金曜日 12：30～14：00

年度	2025
科目名	精神看護学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	精神看護学における実践の基盤となる看護理論や関連分野のモデル・概念について学ぶ。 さらに主な精神疾患と治療、看護援助法を学び、理論やモデルのどのように実践に応用するか検討する。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー1-1. 1-3. 1-4. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 看護実践の基盤となる理論、関連分野のモデルについて説明できる。 2. 事例検討を通して、理論や概念モデルの看護実践への応用を検討できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	精神障害の診断と分類　DSM-5－TR 生物・心理・社会モデル	戸村
第2回	心理・社会的成長発達に関する理論①　フロイト・エリクソン・ピアジェ・マラー	戸村
第3回	精神分析と精神力動理論 対象関係論	戸村
第4回	精神科アセスメントと診断	戸村
第5回	支持的精神療法	戸村
第6回	集団療法①	戸村
第7回	集団療法②実践事例の検討	戸村
第8回	認知行動療法①	戸村
第9回	認知行動療法②実践事例の検討	戸村
第10回	家族療法①　一般システム理論	戸村
第11回	家族療法②実践事例の検討	戸村
第12回	オレム－アンダーウッドセルフケアモデル	戸村
第13回	ストレングスモデル	戸村
第14回	事例検討①　統合失調症スペクトラム障害の治療と看護援助	戸村
第15回	事例検討②　抑うつ障害と双極性障害の治療と看護援助	戸村

参考文献	①American Psychiatric Association/日本精神神経学会, 高橋三郎(2023). DSM-5-TR 精神疾患の分類と診断の手引. 医学書院 ②宇佐美しおり, 野末聖香(2009). 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会 ③Sadock, B.J. et al(2015)/井上令一(2016). カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5診断基準の臨床への展開 第3版. メディカル・サイエンス・インターナショナル ④武井麻子他(2021). 精神看護の基礎①と②. 医学書院 ⑤ヤーロム, D., & ヴィノクラードフ, S (1989)/川室優 (2003). グループサイコセラピー　ヤーロムの集団精神療法の手引き. 金剛出版 ⑥日本家族研究・家族療法学会(2013). 家族療法テキストブック. 金剛出版 その他適宜文献を紹介する。
------	---

予習復習	事前に関連した文献を精読し、疑問点を明確にして授業に参加する。 ゼミでの学びを文章化し整理して新たな課題を明確にする。
評価方法	①プレゼンテーション：50％ ②課題レポート：50％ 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてフィードバックを行う。 課題レポートには助言とコメントをつけて返却する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	地域看護学特論
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 水馬 朋子
松原 みゆき

授業概要	地域看護分野における研究方法や情報分析の諸理論を学び、地域看護にかかわる課題を研究的に解決するための学修を深める。地域で生活する疾病や健康課題を持つ人々とその家族の支援に関する諸理論・活動の展開方法を理解し、効果的な在宅看護活動のあり方を探究する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-1. 1-3. 1-4. 1-5. 1-6. に対応する。
到達目標	1. 地域看護分野における高度実践の展開方法の諸理論を理解できる。 2. 地域看護活動の情報収集の方法と具体的な展開方法およびアセスメントの手法との諸理論を理解できる。 3. 在宅看護の現状と課題を明確にし、在宅療養者への効果的な在宅看護活動のあり方と評価方法を考察することができる。 4. 地域包括ケアシステムを推進するためにケアチームの一員として看護職がどのような役割を果たすべきか考察することができる。 5. 1.、2. についてを研究的に解決する方法を理解できる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	地域看護実践の理論的基盤① 地域保健・看護を取り巻く保健・医療・福祉の動向	予習：①3-23P	水馬
第2回	地域看護実践の理論的基盤② プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	予習：①3-23P ②1-29 P	水馬
第3回	地域看護実践の理論的基盤③ (1)地域診断の理論的方法 (2)個人・集団の健康に及ぼす環境に関する情報収集・アセスメント・分析と地域看護活動における展開方法	予習：①25-68P ②197-240 P	水馬
第4回	地域看護実践の理論的基盤④ 地域看護実践における倫理的課題、地域のエンパワメント	予習：①69-80P ②240-262 P	水馬
第5回	地域看護実践の理論的基盤⑤ 地域のパートナーシップ形成と地域文化理解	予習：①81-115P	水馬
第6回	地域看護実践の理論的基盤⑥ 都市とコミュニティのための健康政策	予習：①117-129P	水馬
第7回	グループ支援の理論と方法 セルフヘルプグループの支援と自主化のための支援	予習：③1-12P	水馬
第8回	コミュニティの組織化に関する理論と方法論 コミュニティ・オーガニゼーション、コミュニティ・ビルディング	予習：③12-50P	水馬
第9回	在宅看護実践① 在宅看護の定義・対象/人材育成	予習：④19-30	松原
第10回	在宅看護実践② 在宅看護の歴史（世界の在宅看護、日本の在宅看護）	予習：④3-18	松原

第11回	在宅看護実践③ 在宅看護実践に活用できる理論・倫理	予習：④31-48、121-129	松原
第12回	在宅看護実践④ 地域包括ケアシステム、在宅看護と他機関との連携	予習：④77-92	松原
第13回	在宅看護実践⑥ 対象別の在宅療養者と家族への支援（慢性疾患、難病、精神、小児、終末期、認知症） ※研究論文をもとに、現状と課題、解決策について検討する	予習：④133-199	松原
第14回	在宅看護実践⑦ リスクマネジメント、在宅看護の質の評価	予習：④295-310	松原
第15回	地域看護活動・在宅看護活動に関する研究の動向	予習：これまでの講義・プレゼン資料	水馬・松原

参考文献	①金川克子・早川和生（監訳）（2007）.コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際（第2版）. 医学書院. ②神馬征峰（2005）. 実践ヘルスプロモーション. 医学書院. ③安梅勅江（編著）（2005）. コミュニティ・エンパワメントの技法. 医歯薬出版株式会社. ④スーディ神崎和代編（2019）.在宅看護学講座 第2版. ナカニシヤ出版.
予習復習	各回に関連する文献、資料等を精読すること。 また、次回講義でのプレゼンテーション発表に備えて、資料作成をすること。資料の作成の際は、テキストだけでなく、その分野の先行研究などの知見も活用して考察する。
評価方法	講義・ディスカッションへの参加度・プレゼンテーション（50％）、レポート（50％）により総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントし、レポートにはコメントをつけて返却する。
備考	必要時、遠隔授業を行う。
オフィスアワー	水馬：金曜日 16：00～18：00 ／ 松原：講義後 30分

年度	2025
科目名	災害看護学特論Ⅱ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
世良 俊樹

授業概要	災害の発生からの時間軸に沿って、災害急性期の命を救う活動、避難所や仮設住宅での生活をする人たちへの看護活動を含めて、災害に備えた準備や訓練等を行う静穏期の看護活動について深く学ぶ。それぞれの看護活動を行う際に、どのようにアセスメントを行し看護活動につなげることができるのかを探究する。この授業科目は、ディプロマポリシー1-3, 1-4. に対応する。
到達目標	1. 災害の発生からの時間経過に沿った看護活動について説明できる。 2. 災害時特有の健康問題を説明できる。 3. 災害時特有の健康問題に対する看護活動について説明できる。 4. 災害後の心身のスクリーニングについて説明できる。 5. 災害事例を取り上げて、災害の時間軸にそった看護の展開について、具体的に説明できる。 6. 災害各期における看護の役割について説明できる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	災害発生からの時間軸にそった看護活動（概要）	中信
第2回	過去の事例から学ぶ（災害の時間軸にそった看護活動の事例展開）	中信
第3回	災害発生直後～急性期の災害時特有の健康問題と看護活動 （クラッシュシンドローム、フレイルチェスト等）	世良
第4回	災害発生直後～急性期の災害時特有の健康問題と看護活動 （クラッシュシンドローム、フレイルチェスト等）	世良
第5回	災害中期～後期の健康問題と看護活動 （深部静脈血栓症、感染症等）	世良
第6回	災害中期～後期の健康問題と看護活動 （深部静脈血栓症、感染症等）	世良
第7回	災害後期の健康問題と看護活動 （PTSD、うつ、アルコール依存症等） 【講義・演習】	中信
第8回	災害後期の健康問題と看護活動 （PTSD、うつ、アルコール依存症等） 【講義・演習】	中信
第9回	災害発生直後の心身の反応について 災害発生直後の心身のスクリーニングとそのフォロー体制 【講義・演習】	中信
第10回	避難所アセスメントの方法および避難所アセスメント後の看護介入方法について 【講義・演習】	中信
第11回	災害の時間軸にそった看護活動の展開：地震の場合 【演習】	中信
第12回	災害の時間軸にそった看護活動の展開：噴火の場合 【演習】	中信
第13回	災害の時間軸にそった看護活動の展開：風水害の場合 【演習】	中信
第14回	災害の時間軸にそった看護活動の展開：人為災害の場合 【演習】	中信

第15回	総括：災害時における看護の役割の探求	中信
------	--------------------	----

参考文献	随時提示する。
予習復習	各講義内容に関する文献を自己学習し講義にのぞみ、終了後は資料・文献等で復習する。
評価方法	演習形式で行う。 ①プレゼンテーション（５０％）、②課題レポート(50%)によって総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーションの内容や方法等についてコメントを返す。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 世良：講義前後

年度	2025
科目名	小児看護学Ⅰ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	1年次前期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	小児看護の対象である子どもと家族を理解するために必要な諸理論を学ぶ。子どもの成長・発達および援助理論について、心理・社会的な側面から理解を深めることにより、子どもと家族への援助を考える。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. に対応する。
到達目標	1. 看護理論について理解できる。 2. 小児看護における発達理論について理解できる。 3. 小児看護における援助に関する理論について理解できる。 4. 諸理論を活用して、子どもと家族への援助を考える。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	看護理論と実践 ・子どもと家族を援助するために必要となる看護理論について、看護理論の概略、理論と実践・援助との関連性などを学ぶ	山村
第2回	小児看護に関連する理論 ・小児看護に関連する諸理論などを学ぶ	山村
第3回	心理社会的発達理論（E. H. Erikson） ・子どもの発達を心理社会的側面からの発達として理解する	山村
第4回	リビドー発達論（S. Freud） ・子どもの発達を心理的側面からの発達を理解する	山村
第5回	認知発達理論（J. Piaget） ・子どもの認知の発達を理解する	山村
第6回	愛着理論（J. Bowlby） ・子どもと家族を愛着の視点からとらえ、親子関係について理解する	山村
第7回	母子関係理論（D. W. Winnicott） ・乳幼児の母子関係について理解する	山村
第8回	子どもやその家族を援助するための理論 コーピングの理論 ・コーピングの理論について理解する	山村
第9回	子どもやその家族を援助するための理論 セルフケアの理論 ・セルフケアの理論について理解する	山村
第10回	子どもやその家族を援助するための理論 ソーシャルサポートの理論 ・ソーシャルサポートの理論について理解する	山村
第11回	子どもやその家族を援助するための理論 家族の理論 ・家族看護に関する理論について理解する	山村
第12回	小児看護に関連する理論を活用した事例検討① ・心理社会的発達に関する事例を通して、理論と実践との関連性を考える	山村

第13回	小児看護に関連する理論を活用した事例検討② ・認知発達理論に関する事例を通して、理論と実践との関連性を考える	山村
第14回	小児看護に関連する理論を活用した事例検討③ ・愛着理論・母子関係理論に関する事例を通して、理論と実践との関連性を考える	山村
第15回	小児看護に関連する理論を活用した事例検討④ ・ソーシャルサポートに関する事例を通して、理論と実践との関連性を考える	山村

参考文献	①Crain,W.C.(1981)/小林芳郎, 中島実(訳)(1988). 発達の理論. 田研出版. ②Erikson,E.H.(1963)/仁科弥生(訳)(1977). 幼児期と社会1・2. みすず書房. 他、適宜提示・配布する。
予習復習	各回に関連する文献、資料等を精読して講義に臨む。授業後は、ディスカッション内容を踏まえ復習する。
評価方法	プレゼンテーション：20％、授業への取り組み（発言・参加態度）：30％、レポート：50％ 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返し、レポートは後日コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「1.小児・家族の成長・発達/健康生活に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	小児看護学Ⅱ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	1年次前期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	子どもの成長・発達や生活環境・生活状況を理解し、子どもと家族を包括的に査定するための方法を学ぶ。観察やインタビューの方法を学び、それを用いて情報収集や分析を行い、対象者の理解を深める技術を学ぶ。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. に対応する。
到達目標	1. 子どもと家族を包括的に査定するために必要な方法を理解することができる。 2. 対象者を理解するための方法や技術を理解することができる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	小児期の成長・発達とその評価	山村
第2回	子どもの発育・発達・精神・運動機能の評価	山村
第3回	観察① 観察の必要性、方法と分析	山村
第4回	インタビュー① インタビューの必要性、方法と分析	山村
第5回	子どもと家族の身体・心理・社会的側面のアセスメント① ・発達検査法；DENVERⅡの理解	山村
第6回	子どもと家族の身体・心理・社会的側面のアセスメント② ・発達検査法；DENVERⅡを用いたアセスメント	山村
第7回	子どもと家族の身体・心理・社会的側面のアセスメント③ ・発達検査法；遠城寺式乳幼児分析的発達検査法の理解	山村
第8回	子どもと家族の身体・心理・社会的側面のアセスメント④ ・発達検査法；遠城寺式乳幼児分析的発達検査法を用いたアセスメント	山村
第9回	子どもと家族の身体・心理・社会的側面のアセスメント⑤ ・家庭環境のアセスメント；日本版家庭環境評価法の理解	山村
第10回	子どもと家族の身体・心理・社会的側面のアセスメント⑥ ・家庭環境のアセスメント；日本版家庭環境評価法を用いたアセスメント	山村
第11回	子どもと家族の身体・心理・社会的側面のアセスメント⑦ ・知能検査法；田中ビネー式、ウェクスラー系の理解とアセスメント	山村
第12回	子どもと家族の身体・心理・社会的側面のアセスメント⑧ ・学童・思春期の自我の発達、社会性の発達（親や友人との関係性）の理解とアセスメント	山村
第13回	観察② 情報収集に関する技法について（観察した子どもの分析と評価）	山村
第14回	インタビュー② 情報収集に関する技法について（インタビューした子どもの分析と評価）	山村
第15回	子どもと家族の包括的な発達の理解	山村

参考文献	①やまだようこ（2007）. 質的心理学の方法 語りをさく. 新曜社. ②柴山真琴（2006）. 子どもエスノグラフィー入門. 新曜社. その他、適宜提示・配布する。
------	---

予習復習	①【予習】各回に関連する子どもと家族の健康を包括的に査定するための方略や技術・技法について文献等を読み、分析が深められるように準備して臨む。 ②【復習】授業後は、ディスカッション内容を踏まえ復習する。 ③【課題】 ・第3回「観察」の講義後、子どもの観察を実施し、第13回で分析結果を発表する ・第4回「インタビュー」の講義後、子どもあるいは大人へのインタビューを実施し、第14回で分析結果を発表する。
評価方法	プレゼンテーション：20%、授業への取り組み（発言・参加態度）：30%、課題レポート：50% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返し、レポートは後日コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「2.小児看護対象の査定に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	小児看護学Ⅲ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
開講時期	1年次前期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝
原田 雅子

授業概要	子どもの身体的な発達を査定するために、子どものフィジカルアセスメントの技法を学ぶ。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. に対応する。
到達目標	1. 子どものフィジカルアセスメントにおける意義を理解することができる。 2. 子どものフィジカルアセスメントの技法（頭部・感覚器系、呼吸器系・循環器系、消化器系、泌尿器系、筋・骨格系、運動器系、神経系、反射に関する技法）を理解することができる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	子どものフィジカルアセスメントの意義	山村
第2回	子どものフィジカルアセスメントにおける必要な技術	山村
第3回	系統的フィジカルアセスメント①-1 一般状態と成長・発達に関する講義	原田、山村
第4回	系統的フィジカルアセスメント①-2 一般状態と成長・発達に関する演習	原田、山村
第5回	系統的フィジカルアセスメント②-1 頭部・感覚器系に関する講義	原田、山村
第6回	系統的フィジカルアセスメント②-2 頭部・感覚器系に関する演習	原田、山村
第7回	系統的フィジカルアセスメント③-1 胸部（呼吸器系・循環器系）に関する講義	原田、山村
第8回	系統的フィジカルアセスメント③-2 胸部（呼吸器系・循環器系）に関する演習	原田、山村
第9回	系統的フィジカルアセスメント④-1 腹部（消化器系）、鼠径部（泌尿器系）に関する講義	原田、山村
第10回	系統的フィジカルアセスメント④-2 腹部（消化器系）、鼠径部（泌尿器系）に関する演習	原田、山村
第11回	系統的フィジカルアセスメント⑤-1 筋・骨格系、運動器系に関する講義	原田、山村
第12回	系統的フィジカルアセスメント⑤-2 筋・骨格系、運動器系に関する演習	原田、山村
第13回	系統的フィジカルアセスメント⑥-1 神経系、反射に関する講義	原田、山村
第14回	系統的フィジカルアセスメント⑥-2 神経系、反射に関する演習	原田、山村
第15回	子どものフィジカルアセスメントの評価	山村

参考文献	土井まつ子, 椛山委都子, 仲井美由紀(2001). フィジカル・アセスメントの実際. 小野田千枝子（監修）, こどものフィジカル・アセスメント. 金原出版. その他、適宜提示・配布する。
予習復習	系統的フィジカルアセスメントの各回は、事前に該当する部分の方法とポイントについて予習して臨むこと。授業後は、ディスカッション内容を踏まえ復習すること。 【課題】 系統的フィジカルアセスメント①～⑥の事前学習・演習でのコメント・課題となることなどをレポートとしてまとめる。

評価方法	授業や演習への取り組み（発言・参加態度）：50％、課題レポート：50％ 演習での取り組みについては、授業・演習中にコメントをし、レポートは後日コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「2.小児看護対象の査定に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	小児看護学Ⅳ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	後期
開講時期	1年次後期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	子どもやその家族を取り巻く社会・保健・福祉・教育の制度を理解することにより、質の高い生活ができるように、環境調整の方法や関連する制度・政策等の方策を検討する。また、社会資源の活用について理解を深め、小児看護の専門職として現状の分析や今後の課題などを明確にし、他職種との連携や調整能力を養う。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-3, 2-4. に対応する。
到達目標	1. 子どもや家族を取り巻く社会・保健・福祉・教育の制度を理解することができる。 2. 子どもや家族を取り巻く現状を分析し、課題を明確にすることができる。 3. 他職種との連携や調整の方法論を理解することができる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	子どもと家族に関する法律・保健・医療制度や政策	山村
第2回	小児医療・小児救急医療の状況と課題	山村
第3回	子どもと家族を取り巻く制度・政策・体制①法律・条約	山村
第4回	子どもと家族を取り巻く制度・政策・体制②保健医療制度・福祉制度	山村
第5回	子どもと家族を取り巻く制度・政策・体制③教育に関する制度	山村
第6回	子どもと家族を取り巻く制度・政策・体制④診療報酬	山村
第7回	小児医療に関する課題①救急医療	山村
第8回	小児医療に関する課題②外来医療	山村
第9回	小児医療に関する課題③子どもの在宅医療	山村
第10回	小児医療に関する課題④障害児の医療	山村
第11回	子どもや家族が置かれている状況と社会・保健・福祉・教育の制度との連携① ・関連する領域との連携・調整における課題を明らかにする	山村
第12回	子どもや家族が置かれている状況と社会・保健・福祉・教育の制度との連携② ・関係領域との連携・調整のあり方・政策などを考える	山村
第13回	子どもや家族が置かれている状況と社会・保健・福祉・教育の制度との連携③ ・子どもと家族を取り巻く状況に応じた援助の検討	山村
第14回	子どもや家族が置かれている状況と社会・保健・福祉・教育の制度との連携④ ・子どもと家族を取り巻く状況に応じた援助の課題の検討	山村
第15回	子どもや家族が置かれている状況と社会・保健・福祉・教育の制度との連携⑤ ・他職種との連携と調整に関する検討	山村

参考文献	日本医療ソーシャルワーク研究会（編）(2023). 医療福祉総合ガイドブック 2023年度版. 日本医療ソーシャルワーク研究会. 医学書院. 福井トシ子, 齋藤訓子(編)(2020). 診療報酬・介護報酬のしくみと考え方ー改定の意図を知り看護管理に活かす 令和2年度改定対応(第5版). 日本看護協会 出版会.
------	--

	その他、適宜提示・配布する。
予習復習	子どもや家族を取り巻く社会・保健・福祉・教育などに関連する法律・条約、制度など最新の情報に基づいた上で授業に臨むこと。授業後は、ディスカッション内容を踏まえ復習すること。
評価方法	プレゼンテーション：20％、授業への取り組み（発言・参加態度）：30％、レポート：50％ 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返し、レポートは後日コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「5.小児の保健/医療環境/制度に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	小児看護学Ⅴ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
開講時期	1年次後期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	様々な健康レベルにある子どもと家族の状況を理解し、倫理的判断および臨床的判断に基づいて分析し、小児看護専門看護師としての援助方法を探求する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-3. 2-4. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 子どもと家族の尊厳を守るための法律・条約・規約について説明することができる。 2. 小児看護実践における倫理的課題を理解することができる。 3. 様々な状況にある子どもと家族が置かれている状況に対する課題の援助方法を探求することができる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	子どもの権利やインフォームド・アセントをめぐる歴史的発展過程と状況	山村
第2回	小児看護実践における倫理に関する法律・条約・規範	山村
第3回	小児看護実践における倫理的課題	山村
第4回	小児看護における医療事故と倫理	山村
第5回	特有な状況にある子どもと家族への援助（状況の把握・倫理的課題の明確化・援助における課題と方略）①-1 急性状況にある子どもと家族の課題	山村
第6回	特有な状況にある子どもと家族への援助（状況の把握・倫理的課題の明確化・援助における課題と方略）①-1 急性状況にある子どもと家族への方略	山村
第7回	特有な状況にある子どもと家族への援助（状況の把握・倫理的課題の明確化・援助における課題と方略）②-1 慢性状況にある子どもと家族の課題	山村
第8回	特有な状況にある子どもと家族への援助（状況の把握・倫理的課題の明確化・援助における課題と方略）②-2 慢性状況にある子どもと家族への方略	山村
第9回	特有な状況にある子どもと家族への援助（状況の把握・倫理的課題の明確化・援助における課題と方略）③-1 重症心身障害児・医療的ケアが必要な子どもと家族の課題	山村
第10回	特有な状況にある子どもと家族への援助（状況の把握・倫理的課題の明確化・援助における課題と方略）③-2 重症心身障害児・医療的ケアが必要な子どもと家族への方略	山村
第11回	特有な状況にある子どもと家族への援助（状況の把握・倫理的課題の明確化・援助における課題と方略）④-1 発達障害をもっている子どもと家族の課題	山村
第12回	特有な状況にある子どもと家族への援助（状況の把握・倫理的課題の明確化・援助における課題と方略）④-2 発達障害をもっている子どもと家族への方略	山村
第13回	特有な状況にある子どもと家族への援助（状況の把握・倫理的課題の明確化・援助における課題と方略）⑤-1 貧困・虐待が疑われる状況にある子どもと家族の課題	山村
第14回	特有な状況にある子どもと家族への援助（状況の把握・倫理的課題の明確化・援助における課題と方略）⑤-2 貧困・虐待が疑われる状況にある子どもと家族への方略	山村
第15回	様々な状況にある子どもと家族への援助における小児看護専門看護師の役割と課題	山村

参考文献	Fry,S.T.&Johnstone,M.J.（2008）/片田範子,山本愛子(訳)(2010).看護実践の倫理 （第3版）. 日本看護協会出版会. その他、適宜提示・配布する。
------	--

予習復習	各回に関連する文献を読み、課題等のディスカッションができるように準備して授業に臨むこと。授業後は、ディスカッション内容を踏まえ復習すること。
評価方法	プレゼンテーション：20％、授業への取り組み（発言・参加態度）：30％、レポート：50％ 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返し、レポートは後日コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「4.小児看護援助方法に関する科目」に該当する。 第1～4回は対面で行います。第5回以降は遠隔授業も可能です。その場合は事前に担当教員に連絡ください。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	小児看護学Ⅵ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
開講時期	1年次後期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝
神野 和彦

授業概要	小児期における疾患と治療を理解し、専門的ケアを提供するための病態生理や検査、治療法（栄養療法、薬物療法など）について学ぶ。また、それらをもとに症状マネジメントについて考え、専門的ケアを探究する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. に対応する。
到達目標	1. 小児期に特有な病気の病態生理について説明することができる。 2. 診断に必要な検査法とその解釈について説明することができる。 3. 検査結果に基づいた判断、治療過程、症状マネジメントについて説明することができる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	子どもと家族の包括的アセスメントに関する概要① 子どもと家族の包括アセスメント	山村
第2回	子どもと家族の包括的アセスメントに関する概要② 包括的アセスメントの概要と活用	山村
第3回	呼吸器疾患の病態生理・診断に必要な検査・治療と看護① 疾患の特徴と病態生理	神野
第4回	呼吸器疾患の病態生理・診断に必要な検査・治療と看護② 小児に必要な看護	神野
第5回	循環器疾患の病態生理・診断に必要な検査・治療と看護① 疾患の特徴と病態生理	神野
第6回	循環器疾患の病態生理・診断に必要な検査・治療と看護② 小児に必要な看護	神野
第7回	血液疾患の病態生理・診断に必要な検査・治療と看護① 疾患の特徴と病態生理	神野
第8回	血液疾患の病態生理・診断に必要な検査・治療と看護② 小児に必要な看護	神野
第9回	消化器疾患の病態生理・診断に必要な検査・治療と看護① 疾患の特徴と病態生理	神野
第10回	消化器疾患の病態生理・診断に必要な検査・治療と看護② 小児に必要な看護	神野
第11回	神経・筋疾患の病態生理・診断に必要な検査・治療と看護① 疾患の特徴と病態生理	神野
第12回	神経・筋疾患の病態生理・診断に必要な検査・治療と看護② 小児に必要な看護	神野
第13回	小児期特有の病気に罹患した子どもと家族への専門的ケア① 呼吸器・循環に関する事例	山村
第14回	小児期特有の病気に罹患した子どもと家族への専門的ケア② 血液に関する事例	山村
第15回	小児期特有の病気に罹患した子どもと家族への専門的ケア③ 消化器・神経・筋に関する	山村

参考文献	授業初回時に提示する。
予習復習	各回に関連する文献を読み、課題等のディスカッションができるように準備して授業に臨むこと。授業後は、ディスカッション内容を踏まえ復習すること。
評価方法	授業への取り組み（発言・参加態度）：50%、レポート：50% 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返し、レポートは後日コメントをつけて返却する。

備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「3.小児の病態・治療に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00 ／ 神野：講義前後

年度	2025
科目名	小児看護学Ⅶ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	2年次前期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	様々な健康レベルにある子どもと家族への援助を実践するために、小児看護専門看護師の役割（実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育、研究）の視点から援助方法を探求する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-5. に対応する。
到達目標	1. 小児看護実践における課題について説明することができる。 2. 様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助について方法を分析することができる。 3. 様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法を考案することができる。 4. 小児看護専門看護師の役割について課題を明確にすることができる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	小児看護実践における課題の動向	山村
第2回	小児看護実践における課題の抽出	山村
第3回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析①-1 ・実践事例における子どもと家族への看護に困難感を抱える看護師の課題	山村
第4回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析①-2 ・実践事例における子どもと家族への看護に困難感を抱える看護師の分析	山村
第5回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析②-1 ・子どもと家族への看護に困難感を抱える看護師への事例中心のコンサルテーションの課題	山村
第6回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析②-2 ・子どもと家族への看護に困難感を抱える看護師への事例中心のコンサルテーションの分析	山村
第7回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析③-1 ・在宅へ移行する子どもと家族の事例を中心としたコーディネーションの課題	山村
第8回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析③-2 ・在宅へ移行する子どもと家族の事例を中心としたコーディネーションの分析	山村
第9回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析④-1 ・慢性疾患で長期入院している子どもと家族の看護の事例における倫理調整の課題	山村
第10回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析④-2 ・慢性疾患で長期入院している子どもと家族の看護の事例における倫理調整の分析	山村
第11回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析⑤-1 ・重症度の高い子どもと家族に看護を実践している看護師を対象とした場合に必要となる教育の課題	山村
第12回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析⑤-2 ・重症度の高い子どもと家族に看護を実践している看護師を対象とした場合に必要となる教育の分析	山村
第13回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析⑥-1 ・子どもと家族への看護に困難感を抱える看護師の実践から課題を見出す	山村

第14回	様々な健康レベルにおける子どもと家族への援助方法と実践の分析⑥-2 ・子どもと家族への看護に困難感を抱える看護師の実践において見い出された課題への研究の必要性について検討する	山村
第15回	小児看護専門看護師の役割としての課題	山村

参考文献	適宜提示・配布する。
予習復習	小児看護専門看護師の役割（実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育、研究）の視点から実践例や文献例などを収集し、各回でのプレゼンテーションができるよう準備して臨むこと。授業後は、ディスカッションした内容を基に研究課題のポイントを絞り込み、次の授業に臨むこと。
評価方法	プレゼンテーション：20％、授業への取り組み（発言・参加態度）：30％、レポート：50％ 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返し、レポートは後日コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「4.小児看護援助方法に関する科目」に該当する。 第1,2回は対面で行います。第3回以降は遠隔授業も可能です。その場合は事前に担当教員に連絡ください。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	小児看護学実習Ⅰ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	2.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次前期～後期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	小児期に特有な病気の診断および治療方法を学び、さまざまな健康障害をもつ子どもへの医学的臨床判断能力に基づいた看護を探究する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. に対応する。
到達目標	1. 小児期に特有な病気の病態生理、診断、治療法について述べるができる。 2. 診断のために必要な検査法および結果の判断について述べるができる。 3. 小児の薬物療法について述べるができる。
授業内容	【小児看護学実習Ⅰ】 小児の診断・治療実習 1. 小児期に特有な病気の診断と治療について理解する。 1) 外来または病棟において医師の診察に同行し、見学や医師による解説を通して診断と治療に至るプロセス、治療方法について学ぶ。 2) 子どもと家族の了解および医師の指導のもと、疾病に罹患した子どもの身体症状の査定を行う。 3) 2) の事例について、医師や実習指導者とカンファレンスを持ち、医学的臨床判断に関するディスカッションを行う。 4) 医師、他職種とのカンファレンスに参加する。 2.小児期に特有な病気の医学的臨床判断に関するレポートを作成する。 1) 子どもの病気、年齢を考慮して、幅広い事例を選択して見学する。 2) 適宜、医師や実習指導者からスーパービジョンを受ける。 3) 事例は、10例以上とし、医学的臨床判断に関するレポートを作成する。 なお、実習期間及び実習施設、手続きの方法等についてはオリエンテーションの後、学生との調整の上、決定する。 <実習担当者> 県立広島病院 指導担当医師 神野和彦 県立広島病院 小児看護専門看護師 原田雅子

参考文献	適宜、提示する。
予習復習	小児看護学特論Ⅵの授業内容の復習をして実習に臨むこと。実習後は、実習中のコメントを基に次の実習につなげられるよう課題を明確にする。
評価方法	小児看護学実習（小児看護専門看護師課程）実習要項(別紙)の実習Ⅰの評価基準に準じ、実習記録80%、実習への取り組み20%で評価する。実習記録には随時コメントをして返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「実習Ⅰ：小児の診断・治療実習」に該当する。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	小児看護学実習Ⅱ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	2.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次前期～後期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	臨床において小児看護専門看護師が果たす実践・コンサルテーション・コーディネーション・教育的関わり・倫理調整・研究についての役割や機能を理解する。また、小児看護対象である子どもと家族を査定する方法について理解する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 小児看護専門看護師の実践・コンサルテーション・コーディネーション・教育的関わり・倫理調整・研究について役割や機能を理解する。 2. 子どもと家族を包括的にアセスメントするため方法を理解する。 3. 子どもへの系統的フィジカルアセスメントを理解する。
授業内容	【小児看護学実習Ⅱ】 専門看護師実習 1. 小児看護専門看護師の実践場面の見学を行う。 1) 小児看護専門看護師が実践している看護の難しい患児やその家族へのケアを継続的に見学を行う。 2) 看護職者へのコンサルテーションの実践活動の見学を行う。 3) 患児と家族を援助するために必要と思われる保健・医療・福祉チームにおける他職種との調整の実践活動の見学を行う。 4) 看護職者への教育的かわりについて見学を行う。 5) 小児看護領域における倫理的問題について倫理的調整の実践について見学を行う。 6) 小児看護領域における知識や技術の向上のために実践の場で行われている研究活動について見学を行う。 2. 小児看護専門看護師が実践している子どもと家族の査定方法に関する見学を行う。 1) 小児看護専門看護師が実践している子どもと家族を包括的にアセスメントするため方法を見学する。 2) 小児看護専門看護師が実践している子どもへの系統的フィジカルアセスメントを見学する。 3. 見学した内容についてレポートを作成する。 1) 小児看護専門看護師の実践・コンサルテーション・コーディネーション・教育的関わり・倫理調整・研究について役割や機能について述べる。 2) 小児看護専門看護師が実践した子どもと家族への査定方法、子どもへの系統的フィジカルアセスメントに関する内容をまとめる。 <実習担当者> 広島大学病院　小児看護専門看護師　笹木忍、武澤友弘 広島大学病院　小児科病棟師長　　　横田真由香

参考文献	適宜、提示する。
予習復習	小児看護学Ⅰ～Ⅶの授業内容の復習をしておくこと。実習後は、実習中のコメントを基に次の実習につなげられるよう課題を明確にする。
評価方法	小児看護学実習（小児看護専門看護師課程）実習要項(別紙) の実習Ⅱの評価基準に準じ、実習記録80%、実習への取り組み20%で評価する。実習記録には随時コメントをして返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「実習Ⅱ：専門看護師実習」に該当する。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	小児看護学実習Ⅲ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	6.0
総開講時間数	270.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次前期～後期

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	さまざまな健康障害をもつ子どもやその家族を直接的にケアし、専門的な知識と経験を集積するとともに、病棟で行われるカンファレンスなどに参加し、病棟の看護師が抱えている問題や他職種が関与する問題を分析する。明確になった課題の解決に向けて個別検討を行い、教育的なかかわりや倫理的な調整を体験し、専門看護師としての高度な実践技術を修得する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. さまざまな健康障害をもつ子どもやその家族に対してケアを実践する。 2. 看護職者へのコンサルテーションを実施する。 3. 子どもと家族に関する保健・医療・福祉間のコーディネーションを実施する。 4. 看護職者への教育的かかわりを実践する。 5. 倫理的調整を実践する。 6. 臨床実践における知識や技術の向上のための研究活動を実践する。
授業内容	【小児看護学実習Ⅲ】 専門看護師実習 1. 小児看護関連領域における高度な実践技術を修得する 1) 看護上難しい課題を抱えた子どもやその家族へのケアを継続的に実践する。 2) 看護上難しい課題を抱えた子どもやその家族の事例の分析を行う。 3) 2) の事例について、ケア計画の立案をし、実践、評価を行う。 4) 3) について実践分析を行い、レポートとしてまとめる。直接的ケア事例数：5事例以上 2. 小児看護関連領域におけるコンサルテーション・コーディネーション・倫理調整・教育について実施する 1) 子どもやその家族に質の高い看護ケアを提供するために、組織(施設単位・病棟単位)の分析を行う。 2) 実習施設の看護師がもつ看護上の課題や看護実践における不安などを分析した上で、その課題や不安についてのコンサルテーションを行う。また、看護師の希望に応じて教育的関わりを実践する。 3) 子どもやその家族の看護から導き出された教育的ニーズを分析し、必要に応じてケア計画を立案し、実践する。 4) 慢性的な疾患をもち在宅療養をしている子どもやその家族および病院・施設で長期療養している子どもやその家族を対象に、保健・医療・福祉分野における他職種と連携・協働している事例を受け持ち、調整のあり方やその内容について分析し、必要に応じて介入を行う。 5) 子どもへのケア過程において、子どもと家族、家族と医療者、医療者間に葛藤が生じている場合、その内容を諸理論や文献を用いて分析し、倫理調整を行う。 6) 実習で関わった子どもやその家族の事例についてプレゼンテーションをおこない、担当教員からスーパービジョンを受ける。 7) コンサルテーション・コーディネーション・倫理調整・教育に関するレポートを作成する。 各2事例以上 なお、実習期間及び実習施設、手続きの方法等についてはオリエンテーションの後、学生との調整の上、決定する。 <実習担当者> 広島大学病院 小児看護専門看護師 笹木忍、武澤友弘 広島大学病院 小児科病棟棟長 横田真由香

参考文献	適宜、提示する。
予習復習	小児看護学Ⅰ～Ⅶの授業内容の復習をしておくこと。実習後は、実習中のコメントを基に次の実習につなげられるよう課題を明確にする。
評価方法	小児看護学実習（小児看護専門看護師課程）実習要項(別紙) の実習Ⅲの評価基準に準じ、実習記録80%、実習への取り組み20%で評価する。実習記録には随時コメントをして返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「実習Ⅱ：専門看護師実習」に該当する。
オフィスアワー	山村：金曜日 11：00～13：00

年度	2025
科目名	がん看護学Ⅰ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	1年次前期 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	遺伝子など分子生物学的視点からがんの発生、増殖のメカニズムを理解する。さらに、疾患の診断・治療のプロセスを最新の動向およびエビデンスをふまえて理解する。がん医療と看護実践との関連を明らかにし、ケアとキュアを統合して看護を実践する能力を養うとともに、がん医療におけるがん看護専門看護師の役割を探究する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 遺伝子や細胞増殖のメカニズムを基盤として、がん発生の病態生理を理解できる。 2. がん発生の病態生理を基盤として、がん予防や早期発見のためのエビデンスを理解できる。 3. 各種がんの診断、検査、標準的治療とその効果判定、および最先端医療を理解できる。 4. がん細胞に対する化学療法、放射線療法などの作用機序や有害事象について理解できる。 5. 臨床の場で多職種と協働してがん治療期にある患者や家族に対するアセスメントと看護援助に必要な知識を理解できる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	疾病の診断と治療過程と看護実践／主要ながんとその診療ガイドラインの活用	新任教員
第2回	発がん因子とがん発生のメカニズム、がん遺伝子とがん抑制遺伝子	藤原
第3回	がんの進展様式と身体への影響、がんの診断（病理診断など）	藤原
第4回	がんの集学的治療と効果判定	橋本
第5回	食道がん、胃がんの診断と治療	橋本
第6回	結腸がん、直腸がんの診断と治療	橋本
第7回	肺がんの診断と治療	山崎
第8回	肝臓がん、胆嚢がん、膵臓がんの診断と治療	前田
第9回	乳がんの診断と治療	片岡
第10回	前立腺がんの診断と治療	平田
第11回	子宮体がん、子宮頸部がん、卵巣がんの診断と治療	三春
第12回	悪性リンパ腫の診断と治療	牟田
第13回	多発性骨髄腫の診断と治療	牟田
第14回	がんと放射線療法（高精度放射線療法を含む）／緩和的放射線療法	高橋
第15回	Oncologic Emergency Care(脊髄圧迫症候群、頭蓋内圧亢進症、心タンポナーデなど)	高橋

参考文献	①講義資料は、各担当講師と協議の上提示する。 ②科目責任者の推薦書 ・各種がんの診療ガイドラインの最新版を必読すること。
------	--

	・各種がんの診療に関する情報入手について各自で実施すること。
予習復習	①予習として授業内容の資料を検索し、知識を整理する。また、講義では、質問するなど積極的に参加する。
評価方法	①授業への参加度50％ ②課題レポート50％。課題レポートについては、コメントをつけて返却する。
備考	①この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「がん看護に関する病態生理学」に該当する。 ②第2～15回の講義では、がんの診断治療に関わる医師がオムニバスで担当する。 ③講義の進め方は、各担当講師と協議し決定する。1コマ90分とする。
オフィスアワー	新任教員・藤原・橋本・山崎・前田・片岡・平田・三春・牟田・高橋：講義前後

年度	2025
科目名	がん看護学Ⅱ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
開講時期	1年次前期 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	がん患者や家族の理解や看護を実践する上で基盤となる理論を学ぶ。さらに、高度実践看護師として、臨床で活用するために、研究成果や個々の臨床経験に基づいて検討し、看護実践のあり方を探求する。以上のことから、がん看護専門看護師の役割を創造する能力を育成する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 国内外のがん看護および緩和ケアの歴史的経緯と動向を理解できる。 2. がん専門看護師の歴史、役割、現状と課題を理解できる。 3. がん患者や家族に看護を実践する上で基盤となる有用な理論を理解できる。 4. がん看護に有用な理論を看護実践や研究における活用を検討できる。 5. がん看護実践や研究において看護理論を活用する上での課題を検討できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	国内外のがん看護および緩和ケアの概念、歴史と動向の理解	新任教員
第2回	がん看護専門看護師の歴史、6つの役割とその現状と課題	新任教員
第3回	ストレス・コーピング理論、ソーシャルサポートの理解	新任教員
第4回	ストレス・コーピング理論、ソーシャルサポートのがん看護実践への活用	新任教員
第5回	危機理論の理解	新任教員
第6回	危機理論とがん看護実践への活用	新任教員
第7回	セルフケア理論の理解	新任教員
第8回	セルフケア理論とがん看護実践への活用	新任教員
第9回	喪失/悲嘆理論の理解	新任教員
第10回	喪失/悲嘆理論とがん看護実践への活用	新任教員
第11回	病みの軌跡理論の理解	新任教員
第12回	病みの軌跡理論のがん看護実践への活用	新任教員
第13回	不確かさ理論の理解	新任教員
第14回	不確かさ理論とがん看護実践への活用	新任教員
第15回	がん看護実践や研究において看護理論を活用する上での課題	新任教員

参考文献	①筒井真優美(編) (2020) . 看護理論家の業績と理論評価（第2版）. 医学書院. ②井部俊子(監) (2015) . 専門看護師の思考と実践. 医学書院. その他授業時に提示する。
予習復習	各自、事前に関連した文献を購読し、レポートを作成し疑問点を明確にしてゼミに参加する。学生によるプレゼンテーションを行い、討議により理解を深める。また、終了後は、自らの考察を文章化しファイルする。

評価方法	①プレゼンテーション及び課題レポート50% ②最終レポート30% ③授業への参加度20%、により評価を行う。プレゼンテーションについては、授業中にコメントを行う。また最終レポートについては、コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「がん看護に関する理論」に該当する。
オフィスアワー	新任教員：講義前後

年度	2025
科目名	がん看護学Ⅲ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	1年次前期 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
鈴木 志津枝
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	がんの予防と早期発見、病名や予後告知、治療の選択、診断・治療の過程におけるがん患者と家族を理解し、その過程に生じる教育・倫理・研究課題と看護援助について探求する。さらに専門性の高いがん看護を実践するために、意思決定支援、がん治療の特徴や発達段階に応じた援助、がん患者の家族に対する援助について理解し、ケアとキュアの統合による高度で包括的な高度看護実践能力を 育成する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 現在行われている病気の予防と早期発見のための個人・集団への援助を理解し、今後の課題を見出せる。 2. がん患者と家族が体験する、診断・治療過程における特徴的な意思決定場面を取り上げ、合意意思決定に向かう看護実践を探求できる。 3. がん治療の特徴や発達段階に応じて健康上の問題を理解した援助法を学習する。 4. 者の家族・遺族への援助の必要性を理解し、援助を探求するとともに、家族・遺族への援助における教育・倫理・研究課題を見出せる。 5. 自己の看護体験を振り返り、文献を用いて体験を意味づけ、意見交換によって考察を深めることができる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	がんの予防と早期発見のための個人および集団への援助	新任教員
第2回	受診・診断過程におけるがん患者と家族の理解と意思決定支援と看護職の役割	新任教員
第3回	診断期（病名告知、予後告知、治療法の選択）におけるがん患者と家族の意思決定支援	新任教員
第4回	再発・転移期（病状告知、治療法の変更など）におけるがん患者と家族の意思決定支援	新任教員
第5回	終末期(積極的治療の中止、ＤＮＡＲ、療養の場など）におけるがん患者と家族の意思決定支援	新任教員
第6回	がん治療(手術療法）を行うがん患者と家族の特徴と援助	新任教員
第7回	がん治療（放射線療法）を行うがん患者と家族の特徴と援助	新任教員
第8回	がん治療（薬物療法）を行うがん患者と家族の特徴と援助	新任教員
第9回	青年期のがん患者の特徴の理解と援助	新任教員
第10回	壮年期のがん患者の特徴の理解と援助	新任教員
第11回	老年期のがん患者の特徴の理解と援助	新任教員
第12回	がん患者の家族の理解と援助／家族エンパワーメントモデル、家族ストレス対処理論、家族危機モデル、家族適応の二重ABCXモデルの理解と活用	鈴木
第13回	がん患者の家族の理解と援助／エンリッチメントの概念とその活用(事例検討）／家族の意思決定支援	鈴木
第14回	遺族（家族）の理解と援助／グリーフケアと倫理的課題	鈴木
第15回	がん患者の家族看護に関する実践・研究の動向と課題	鈴木

	①大西和子, 飯野京子,平松玉江（編）（2018）. がん看護学－臨床に活かすがん看護の基礎と実践（第2版）. ヌーヴェルヒロカワ. ②榮木実枝（監）（2015）. がん看護ビジュアルナースィング. 学研メディカル秀潤社.
--	--

参考文献	③鈴木和子, 渡辺裕子,佐藤律子（2019）. 家族看護学 理論と実践（第5版）. 日本看護協会出版会. ④南裕子（監）（2015）. 臨床がんサバイバーシップ-"行きぬく力を高めるかかわり". 仲村書林. ⑤水崎知子（2008）. 考えるがん看護. すぴか書房. ⑥一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会 コアカリキュラム ワーキンググループ（編）（2017）. がん看護コアカリキュラム日本版－手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院. その他、適宜提示する。
予習復習	予習として各回テーマの概要をまとめ知識を整理したレポートを作成する。授業では、各テーマに関連した研究論文や事例を用いて高度な看護実践についてディスカッションを行う。なお、授業後に自己の課題を明確にする。
評価方法	①プレゼンテーション及び課題レポート50%、②最終レポート30%、③授業への参加・貢献度20%により評価を行う。プレゼンテーションについては、授業中にコメントを行う。また、最終レポートにはコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程における「がん看護に関する看護援助論」に該当する。
オフィスアワー	新任教員・鈴木：講義の前後

年度	2025
科目名	がん看護学Ⅳ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	後期
開講時期	1年次後期 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	がん患者や家族に対し、身体的・心理的・社会的・教育的な側面からリハビリテーションの理論や概念を基盤として、病態生理やがん治療に基づく知識と研究成果、文献検討、個々の体験を活用してがん患者や家族のセルフケア能力やQOLを高めるための臨床判断過程と援助法を学び、看護実践上の課題を探究する。また、チーム医療や地域連携の観点からみたがんリハビリテーションのあり方を検討し、高度実践看護師としての役割を実践していく能力を育成する。この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. リハビリテーション、リハビリテーション看護、国際生活機能分類の定義や障がいの概念を理解できる。 2. がんサバイバーシップの概念やがんサバイバーシップに向う看護援助法と課題を理解できる。 3. がん患者の全身性機能障がいに対するリハビリテーション（理学的療法技術を含む）の実際を理解し、その課題を検討できる。 4. がん患者のQOLを高めるための教育的・心理的リハビリテーションの実際を理解し、その課題を検討できる。 5. がん患者のQOLを高めるためのフィジカルフィットネス（理学的療法技術を含む）の実際とその課題を検討できる。 6. がんリハビリテーションの現状を理解し、チームアプローチにおけるがん看護専門看護師による相談支援、教育支援のあり方と課題を検討できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	がんリハビリテーションの歴史と概念、リハビリテーション看護の歴史と概念	新任教員
第2回	障害構造論、国際生活機能分類（ICF）の概念と活用、リハビリテーションプログラムの立案と評価	新任教員
第3回	がん患者のリハビリテーションの種類：予防的、回復的、維持的、緩和的リハビリテーション（Diezの分類）と援助	新任教員
第4回	がんのリハビリテーションの特徴、がんリハビリテーションの対象となる障害の種類	新任教員
第5回	がんサバイバーシップの概念、がんサバイバーの体験の理解	新任教員
第6回	がんサバイバーシップに向かう援助と課題	新任教員
第7回	がん患者のQOLを高めるための援助① 身体機能維持・回復に対するリハビリテーション／フィジカルフィットネスと評価	新任教員
第8回	がん患者のQOLを高めるための援助② 心理的リハビリテーションと援助法／心理のアセスメント	新任教員
第9回	がん患者のQOLを高めるための援助③ がんとともに生きる、がんの診療過程とがん患者の心の動き	新任教員
第10回	がん患者のQOLを高めるための援助④ 社会的リハビリテーションと援助法／社会面のアセスメント	新任教員
第11回	がん患者のQOLを高めるための援助 疾病と就労の両立支援／事業所における治療と職業生活の両立支援	新任教員
第12回	がん患者のQOLを高めるための援助⑤ 教育的リハビリテーションと援助法／教育面のアセスメント	新任教員
第13回	がん患者と家族における生活の再構築を支える社会資源の活用と開発	新任教員

第14回	がん診療連携拠点病院におけるリハビリテーションの現状と課題	新任教員
第15回	チームアプローチとがん看護専門看護師の役割および課題	新任教員

参考文献	①辻哲也(編) (2021) .がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで(第2版). 医学書院. ②辻哲也 (編) (2018) .がんのリハビリテーション.医学書院. ③日本リハビリテーション医学会がんのリハビリテーション診療ガイドライン改訂委員会(編)(2019). がんのリハビリテーション診療ガイドライン (第2版) . 金原出版. ④矢ヶ崎香 (編) (2016) サバイバーを支える 看護師が行うがんリハビリテーション. 医学書院. ⑤南裕子 (監) (2015) . 臨床がんサバイバーシップ-"行きぬく力を高めるかわり". 仲村書林. (その他適宜、授業中に提示する)
予習復習	予習として、ゼミに関連する知識を整理し、疑問点を明らかにする。また、研究論文を検索し、積極的にゼミで活用できるように準備を行う。復習では、ゼミでの学びを文章化し、新たな学習課題を明確にする。
評価方法	①プレゼンテーション50%、②レポート30%、③授業への参加度20%から総合的に評価する。プレゼンテーションについては、授業中にコメントを行う。レポートについては、コメントをして返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程の審査における「がんリハビリテーション看護」に該当する。
オフィスアワー	新任教員：講義前後

年度	2025
科目名	がん看護学Ⅴ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
開講時期	1年次後期 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	がん治療（手術療法、化学療法、放射線療法）を行うがん患者を各臓器に焦点をあてて身体の器質的・機能的変化を病態生理やがん治療に基づく知識と リハビリテーションに関する理論や概念、研究成果、文献検討、個々の体験を活用してケアとキュアの統合によるがん患者のリハビリテーションニーズやその援助を探究する。多職種協働による、変化するがん患者のセルフケア能力に合わせてQOLを高めるための援助を臨床判断過程とともに検討し、高度看護実践看護師として役割を実践していく能力を育成する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 各種がんの治療のエビデンスや最新の知見について文献検索し、治療に伴うリハビリテーションニーズを明らかにし、援助について検討できる。 2. 各種がんにおける特徴的なリハビリテーションニーズを事例検討を通して明らかにし、援助について検討できる。 3. がんリハビリテーション看護領域における諸現象を理論、概念を活用して検討できる。 4. がんリハビリテーションのチーム医療のなかで専門性を発揮し、看護実践、相談支援、教育支援の実際を事例検討や演習を通して学び、がん看護専門看護師による相談支援、教育支援のあり方と課題を検討できる。

授業内容

回	内 容	担当教員
第1回	手術療法を行う患者のリハビリテーションニーズと援助	新任教員
第2回	放射線療法を行う患者のリハビリテーションニーズと援助	新任教員
第3回	化学療法を行う患者のリハビリテーションニーズと援助	新任教員
第4回	脳腫瘍／頭頸部がん患者の特徴、リハビリテーションニーズと援助	新任教員
第5回	食道患者の特徴、リハビリテーションニーズと援助（事例検討）	新任教員
第6回	胃がん患者の特徴、リハビリテーションニーズと援助（事例検討・演習）	新任教員
第7回	大腸がん患者の特徴、リハビリテーションニーズと援助（事例検討）	新任教員
第8回	肺がん患者の特徴、リハビリテーションニーズと援助（事例検討）	新任教員
第9回	膵臓がん患者の特徴、リハビリテーションニーズと援助（事例検討）	新任教員
第10回	乳がん患者の特徴、リハビリテーションニーズと援助（事例検討・演習）	新任教員
第11回	前立線がん患者の特徴、リハビリテーションニーズと援助（事例検討）	新任教員
第12回	婦人科がん患者の特徴、リハビリテーションニーズと援助（事例検討）	新任教員
第13回	血液腫瘍患者の特徴、リハビリテーションニーズと援助（事例検討）	新任教員
第14回	続発性リンパ浮腫患者のリハビリテーションニーズと援助（事例検討・演習）	新任教員
第15回	進行がん、末期がん患者のリハビリテーションと援助（事例検討）	新任教員

	①大西和子, 飯野京子,平松玉江（編）（2018）. がん看護学－臨床に活かすがん看護の基礎と実践（第2版）. ニューヴェルヒロカワ. ②榮木実枝(監)（2015）がん看護ビジュアルナーシング. 学研. ③辻哲也(編)（2021）. がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで(第2版). 医学書院. ④辻哲也（編）（2018）.がんのリハビリテーション.医学書院.
--	--

参考文献	⑤マイクルD. スタブフィールド, マイクルW. オデール(監修)(2009)/高倉保幸(監修), 盛谷明美(訳)(2018). がんリハビリテーションー原則と実践 完全ガイドー. ガイアブックス. ⑥日本リハビリテーション医学会がんのリハビリテーション診療ガイドライン改訂委員会(編)(2019). がんのリハビリテーショ ン診療ガイドライン (第2版) . 金原出版. ⑦矢ヶ崎香 (編) (2016) サバイバーを支える 看護師が行うがんリハビリテーション. 医学書院. その他、適宜提示する。
予習復習	予習として各回テーマの概要をまとめ知識を整理したレポートを作成する。各テーマに関連した研究論文や事例を用いて高度な看護実践についてディスカッションを行う。学生は、授業後に討議の内容を振り返り、自己の課題を明確にする。
評価方法	①プレゼンテーション及び課題レポート50%、②最終レポート30%、③授業への参加・貢献度20%、により評価を行う。プレゼンテーションについては授業中にコメントを行う。最終レポートには、コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程の審査における「がんリハビリテーション看護」に該当する。
オフィスアワー	新任教員：講義前後

年度	2025
科目名	がん看護学VI
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
開講時期	1年次後期 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	がん患者の苦痛や苦悩を全人的に捉え、その人の生活に対応して苦痛や苦悩を緩和し、QOLを考慮した全人的ケアを実践できる高度な看護実践能力を修得する。また、がんの進行とともに生じる症状のアセスメント、症状緩和のための薬物療法や代替・相補療法について、病態生理に基づく知識と緩和ケアに関連した理論や概念、研究成果、事例検討、個々の体験を活用して包括的なエビデンスに基づく臨床判断治療過程や症状マネジメントについて学習を行う。ケアとキューを統合した知識や技術によって、患者や家族に対する緩和ケアを行う包括的な高度看護実践能力を育成する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 緩和ケア、終末期ケア、ホスピスケアの定義を理解できる。 2. ホスピス運動の背景と現代の医療問題について理解できる。 3. 緩和ケアのあり方と緩和ケアについて文献検索・検討、事例検討、看護師の体験を理解し、その教育・倫理・研究課題を検討できる。さらに、ケアとキューを統合した高度な知識や技術に基づく症状マネジメントについて検討できる。 4. がん患者に生じる症状マネジメントの実際、主な症状の定義とメカニズム、日常生活への影響、援助法を理解できる。 5. 事例検討を通して、がん看護専門看護師の役割を理解し、相談支援や教育支援のあり方を検討し、緩和ケアにおける症状マネジメントの課題を検討する。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	緩和ケア、終末期ケア、ホスピスケアの概念、歴史と課題	新任教員
第2回	緩和ケアを必要とする患者や家族の理解：トータルペイン（身体的・精神的・社会的苦痛、スピリチュアルペイン）、がん治療と緩和ケア	新任教員
第3回	終末期がん患者のケアを行う看護職の体験と課題	新任教員
第4回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） 症状マネジメントモデルの理解	新任教員
第5回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） 症状マネジメントモデルの臨床応用	新任教員
第6回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） がん患者のがん性疼痛の理解	新任教員
第7回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） がん性疼痛がある患者のマネジメントと課題	新任教員
第8回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） がん患者の全身倦怠感の理解	新任教員
第9回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） 全身倦怠感がある患者のマネジメントと課題	新任教員
第10回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） がん患者の呼吸器症状（呼吸困難）の理解	新任教員
第11回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） 呼吸器症状（呼吸困難）がある患者のマネジメントと課題	新任教員
第12回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） がん患者の消化器症状（嘔気・嘔吐）の理解	新任教員
第13回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） 消化器症状（嘔気・嘔吐）がある患者のマネジメントと課題	新任教員
第14回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） がん患者のスピリチュアルペインの理解	新任教員
第15回	緩和ケアにおける症状マネジメントの理解と活用（事例検討） スピリチュアルペインのある患者のマネジメントと課題	新任教員

参考文献	①Kuebker, K. K. Davis, M. P. , &Moore C. D. (2005). Palliative Practices An Interdisciplinary Approach. St Louis, MO, Elsevier Mosby. ②森田達也, 木澤義之(監), 西智弘, 松本禎久, 森雅紀, 山口崇(編). (2016). 緩和ケアレジデントマニュアル. 医学書院. ③余宮きのみ(2019). ここが知りたかった緩和ケア(改訂第2版). 南江堂. ④余宮きのみ(2019). がん疼痛緩和の薬がわかる本(第3版). 医学書院. ⑤一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会 コアカリキュラム ワーキンググループ (編) (2017) . がん看護コアカリキュラム日本版－手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院. その他、適宜、提示する。
予習復習	緩和ケアについて、先行研究の成果、事例検討、フィールド・ワークを通して学習を深める。学生は授業後に討議の内容を振り返り、自己の課題を明確にする。
評価方法	①プレゼンテーション及び課題レポート50%、②最終レポート30%、③授業への参加・貢献度20%から総合的に評価する。プレゼンテーションには授業中にコメントを行う。最終レポートには、コメントをつけて返却を行う。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課審査における「緩和ケア」に該当する。
オフィスアワー	新任教員：講義前後

年度	2025
科目名	がん看護学Ⅶ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	後期
開講時期	1年次後期 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	がん患者のEnd of Life Careの現状と課題に焦点をあてて、がん患者と家族に全人的ケアを提供できる高度看護実践能力を修得する。また、がん患者や家族とのコミュニケーション、トータルペイン、グリーフケア、デスエデュケーション、さらに死にまつわる文化的側面を考慮したケアなどについて、がん治療や病態生理に基づく知識とEnd of Life Careに関連した理論や概念、研究成果、文献検討、個々の体験を活用して臨床経験からケアとキュアの統合による包括的なエビデンスに基づく緩和ケアを提供する高度看護実践能力を育成する。さらに多職種と協働した在宅移行支援や在宅療養支援など地域連携と調整について学習を深める。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 死が間近ながん患者や家族に対するEnd Of Life Care の現状と課題を検討できる。 2. がん患者や家族におけるトータルペインとそれに対する看護援助について検討する。 3. がん患者と家族に対する在宅移行および在宅療養支援の意義と実際を理解できる。 4. End of Life Careをめぐる教育、倫理、研究課題を理解し、看護の役割を考察する。 5. 緩和ケアを実践する医療チームの重要性と実際を理解し、コンサルテーション、倫理調整について考察すると同時に、教育、倫理、研究課題を検討できる。 6.包括的な緩和ケアを行うために、がん看護専門看護師の役割創造を目指す高度な看護実践、相談支援、教育支援のあり方を検討できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	End of Life Care 終末期がん患者のケアやキュアの現状と課題（事例検討）	新任教員
第2回	End of Life Care 死が差し迫った時期における終末期がん患者の理解と援助法（事例検討）	新任教員
第3回	End of Life Care 終末期がん患者の鎮静の実際と課題(ガイドライン、事例検討)	新任教員
第4回	End of Life Care End of Life Careにおけるコミュニケーション（患者、家族、医療者）	新任教員
第5回	End of Life Care 日本人の死生観、遺体観や死の儀式とGood Death	新任教員
第6回	End of Life Care 多職種との連携・協働によるEnd of Life Care	新任教員
第7回	がん患者の在宅移行および療養支援 がん患者の生活と療養の場の選択と援助、アドバンスケアプランニング、事前指示、リビングウィル、DNARなど	新任教員
第8回	がん患者の在宅移行および療養支援 がん患者の在宅療養移行支援と課題	新任教員
第9回	がん患者の在宅移行および療養支援 在宅ターミナルケアを行うがん患者の理解とシームレスな在宅療養支援の現状と教育・倫理・研究課題	濱本
第10回	がん患者の在宅移行および療養支援 在宅ターミナルケアを行う患者や家族の援助と教育・倫理・研究課題／地域包括ケア	濱本
第11回	がん患者の在宅移行および療養支援 ホスピス病棟で療養するがん患者の援助と教育・倫理・研究課題	新任教員
第12回	緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割創造 緩和ケアにおけるコンサルテーションの実際と課題	新任教員
第13回	緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割創造 緩和ケアにおける医療者に対する教育の実際と課題	新任教員

第14回	緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割創造 緩和ケア領域における研究の現状と課題	新任教員
第15回	緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割創造 緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割と展望	新任教員

参考文献	①Kuebker, K. K. Davis, M. P. , &Moore C. D. (2005). Palliative Practices An Interdisciplinary Approach. St Louis, MO, Elsevier Mosby. ②長江弘子(編) (2018). 看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア(第2版). 日本看護協会出版会. ③小笠原知枝(編著)(2018). エンドオブライフケア看護学-基礎と実践. ニューヴェルヒロカワ. その他、適宜提示する。
予習復習	緩和ケアについて、先行研究の成果、事例検討、フィールド・ワークを通して学習を深める。また、緩和ケアの現状と課題について自己の考えを明確にしていく。
評価方法	プレゼンテーション50%、レポート30%、授業への参加度20%から総合的に評価する。 プレゼンテーションには、授業中にコメントを行う。レポートには、コメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程の「緩和ケア」に該当する。
オフィスアワー	新任教員・濱本：講義前後

年度	2025
科目名	がん看護学実習Ⅰ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	2.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
若林 彰子
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	複雑な問題をもつ患者や家族に対し、既存の知識や技術を活用し、的確な臨床判断を行い、質の高い看護実践を行う。がん看護専門看護師としての倫理観に基づいて質の高い看護実践能力を修得する。がん看護専門看護師としての倫理、教育、研究課題を探索し、【がん看護学実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】に向かう自己の課題を明確にする。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. がん患者と家族の状況を全人的にアセスメントし、直面している問題を明らかにする。 2. 理論やモデル、研究の成果を活用して、がん患者や家族への援助法を明らかにする。さらに、がん患者や家族に対して、医療チームと連携しながら、高度な判断に基づき、状況に応じた専門性の高い援助を実践することができる。 3. がん看護専門看護師を目指す者として、人の尊厳の重視と人権の擁護を基本に捉えた倫理的な態度で接することができる。 4. 保健・医療・福祉チームによりがん患者と家族を援助するために必要と思われる多職種と調整を行うことができる。
授業内容	1.実習期間：原則として週3～4日とし、臨地で概ね15日間。 2.実習施設：広島赤十字・原爆病院（主に病棟、実習関連外来、総合相談支援センターなど実習課題に応じて選択） 3.実習内容・方法 1)実習学生は、実習開始前に実習施設の概要を理解し、状況に応じて事前研修を行う。 2)実習学生は、がん看護学実習要項（別紙）を参照し、自らの到達目標を文章化できる。また、実習計画を立案する。 3) 診断・治療段階にあるがん患者を受け持ち、医療チームと連携して看護を実践する。 4)実習学生は、積極的に大学教員や実習指導者と討議、意見交換を行う。 4.実習指導体制 1) 大学教員、実習指導者、がん看護専門看護師が協働して実習指導を行う。 2) 実習指導者（看護師長、がん看護専門看護師）は、院生が立案した実習計画、実施、評価について指導を行う。また、院生とともに討議、意見交換を行う。 3) がん看護専門看護師は、がん看護専門看護師の役割を理解できるようにスーパービジョンを行う。

参考文献	適宜、提示する。
予習復習	予習については、各学生が自分自身の強みと課題を明確にすることからスタートするので、課題については可能な限り早期に行う。さらに、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①学生の実習期間は、達成状況により延長あるいは再実習を行う場合もある。なお、再実習の場合、実習施設と協議の上、実施時期を検討する。場合によっては同一年度内に実習ができない場合もある。 ②実習目標の到達度（60％）、カンファレンスなどのプレゼンテーション（30％）、責任ある行動（10％）により総合的に評価する。評価のフィードバックは面談を通して行う。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「実習」に該当する。
オフィスアワー	新任教員：実習前後／若林：水曜日 11：00～15：00

年度	2025
科目名	がん看護学実習Ⅱ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	2.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
若林 彰子
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	実習指導者であるがん看護専門看護師の看護実践を体験し、がん看護専門看護師としての役割（高度な実践、教育、コンサルテーション、調整、研究、倫理調整）を学ぶ。また、がん看護専門看護師として自らの活動のあり方や課題を探究する。多様な健康問題を持つがん患者とその家族への看護実践を通して、臨床におけるがん看護専門看護師としての援助法を探究する。さらに、本実習を基盤として、【がん看護学実習Ⅲ・Ⅳ】に向かう自己の課題を明確にする。この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. がん看護専門看護師が行う看護実践を理論や概念、モデルを用いて説明する（実践）。 2. がん看護専門看護師によるがん患者や家族が抱える課題に対する援助法を探究する（実践）。 3. がん看護専門看護師として看護実践力を養うために、がん看護専門看護師の指導に基づき、専門性の高い看護実践を協働して行う（実践）。 4. がん看護専門看護師の指導に基づき、看護職や他職種への教育・コンサルテーションのあり方について学ぶ（教育・コンサルテーション）。 5. がん看護専門看護師としてのリーダーシップ、地域・組織・チームにおける活動について学ぶ（調整）。 6. 個人、家族、集団の権利を擁護し、倫理的な問題に対する対処法を学ぶ（倫理調整）。 7. がん看護専門看護師が行う研究活動を理解し、研究を行う意義を学ぶ（研究）。 8. がん看護専門看護師として、発展的・創造的に役割を担うための方略、タイムマネジメントや記録・報告書の作成について学ぶ（実践）。
授業内容	1.実習期間：原則として週４日とし、臨地で概ね10日間。 2.実習施設：広島赤十字・原爆病院 3.実習内容・方法 1）院生は、実習開始前に実習施設におけるがん看護専門看護師の役割を理解し、状況に応じて事前研修を行う。 2）院生は、がん看護専門看護師と相談し、実習計画を立案・調整を行う。 3）がん看護専門看護師が役割を担う場面に同行し、実践の場面を理解する。 4）がん看護専門看護師の役割行動を記述し、その目的、判断、行為の意味を明らかにしする。 5）がん看護専門看護師の役割行動から、がん看護専門看護師の役割について学びを深める。 4. 実習指導体制 1)大学教員、実習指導者（がん看護専門看護師）が協働して実習指導を行う。 2)がん看護専門看護師は、院生が立案した実習計画、実施、評価について指導を行う。 3)がん看護専門看護師は、実習病院におけるがん医療や看護の現状を説明する。 4)がん看護専門看護師は、院生が役割や機能を学ぶことができるようにアドバイスを行う。 5)院生とともに、討議、意見交換を行い、がん専門看護師の役割について探求する。

参考文献	適宜、提示する。
予習復習	予習については、院生が自分自身の強みと課題を明確にすることからスタートするので、課題については可能な限り早期に行う。さらに、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①がん看護学実習の詳細は、がん看護学実習要項（別紙）を参照する。 ②学生の実習期間は、達成状況により延長あるいは再実習を行う場合もある。なお、再実習の場合、実習施設と協議の上、実施時期を検討する。場合によっては同一年度内に実習ができない場合もある。 ③実習目標の到達度（60％）、カンファレンスなどのプレゼンテーション（30％）、責任ある行動（10％）により総合的に評価する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「実習」に該当する。
オフィスアワー	新任教員：実習前後／若林：水曜日 11：00～15：00

年度	2025
科目名	がん看護学実習Ⅲ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	3.0
総開講時間数	135.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
若林 彰子
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	複雑で対応困難な問題を持つがん患者や家族に対応して、専門知識や技術を用いて看護計画を立案し、チーム医療を基盤として実践を行う。さらに、がん看護専門看護師や在宅看護専門看護師の指導により、看護師への学習支援、コンサルテーション、他職種との調整、倫理調整を行い、がん看護専門看護師としての能力を修得する。在宅療養支援では、がん専門看護師とともに実施し、がん医療や看護における地域連携を実践する能力を実践する能力を修得する。さらに、本実習を基盤として、【がん看護学実習Ⅳ】に向かう自己の課題を明確にする。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 複雑な問題をもつがん患者や家族の全人的苦痛を理解するとともに、状況に応じた専門性の高い援助を実践する（実践）。 2. 外来通院または入院しているがん患者や家族や医療者を対象にしたコンサルテーション場面に同席し、コンサルテーションについて学ぶ（コンサルテーション）。 3. 医療チーム員によるがん患者や家族に対する援助の質を向上するための学習ニーズを明らかにし、教育活動の内容や方法を検討する。看護師に必要な教育プログラムを具体的に企画し、他者と協働して教育活動を実践する（教育）。 4. がん患者や家族に質の高い援助を提供するために、看護チーム内での協働体制、あるいは保健・医療・福祉に携わる職種間における援助法について調整を行う（調整）。 5. がん看護領域における倫理的問題について明らかにし、解決を行うための倫理調整を行う（倫理調整）。 6. がん患者や家族の問題について先行研究や諸理論を活用して説明し、新たな援助法をみいだすことができるかを検討し、より質の高いがん看護実践を行うための研究課題を明らかにする（研究）。 7. がん患者や家族をめぐる地域包括ケアの重要性を理解し、在宅療養移行および在宅療養支援の実際を学び、がん看護専門看護師としての課題を探索する（実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）。
授業内容	1.実習期間：原則として週4日とし、臨地で概ね20日間。 2.実習施設：広島赤十字・原爆病院、YMCA訪問看護ステーション・ピース 3.実習内容・方法 1)実習開始前に実習施設の概要および実習病棟の看護体制を把握する。 2)受け持ち患者は、患者または家族の同意を得て決定する。 3)がん看護専門看護師における 6 つの役割を実践する能力を獲得するための実習内容や実習方法であることを意識して行う。 4)実習学生は、成人看護学がん専門看護師課程実習要項を参考にし、実習計画表を作成する。 5)実習学生は、実習病院や実習病棟を担当教員や病院看護部管理者と相談し決定する。 6)実習学生は、大学教員や実習指導者と積極的に討議、意見交換を行う。 4.実習指導体制 1)大学教員、実習指導者（がん看護専門看護師）が協働して実習指導を行う。 2)がん看護専門看護師は、院生が立案した実習計画、実施、評価について指導を行う。 3)がん看護専門看護師は、実習病院におけるがん医療や看護の現状を説明する。 4)がん看護専門看護師は、院生が役割や機能を学ぶことができるようにアドバイスをを行う。

参考文献	適宜、提示する。
予習復習	予習については、院生が自分自身の強みと課題を明確にすることからスタートするので、課題については可能な限り早期に行う。さらに、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①がん看護学実習の詳細は、がん看護学実習要項（別紙）を参照する。 ②学生の実習期間は、達成状況により延長あるいは再実習を行う場合もある。なお、再実習の場合、実習施設と協議の上、実施時期を検討する。場合によっては同年度内に実習ができない場合もある。 ③実習目標の到達度（60％）、カンファレンスなどのプレゼンテーション（30％）、責任ある行動（10％）により総合的に評価する。教員は、提出された記録に対し、直接コメントを行う。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「実習」に該当する。
オフィスアワー	新任教員：実習前後／若林：水曜日 11：00～15：00

年度	2025
科目名	がん看護学実習Ⅳ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	3.0
総開講時間数	135.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次 ※令和7年度開講なし

担当教員

氏名
若林 彰子
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	実習指導者である医師（腫瘍内科医師又は腫瘍外科医師）およびがん看護専門看護師の指導に基づき、診断から治療過程、緩和医療を目的とする多様な治療法の実際を理解する。これらの実習を通して、患者の診療過程を理解し、がん治療をめぐるケアとキュアを統合した卓越した臨床判断能力や高度な看護実践能力を修得する。さらに、【がん看護学実習Ⅰ～Ⅳ】を基盤に、がん看護専門看護師としての自己の課題を明確にする。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 病態生理学、ヘルスアセスメント、臨床薬理学、がん病態生理学などで学んだ知識や技術を活用しながら、実習指導者である医師のもとで、がん治療を行う患者の診断・治療に伴う臨床判断過程の実際を学び、がん看護専門看護師としての臨床判断能力を養う。 2. がん患者の身体的・心理社会的状態および疾患・治療による生活や家族への影響をアセスメントする。アセスメントについて、がん看護専門看護師から指導を受け、質の高いアセスメント能力を養う。 3. 可能ならば、がん看護専門看護師の指導により、症状緩和および治療に伴う有害事象の予防・対処のために、必要な看護計画を立案し、高度な看護援助を実施する。 4. がん診断期から死が間近な時期に至るまでの治療過程を理解し、積極的治療を中断する患者や家族への意思決定支援をがん看護専門看護師とともに行う。 5. 医師や他職種との連携・調整をがん看護専門看護師とともにに行い、ケアを調整する。
授業内容	1.実習期間：原則として週4日とし、臨地で概ね17日間。 2.実習施設：広島赤十字・原爆病院 3.実習内容・方法 1) 実習学生は、実習開始前に実習施設の概要および組織・看護体制、診療科の体制を把握する。 2) 実習学生は、がん看護学実習要項を参考にして、実習計画表を作成する。 3) 実習学生は、数例の患者について、医師によるがんの診断過程、治療の選択過程に同席する。 4) がん治療を行っている患者のアセスメントや検査や治療の維持、変更など判断過程に同席する。 5) 医師や他職種によるケアチーム活動（カンササーボード、各科カンファレンス、緩和ケアチームなど）に参加し、医師の診断や治療における臨床判断過程を理解する。 6)がん患者や家族の状況に応じて、がん看護専門看護師とともにケアを行う。さらに、評価を行い、がん看護専門看護師としての臨床判断能力や看護実践能力を身につける。 7)実習学生は、大学教員や実習指導者と積極的に討議、意見交換を行う。 4.実習指導体制 1) 大学教員、実習指導者（医師、がん看護専門看護師）が協働して実習指導を行う。 2) 実習指導者（医師）は、自らの診断・治療過程について院生に提示したり、意見交換を行う。 3) がん看護専門看護師は、実習学生が立案した実習計画、実施、評価について指導を行う。 4) がん看護専門看護師は、実習学生が役割や機能を学ぶことができるようにアドバイスをを行う。

参考文献	適宜、提示する。
予習復習	予習については、院生が実習に関連して事前学習を行う。自分自身の強みと課題を明確にすることからスタートするので、課題については可能な限り早期に行う。最終的には、がん看護専門看護師としての自己の課題を明らかにする。
評価方法	①がん看護学実習の詳細は、がん看護学実習要項（別紙）を参照する。 ②学生の実習期間は、達成状況により延長あるいは再実習を行う場合もある。なお、再実習の場合、実習施設と協議の上、実施時期を検討する。場合によっては同一年度内に実習ができない場合もある。 ③実習目標の到達度（60％）、カンファレンスなどのプレゼンテーション（30％）、責任ある行動（10％）により総合的に評価する。教員は学生から提出された記録にコメントを行う。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「実習」に該当する。

年度	2025
科目名	精神保健看護学Ⅰ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	1年次前期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	精神看護専門看護師が権利擁護者、倫理調整者、組織改革者としての役割を担うため、社会的弱者としての患者、医療福祉サービスの消費者として、憲法及び国際的に認められた精神障害者の権利を基に、精神保健医療・福祉サービスの諸制度と運用、地域医療に転換した諸外国の例を学び、精神保健福祉サービスが利用者および家族の権利擁護を図りながら提供されるための施策のあり方を論考する。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 日本国内外における精神障害に関する歴史について、それぞれの文化的背景や権利擁護の視点から比較し理解することができる。 2. 近年の精神保健医療における権利擁護を含む法律について、精神看護専門看護師に求められる役割を検討することができる。 3. 権利擁護を考慮した、地域包括ケアのありかたを、精神看護専門看護師の立場から検討することができる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	日本国憲法における国民の権利及び現代の「人権」解釈の広がり ①日本国憲法 ②子どもの権利条約 ③財産権と制限 ④生存権等をもとに、基本的人権と解釈を挙げ、それぞれの法について討議する。	予習：基本的人権について事前学習を行う。 復習：授業の中で討議された内容をもとに、精神看護専門看護師の役割として人権をどのように捉え、臨床でどのように実施可能か1000文字以内でレポートする。	戸村
第2回	患者の権利 人としての権利、医学全般における患者の権利ついて、討議する。 ①ジュネーブ宣言②ヘルシンキ宣言③リスボン宣言④マドリッド宣言	予習：左記4 宣言について事前学習を行う。 復習：授業の中で討議された内容をもとに、精神看護専門看護師の役割として患者の権利をどのように捉え、臨床でどのように実施可能か1000文字以内でレポートする。	戸村
第3回	障害者の権利 宣言や条約として①国連障害者権利条約 ②トリエステにおける精神障害者の権利から日本の精神保健福祉制度を検討する。	予習：左記2 権利について事前学習を行う。 復習：授業の中で討議された内容をもとに、精神看護専門看護師の役割として障害者の権利をどのように捉え、臨床でどのように実施可能か1000文字以内でレポートする。	戸村
第4回	日本人の民間信仰、精神疾患に関する意識と近代以前の精神医療・看護の歴史 岩倉における精神障害者に対する療養の歴史を中心に、つきもの等の考え方について討議する。	予習：日本における精神医療の歴史について、治療の視点から事前学習を行う。 復習：授業の中で討議された内容をもとに、近年でも日本古来の影響を受けているであろう課題について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第5回	精神障害者に関係する事件と法改正 ライシャワー事件と「精神衛生法改正」、宇都宮事件と「精神保健法」及び国連「障害者権利条約」について討議する。	予習：左記3 法について事前学習を行う。 復習：授業の中で討議された内容をもとに、障害者権利条約の意義について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第6回	精神医療福祉に関連した法律 「障害者基本法」、「精神保健福祉法」、「精神障害者医療観察法」、「障害者総合支援法」の内容について討議する。	予習：左記4 法令について事前学習を行う。 復習：授業のなかで討議された内容をもとに、現行の法律の改善点について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第7回	システムとしての精神保健医療福祉 精神保健医療福祉関連法制の概要	予習：自立支援システムについて事前学習を行う。 復習：授業のなかで討議された内容をもとに、精神保健医療福祉政策の改革ビジョンの可能性について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村

第8回	ノーマライゼーションの研究動向 ノーマライゼーションの概念と、ノーマライゼーションと精神障害に関連した研究について検討する。	予習：精神障害とノーマライゼーションに関連する文献を1つ選出し、研究の意義と課題について検討する。 復習：精神障害とノーマライゼーションのあり方について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第9回	リカバリーの研究動向 リカバリーの概念と、リカバリーと精神障害に関連した研究や心理教育（WRAP）について検討する。また、これまで学修した法律を考慮しながら学びを深める。	予習：精神障害とリカバリーに関連する文献を1つ選出し、研究の意義と課題について検討する。 復習：精神障害とリカバリーのあり方について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第10回	虐待関連法規と施策 障害者、児童への虐待の防止法や配偶者暴力防止法（DV法）等の法整備と課題について討議する。	予習：虐待防止関連法とDV法について事前学習を行う。 復習：障害者を含む弱者への虐待についての援助について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第11回	英国圏（イギリス、ニュージーランド）の精神医療改革 英国圏におけるリカバリー運動や当事者の政策参加を含む医療政策について討議する。	予習：英国圏の精神医療改革について事前学習をしておく。 復習：英国圏の精神医療改革について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第12回	米国の精神医療改革 ケネディ教書、NIMHの政策とNAMIの活動、薬物汚染について討議する。	予習：アメリカの医療制度について事前学習をしておく。 復習：アメリカの障害者運動について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第13回	イタリアの精神医療改革	予習：トリエステ精神保健局と大熊の書籍を読み考えをまとめておく。 復習：脱施設化について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第14回	日本の精神保健医療福祉に関する制度改革の方向性の検討	予習：今までの講義を参考に日本における地域医療についての自分の考えをまとめる。 復習：地域包括医療についての自分の考えを1000文字以内でレポートする。	戸村
第15回	精神科医療と看護に関する権利擁護	予習：精神看護専門看護師としての精神障害者の障害者の権利の擁護と自立支援へのかかわりについて、自分の考えをまとめる。 復習：この授業に参加して学習したこと、精神看護専門看護師の役割としての倫理の根拠の一つである法令遵守、権利擁護について自分の考えを1000字以内にまとめる。	戸村

参考文献	①岡田靖雄（2002）. 日本精神科医療史. 医学書院 ②小俣和一郎（2020）. 精神医学の近現代史:歴史の潮流を読み解く. 誠信書房 ③岡崎伸郎（2020）. 精神保健医療のゆくえ 制度とその周辺, 日本評論社 ④小俣和一郎（2005）. 精神医学の歴史. 第三文明社. ⑤椎葉茂樹(編)（2016）. 衛生行政大要改訂第24版. 財団法人公衆衛生協会. ⑥厚生労働省（2022）. 障害者福祉 http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/ ⑦森越まや（2022）. ラグーナ出版イタリア地域精神医療の思想と実践－患者・家族・支援者は語. ラグーナ出版 ⑧DPI日本会議, 大阪精神医療人権センター編（2021）. 精神障害のある人の権利Q&A. 大阪：解放出版社 ⑨太田順一郎（他）（2021）. 精神医療 〈No. 2（2021）〉 特集：精神科医療における権利擁護（アドボケイト）. エム・シー・ミュージ ⑩大熊一夫（2009）. 精神病院を捨てたイタリア捨てない日本. 岩波書店. ⑪村岡潔, 山本克司（2021）. 医療・看護に携わる人のための人権・倫理読本, 法律文化社 ⑫田中英樹（2018）. 精神障害者支援の思想と戦略 QOLからHOLへ, 金剛出版
評価方法	①プレゼンテーションと資料 50% ③課題レポート 50% プレゼンテーションと資料については授業中にコメント、フィードバックを行う。課題レポートにはコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程専攻分野共通科目1.歴史・制度に関する科目に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学Ⅱ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	前期
開講時期	1年次前期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	精神看護専門看護師の卓越した実践能力の基盤として最新の医療に関する知識、ケア提供の理論的根拠、エビデンスに基づいたケア提供を学修する。またケア対象の精神現症検査、心理・社会的要因、家族評価、身体状態の評価、セルフケアアセスメントについて学修し、対象を全人的に捉え理解する能力と包括的なアセスメント能力を育成する。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. Mental Status Evaluation（精神現症の評価法）及び面接者－被面接者の相互性を踏まえた患者の体験の記述について理解し、説明することができる。 2. 主要な精神疾患のメカニズムと症状および治療を理解し、心理社会的要因を包括したアセスメントの視点について理解し、説明することができる。 3. 精神疾患の発症に至るまでの心理社会的要因について予防精神医学の見地から理解し、説明することができる。 4. 精神疾患患者を全人的に捉えアセスメントを行うことができる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	精神看護専門看護師と精神健康評価の意義、面接法、転移と逆転移 精神看護専門看護師（以下CNS）の卓越した実践能力を提供するために必要な知識・スキルについての概要を理解する。	予習：カプラン第1章について事前学習を行う。 復習：授業の中で討議された内容をもとに、精神看護専門看護師に求められる実践能力について、現在自分自身にとって特に獲得が必要なことについて500文字以内でレポートする。	戸村
第2回	精神現症の評価 1：発達課題 精神医学的な精神現症、発達理論をもとにその課題をアセスメント評価し、全生活史を踏まえて対象を捉える方法を理解する。統合失調症の事例でアセスメントを行う。	予習：エリクソンやハヴィガーストの発達理論を事前学習する。 復習：文献①②③⑧⑨統合失調症患者の発達課題の特徴について500文字以内でレポートする。	戸村
第3回	精神現症の評価 2：外観・行動・態度・気分感情・話し方 精神状態の表れとともに、看護の視点からのセルフケア能力を加味しての評価を理解する。気分障害患者の事例でアセスメントを行う。	予習：参考文献④⑤⑨の左記内容について事前学習する。 復習：気分障害患者の精神現症 2 の評価とセルフケアについて500文字以内でレポートする。	戸村
第4回	精神現症の評価 3：知覚障害、思考過程 知覚、思考過程の障害についての評価方法と、これらの障害が及ぼすセルフケアを行う能力への影響について検討する。 統合失調症の事例でのアセスメント	予習：参考文献④⑤⑩及びオレムのセルフケアの力の構成要素を事前学習する。 復習：統合失調症患者の精神現症 3 の評価とセルフケアについて500文字以内でレポートする。	戸村
第5回	精神現症の評価（Mental Status Evaluation） Strub, R. L. とBlack, F. W.の文献を使用し高次機能のアセスメンについて演習とM S E との関連について検討する。	予習：参考文献④⑤のMSEの評価項目について事前学習する。 復習：高次機能の評価についてのポイントを5 0 0 字以内にレポートする。	戸村
第6回	精神現症の評価（自我機能・防衛機制の評価） ヤスパースやベラクラの自我機能についての論考や防衛機制、自我機能の査定について理解する。	予習：参考文献①④⑤⑥の自我機能、防衛機制について事前学習する。 復習：自我機能について5 0 0 字以内にレポートする。	戸村

第7回	家族アセスメント カルガリー・モデル、エンパワメント・モデルを参照しながら、 個々の提供する事例をもとに家族アセスメントについて検討する。	事前学習：参考文献⑦及び別途資料、家族援助事例の準備する。 復習：家族アセスメントについて500字以内にレポートする。	戸村
第8回	神経学的症状、向精神薬の随伴症状を中心としたフィジカルアセスメント 主に錐体路の症状(EPS)を中心に、運動機能のフィジカルアセスメントについて理解する。	予習：参考文献④⑤神経学的アセスメントを事前学習する。 復習：EPSについて500字以内にレポートする。	戸村
第9回	セルフケアアセスメント オレムのセルフケア不足看護理論に基づくアセスメントとして、アンダーウッドのセルフケア理論に基づくアセスメントについて検討し、事例展開を通して討議する。	事前学習：別途提供する文献をもとに事例をまとめる。 復習：セルフケア評価について500字以内にレポートする。	戸村
第10回	せん妄、痴呆、健忘症、他の認知障害、及び一般身体疾患による精神疾患の症状の評価とセルフケア評価 事例をもとに不穏等の症状の系統的評価、治療、心因等との因果関係の検討、セルフケアの評価について討議する。	事前学習：別途提供する文献をもとに事例をまとめる。 復習：せん妄等について500字以内にレポートする。	戸村
第11回	物質関連障害患者の急性毒性、慢性毒性、離脱、依存及びセルフケア評価 事例をもとにアルコール、薬物中毒の症状の評価、パーソナリティーの評価、及びセルフケア評価について討議する。	事前学習：別途提供する文献をもとに事例をまとめる。 復習：物質関連障害について500字以内にレポートする。	戸村
第12回	統合失調症スペクトラム障害をもつ患者 適応及びセルフケア評価 多面的にセルフケア能力を分析し、より健康的なセルフケア行動がとれるよう働きかける援助について討議する。	事前学習：別途提供する文献をもとに事例をまとめる。 復習：統合失調症患者の評価について500字以内にレポートする。	戸村
第13回	気分障害及び自殺のリスクを持つ対象者について認知、感情、適応及びセルフケアの評価 アセスメント、認知行動療法的評価を行い、より健康的なセルフケア行動が取れるよう働きかける援助について討議する。	事前学習：別途提供する文献をもとに事例をまとめる。 復習：気分障害患者の評価について500字以内にレポートする。	戸村
第14回	パーソナリティ障害患者の認知、適応、セルフケアの評価 行動、セルフケアについての評価を行い、行動連鎖分析、スキーマモード評価についても討議し、DBTによる治療的介入について検討する。	事前学習：別途提供する文献をもとに事例をまとめる。 復習：パーソナリティ障害の評価について500字以内にレポートする。	戸村
第15回	まとめ、精神障害者の認知的評価の歪みと適応の促進 CNSの療法的介入を行う際の力動的視点と、対象者へのセルフケア行動を含む行動への働きかけの着眼点としての認知的評価について討議する。	事前学習：精神症状がもたらすセルフケア操作への影響についてまとめる。 復習：精神障害者の認知的評価のゆがみについて1000字以内にレポートする。	戸村

参考文献	①宇佐美しおり, 野末聖香（2009）. 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会 ②西園昌久（2003）. 精神医学の現在. 中山書店. ③土居健郎（1992）. 方法としての面接 臨床家のために. 医学書院 ④武藤教志（2021）. 他科に誇れる精神科看護の専門技術 メンタルステータスイグザミネーション Vol.1 第2版. 精神看護出版 ⑤武藤教志（2021）. 他科に誇れる精神科看護の専門技術 メンタルステータスイグザミネーション Vol.2 第2版. 精神看護出版 ⑥北田穰之介他(1990). 増補 精神発達と精神病理（増補版）. 金剛出版. ⑦乾吉佑（2009）. 思春期・青年期の精神分析的アプローチ（初版）. 遠見書房. ⑧Sadock, B.J., et al.(2015)/井上令一監訳(2016), カプラン臨床精神医学テキスト（第3版）－DSM-5診断基準の臨床への展開－. メディカル・サイエンス・インターナショナル. ⑨守屋直樹, 皆川邦直（2007）. 精神分析的診断面接のすすめかた. 岩崎学術出版. ⑩南裕子（2005）. 実践オレム－アンダーウッド理論 ころを癒す（アクティブ・ナーシング）. 講談社
評価方法	①プレゼンテーションと資料 40% ③課題レポート 60% プレゼンテーションと資料については授業中にコメント、フィードバックを行う。課題レポートにはコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程専攻分野共通科目2.精神・身体状態の評価に関する科目に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学Ⅲ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
開講時期	1年次後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子
佐藤 悟朗
矢田 博己
中津 啓吾
藤田 康孝
岩崎 庸子
高橋 雪輝

授業概要	精神看護専門看護師が対象とする精神的諸問題を持つ対象者の代表的な精神疾患に対する診立てと薬物療法,精神療法について学ぶ。 精神科治療・随伴症状や治療チームとしての関わりについても適宜討議し、診断、治療、看護の統合的理解を深める。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 精神科の代表的疾患の薬物療法、精神療法、その他の治療法について説明できる。 2. 精神科の治療と随伴症状について説明できる。 3. 患者や家族の随伴症状も含め説明し治療に向き合えるための心理教育の内容を検討することができる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	精神医学の進歩と精神科医療の変遷について 1：疾病像と精神療法 精神科の治療技法の変遷、疾病像のとらえ方と精神療法について理解する。	予習：参考文献①を参考に左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、精神療法の遷移について自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村・佐藤
第2回	精神医学の進歩と精神医療の変遷について 2：精神科治療の動向 近年の精神科治療法（精神療法）の特徴に焦点をあてて理解する	予習：参考文献①を参考に左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、精神療法について自分の考えを500文字以内でレポートする。	佐藤
第3回	抗精神病薬の薬物動態 定型抗精神病薬と非定型抗精神病薬（特に、クロザピンやアセナピン）の薬物動態について理解する	予習：参考文献①②⑤を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、薬物動態について500文字以内でレポートする	藤田
第4回	気分調整薬の薬物動態 気分調整薬やSSRI、SNRI等の薬物動態について理解する。特に薬剤変更時のセロトニン症候群など重篤な随伴症状について理解する	予習：参考文献①③を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での検討をもとに、気分調整薬を用いた治療について、自分の考えを500文字以内でレポートする。	佐藤
第5回	統合失調スペクトラム症および他の精神症群の診断と治療 統合失調スペクトラムの病型分類および最近の薬物療法・身体療法の動向について理解する	予習：参考文献①②⑥を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、統合失調症の診断と治療について自分の考えを500文字以内でレポートする	矢田

第6回	統合失調スペクトラム症および他の精神症群の診断と治療 精神療法の最近の動向について理解する	予習：参考文献①②⑥を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、精神療法について自分の考えを500文字以内でレポートする。	矢田
第7回	双極症および関連症群性の薬物療法と精神療法 薬物療法と身体療法（ECT）について理解する	予習：参考文献①③⑥を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、左記障害群の治療について自分の考えを500文字以内でレポートする。	中津
第8回	双極症及び関連症群の薬物療法と精神療法 薬物療法を併用した精神療法について理解する	予習：参考文献①③⑥を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、左記障害群の精神療法について自分の考えを500文字以内でレポートする。	中津
第9回	抑うつ症群の薬物療法や精神療法 薬物療法や精神療法（個人・集団・認知行動療法など）の動向について理解する	予習：参考文献①③⑥を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、左記障害群の精神療法について自分の考えを500文字以内でレポートする。	藤田
第10回	睡眠・覚醒障害群の薬物療法や精神療法とその動向 薬物療法や精神療法について理解する	予習：参考文献①⑥を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、左記障害群の薬物療法について自分の考えを500文字以内でレポートする。	佐藤
第11回	神経認知障害群の診断と薬物療法の動向 診断と薬物療法の動向について理解する	予習：参考文献①を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、左記障害群の薬物療法について自分の考えを500文字以内でレポートする。	岩崎
第12回	神経認知障害群：せん妄の治療 せん妄の診断基準、抑うつ障害群、認知症との鑑別診断および、せん妄の薬物療法について理解する	予習：参考文献①⑥を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：授業での学習をもとに、せん妄の治療について自分の考えを500文字以内でレポートする。	岩崎
第13回	パーソナリティ症群の診断と薬物療法と精神療法 診断と薬物療法・精神療法（個人・集団）について理解する 特に、自殺企図時の救急の場面における治療について理解する	予習：参考文献①⑥を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：自殺企図時の治療について自分の考えを500文字以内でレポートする。	藤田
第14回	神経発達症群の診断と薬物療法と精神療法 自閉症スペクトラム障害の診断と薬物療法・精神療法について理解する 特に、小児と成人の診断基準と治療方法の違いについて理解する	予習：参考文献①⑥を参考に、左記テーマについて事前学習を行う。 復習：成人の自閉症スペクトラムの治療について自分の考えを500文字以内でレポートする。	藤田
第15回	精神看護専門看護師の療法的介入の一環として、学生の関心のある疾患について事例を想定し、状態像から治療法、治療経過についてまとめる。 心理社会的療法として活用できるようにする。	予習：関心のある疾患の心理教育について事前学習を行う。 復習：関心のある疾患の心理教育について精神看護専門看護師としてどのような教育への介入が可能であるか1000文字以内でレポートする。	戸村・佐藤

参考文献	①Sadock, B.J., et al.(2015)/井上令一(監訳)(2016)．カプラン臨床精神医学テキスト（第3版）－DSM-5診断基準の臨床への展開－．メディカル・サイエンス・インターナショナル. ②精神医学講座担当者会議(監)（2008）．統合失調症治療ガイドライン（第2版）. 医学書院. ③日本うつ病学会(監)（2013）．大うつ病性障害・双極性障害治療ガイドライン. 医学書院. ④落合慈之（2015). 精神神経疾患ビジュアルブック（ビジュアルブックシリーズ）. 学研メディカル秀潤社 ⑤井上猛（2022）．こころの治療薬ハンドブック 第14版. 星和書店 ⑥American Psychiatric Association/日本精神神経学会, 高橋三郎(2023). DSM-5-TR 精神疾患の分類と診断の手引 医学書院 ⑦精神医学 2023年 10月号 特集 DSM-5からDSM-5-TRへ 何が変わったか
評価方法	①授業への参加・貢献度 50% ②プレゼンテーション 50% 評価は別途個別面接にてフィードバックする。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程専攻分野共通科目2.精神科治療技法に関する科目に該当する。 講義場所については非常勤講師の都合により病院にて授業を行うことがあるが事前に連絡する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30 ／ 佐藤・矢田・中津・藤田・岩崎：講義前後

年度	2025
科目名	精神保健看護学Ⅳ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	後期
開講時期	1年次後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	精神看護専門看護師が行う治療的介入技術として、治療的面接の基本技術としてのカウンセリング技術の基本と,力動的な支持的精神療法をはじめ、個人・集団・家族という対象の広がりを持った療法の技術、行動や認知に焦点を当てた各種精神療法の介入技術を学ぶ。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 療法的介入の基本技術としてのカウンセリングマインドが説明できる。 2. 支持的精神療法をはじめ、力動的アプローチについて説明できる。 3. 集団・家族への治療的介入法を説明できる。 4. 行動、認知に焦点をあてた治療的介入を説明できる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	カウンセリングマインドと治療的コミュニケーションスキル 精神看護専門看護師に求められるカウンセリングマインドと、治療的コミュニケーションスキルについて検討する。	予習：参考文献①②を参考にカウンセリングマインドについて事前学習を行う。 復習：講義を通してカウンセリングマインドについて、自身のコミュニケーションスキルを振り返り、500文字以内でレポートする。	戸村
第2回	アサーション コミュニケーションスキルとしてのアサーションを理解する。精神看護専門看護師として、臨床でのスタッフ教育や患者教育にどのように汎用できるか検討する。	予習：参考文献③より自己表現技法について事前学習を行う。 復習：対話・交渉スキルとしてのアサーションについて500文字以内でレポートする。	戸村
第3回	支持的精神療法と介入 自尊感情、自我機能、適応能力を維持獲得し、その能力を高めるための力動的治療法として支持的精神療法における基礎理論と介入について検討する。	予習：参考文献④よりIPTについて事前学習を行う。 復習：IPTのアプローチ法について自身の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第4回	支持的精神療法における治療関係 支持的精神療法の治療関係の中で重要な感情転移、治療同盟、抵抗等について討議する。	予習：文献④⑤を参考に感情転移を起こした事例について事前学習を行う。 復習：講義を通して自らの感情転移についての考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第5回	対人関係療法（IPT） 重要な他者との現在の関係に焦点を当て、人間関係と症状の関係についての対処法を見出す短期精神療法について理解する。	予習：参考文献⑥を参考にIPTについて事前学習を行う。 復習：IPTのアプローチ法について自身の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第6回	集団精神療法 集団力学を用いた集団精神療法について、ヤーロムの理論から理解する。また、グループ療法の方法やグループの発達段階とその特徴について検討する。	予習：参考文献⑦⑧を参考に集団精神療法について事前学習を行う。 復習：講義を通して集団精神療法の特徴について500文字以内でレポートする。	戸村

第7回	家族療法 家族療法の第一世代から現代までの潮流と理論的基盤、およびシステムズアプローチによる家族支援について検討する。	予習：参考文献⑧⑨を参考に家族のいる事例について事前学習を行う。 復習：講義を通し家族システムから見た患者家族についての考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第8回	心理教育と生活技能訓練（SST） 精神科臨床における心理教育とSSTについて理解を深める。	予習：参考文献⑩⑪を参考にし、事例について事前学習を行う。 復習：復習：講義を通し心理教育・SSTの実践についての考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第9回	行動療法の理論 不適応を行動面からとらえる手法として、条件付け、三項随伴性等の基本理論を理解する。	予習：参考文献⑨を参考に、認知行動療法について事前学習を行う。 復習：認知行動療法の基礎について臨床でどのように活用可能であるのか500文字以内でレポートする。	戸村
第10回	行動分析 挑戦的行動や発達障害、自閉症スペクトラムなどの不適応行動の補正のために、応用行動分析と環境調整による条件付けの手法について理解する。	予習：参考文献⑨を参考に事前学習を行う。 復習：応用行動分析について500文字以内でレポートする。	戸村
第11回	認知行動療法の基礎① 認知行動療法とカウンセリング方法についてアセスメント方法や構造化について検討する。 具体的な方法をイメージできるようビデオ教材を用い課題について討議する。	予習：参考文献⑬⑭⑮⑯⑰を参考に、認知行動療法について事前学習を行う。 復習：認知行動療法の基礎について臨床でどのように活用可能であるのか500文字以内でレポートする。	戸村
第12回	認知行動療法の基礎② 認知再構成 認知再構成の方法（7コラム法）と問題解決方法（PST）について理解を深める。ビデオ教材を用いて具体化し、問題や課題について討議する。	予習：参考文献⑬⑭⑮⑯⑰⑱を参考に、認知再構成について事前学習を行う。 復習：認知再構成の方法について、実施時の課題について500文字以内でレポートする。	戸村
第13回	認知行動療法の基礎③ 認知行動療法の実施 学生同士、もしくは教員とうつ状態の事例をもとに、認知行動療法を実施し、評価を行う。またその評価方法について討議する。	予習：参考文献⑬⑭⑮⑯⑰⑱を参考に、認知行動療法の事例を準備しておく。 復習：認知行動療法を実施し、振り返りを500文字以内でレポートする。	戸村
第14回	認知行動療法の基礎④ 問題解決技法（PST） 学生同士、もしくは教員と事例をもとに、問題解決技法（PST）を実施し、評価を行う。またその評価方法について討議する。	予習：参考文献⑬⑭⑮⑯⑰⑱を参考に、認知行動療法の事例を準備しておく。 復習：認知行動療法を実施し、振り返りを500文字以内でレポートする。	戸村
第15回	対人関係-社会リズム療法（IRST） 薬物療法を含めた心理教育、行動記録表を用い基準となる社会リズム（Social Rhythm Metoric）を見出し、整え環境調整を行う方法について検討する。	予習：参考文献⑲⑳双極性障害へのIRSTについて事前学習を行う。 復習：IRSTの特徴と留意点について500文字以内でレポートする。	戸村

参考文献	①福原真知子他(2004). マイクロカウンセリングの理論と実践. 風間書店. ②五十嵐透子（2003）. 自分を見つめるカウンセリング・マインドヘルスケア・ワークの基本と展開. 医歯薬出版. ③平木典子（2021）. 三訂版 アサーション・トレーニング1さわやかな〈自己表現〉のために アサーション・トレーニングシリーズ. 日本精神技術研究所. ④Winston,A.et.al.(2004)/山藤奈穂子佐々木千恵（訳）（2009）. 支持的精神療法入門. 星和書店. ⑤氏原寛（2008）. 新版転移/逆転移. 人文書院. ⑥水島広子（2009）. 臨床家のための対人関係療法入門ガイド. 創元社. ⑦ヤーロム他（1997）. グループサイコセラピーーヤーロムの集団精神療法の手引き. 金剛出版. ⑧遊佐安一郎（1984）. 家族療法入門 システムズ・アプローチの理論と実際. 星和書店. ⑨日本家族療法・家族研究学会（編）（2013）. 家族療法テキストブック. ⑩鈴木文、伊藤順一郎（1997）. SSTと心理教育. 中央法規. ⑪松田光信（2008）. 看護師版〈統合失調症患者〉心理教育プログラムの基礎・実践・理論一看護実践研究、質的・量的研究の成果. 金芳堂. ⑫Berni,R., Fordyce, W.E.（1977）/大橋正洋ほか訳（1982）. ナースのための行動療法：問題行動への援助. 医学書院. ⑬伊藤絵美（2005）. 認知療法・認知行動療法カウンセリング初級ワークショップ およびDVD版. 星和書店. ⑭伊藤絵美（2006）. 認知療法・認知行動療法面接の実際. 星和書店. ⑮大野裕（2010）. 認知療法・認知行動療法 治療者用マニュアルガイド. 星和書店. ⑯ウォルトマン、S(2022). こころの支援に携わる人のためのソクラテス式質問法: 認知行動療法の考え方・進め方を学ぶ、 金子書房 ⑰Frank, E.（2005)/阿部又一郎訳(2016). 双極性障害の対人関係社会リズム療法 臨床家とクライアントのための実践ガイド. 星和書店. ⑱藤信子,西村肇,樋掛忠彦他（2017）. 集団精神療法の実践事例30:グループ臨床の多用な展開 創元社 ⑲伊藤絵美著（2011）ケアする人も楽になる認知行動療法Book1 医学書院 ⑳伊藤絵美著（2011）ケアする人も楽になる認知行動療法Book2 医学書院
------	--

評価方法	①授業への参加・貢献度 30% ②プレゼンテーションと資料 30% ③課題レポート 40% プレゼンテーションと資料については授業中にコメント、フィードバックを行う。課題レポートにはコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程専攻分野共通科目2.精神科治療技法に関する科目に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学Ⅴ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	前期
開講時期	2年次前期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	精神看護専門看護師として必要な精神保健看護の枠組みでクライアントが自らの精神健康上の課題に気づき、心理的に困難な状況を主体的に乗り越えていくためのケアの基盤となる看護理論や関連分野のモデル、概念に対する理解を深め、看護実践の方向性を検討していく。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 精神看護の臨床で活用される主な看護、治療、援助モデルについて、自らの看護実践と照合しながら説明できる。 2. 臨床実践の場でのケアの提供者として、自らの提供するケアの根拠を言語化できる。 3. 問題解決思考から離れ、クライアントの文脈に添った援助方法を提案できる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	精神看護専門看護師の役割と機能 以下の視点から討議する。 ①米国と日本の現状の検討 ②精神看護専門看護師の役割、機能、裁量権について ③エビデンスと理論的裏付けのある看護行為の検討	予習：参考文献をもとに、精神看護専門看護師の役割と機能について事前学習を行う。 復習：講義を通して、精神看護専門看護師の役割と機能について500文字以内でレポートする。	戸村
第2回	治療的患者看護師関係と精神看護：ペブロウ対人関係モデル 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める。	予習：参考文献をもとに、ペブロウの対人関係モデルについて事前学習を行う。 復習：講義を通して、自己の臨床での関わりをペブロウの対人関係モデルを用いて500文字以内でレポートする。	戸村
第3回	適応モデルと精神看護：ロイ適応モデル 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、適応モデルについて事前学習を行う。 復習：適応モデルを用いた精神看護適用について500文字以内でレポートする。	戸村
第4回	文化的側面と精神看護：レイニンガー文化ケア理論 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、ストレス脆弱モデルとラザルスストレス理論について事前学習を行う。 復習：ストレス脆弱性モデルを考慮した心理教育の特徴について500文字以内でレポートする。	戸村
第5回	生物学的側面と精神看護：ストレス脆弱性モデル&ラザルスストレス理論 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、ストレス脆弱モデルとラザルスストレス理論について事前学習を行う。 復習：ストレス脆弱性モデルを考慮した心理教育の特徴について500文字以内でレポートする。	戸村
第6回	危機介入と精神看護：フィンク危機モデルとアギュララ危機理論 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、フィンク・アギュララの危機理論の事前学習を行う。 復習：危機理論を用いた精神看護の適用について500文字以内でレポートする。	戸村
第7回	防衛機制と精神看護 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、防衛機制を事前学習する。 復習：疾患の特徴を考慮した防衛機制的理解と精神看護との関連について500文字以内でレポートする。	戸村

第8回	発達課題と精神看護：エリクソン発達課題とハヴィガースト発達理論 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、エリクソンとハヴィガーストについて事前学習をする。 復習：発達課題の理解が精神看護にどのように活用できるのかについて500文字以内でレポートする。	戸村
第9回	心理学的側面と精神看護：ソリューション・フォーカス・アプローチ 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、SFについて事前学習を行う。 復習：SFの考え方と精神看護について500文字以内でレポートする。	戸村
第10回	当事者としての家族と神経看護（家族）：エンパワーメントモデル 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、ストレングスモデルについて事前学習を行う。 復習：ストレングスモデルの視点での精神看護について500文字以内でレポートする。	戸村
第11回	リハビリテーションと精神看護①リカバリー 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、リカバリーについて事前学習を行う。 復習：リカバリーの視点での精神看護について500文字以内でレポートする。	戸村
第12回	リハビリテーションと精神看護②ストレングス 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、ストレングスモデルについて事前学習を行う。 復習：ストレングスモデルの視点での精神看護について500文字以内でレポートする。	戸村
第13回	【テーマ】リハビリテーションと精神看護③レジリアンス 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、レジリアンスについて事前学習を行う。 復習：レジリアンスの視点での精神看護について500文字以内でレポートする。	戸村
第14回	【テーマ】心理教育と家族心理教育 学生の臨床での経験（事例）をもとに、理論をどのように実践に応用し、分析・評価を行うのか討議し理解を深める	予習：参考文献をもとに、心理教育について事前学習を行う。 復習：精神看護における心理教育の特徴について500文字以内でレポートする。	戸村
第15回	まとめ：精神看護専門看護師の臨床実践（クライアント主体のケア提供） 精神看護の高度実践者として、クライアント主体の看護援助の方法と評価について討議を行い、学生の課題を明確にする。	予習：これまでの講義資料を復習しておく。 復習：クライアント主体のケア提供について今の自分の課題を1000文字以内でレポートする。	戸村

参考文献	①宇佐美しおり, & 野末聖香. (2009). 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. iii–iv, 日本看護協会出版会, 東京. ②野末聖香(2008). リエゾン精神看護. 患者ケアとナース支援のために. 医歯薬出版株式会社 ③Tusaie, K., & Fitzpatrick, J. J. (Eds.). (2022). Advanced practice psychiatric nursing: Integrating psychotherapy, psychopharmacology, and complementary and alternative approaches across the life span. Springer Publishing Company. ④Stuart, G.W., Laria, M.T. (2005)/安保寛明, 宮本有紀(監訳)(2007). 看護学名著シリーズ精神科看護－原理と実践. (原著第8版). エルゼビア・ジャパン. ⑤西尾雅明(2004). ACT入門-障害者のための包括型地域生活支援プログラム. 金剛出版. ⑥小島操子(2018). 看護における危機理論・危機介入-フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の聞きモデルから学ぶ (第3版). 金芳堂. ⑦National Association of Clinical Nurse Specialists (2019). Statement on Clinical Nurse Specialist Practice and Education. ⑧野口裕二(2002). 物語としてのケア ナラティブ・アプローチの世界へ. 医学書院. ⑨筒井真優美(2020). 看護理論家の業績と理論評価 第2版. 医学書院. ⑩チャールズ, リチャード, & 田中英樹 (2014). ストレングスモデル: リカバリー志向の精神保健福祉サービス. 金剛出版. ⑪日本家族療法・家族研究学会(編)(2017). 家族療法テキストブック. 金剛出版.
評価方法	①授業への参加・貢献度 10% ②プレゼンテーションと資料 40% ③課題レポート 50% プレゼンテーションと資料については授業中にコメント、フィードバックを行う。課題レポートにはコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程専攻分野共通科目4.精神看護理論、援助技法に関する科目に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学VI
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	2年次前期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	様々な生活上の体験から招来するストレスに対する対処法として、マインドフルネス、呼吸法、自律神経訓練法、漸進的筋弛緩法、アロマセラピー、リンパマッサージ、TFT,アートセラピーと音楽療法を看護の援助技法として学ぶ。また、問題解決や人間関係の学習の方法として元気回復行動プランを学ぶ。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. マインドフルネス／呼吸法（Breathing）／自律神経訓練法（Autogenic Training）／漸進的筋弛緩法（Progressive Muscle Relaxation：PMR）／アロマセラピー／リンパマッサージ／TFT（Thought Field Therapy）タッピングセラピー／アートセラピー／音楽療法のうちを2つ実践できる。 2. 記のストレス対処法を看護の援助技法として説明できる。 3. WRAPのキーコンセプトと道具箱について看護の援助技法として説明できる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	ストレス適応理論と看護における援助技術 コースガイダンスとともに、ストレス適応理論、看護援助の一環として組み入れられる援助技法について理解する。	予習：参考文献③④ストレス適応理論について。 復習：自らの日常的な適応のバリエーションてについて500文字以内でレポートする。	戸村
第2回	マインドフルネスと呼吸法（Breathing）① 適応する症状や疾患の特徴、呼吸法の方法（深呼吸法・横隔膜呼吸法・丹田呼吸法等）を理解する。 実施前後の評価方法について討議する。	予習：参考文献①②③④マインドフルネスと呼吸法の部分を整理しておくこと。 復習：マインドフルネスと呼吸法からの学びについて500文字以内でレポートする。	戸村
第3回	マインドフルネスと呼吸法（Breathing）② 実施前後の評価を行い、評価方法についても討議する。	予習：参考文献①②③④マインドフルネスと呼吸法の部分を整理しておくこと。 復習：マインドフルネスと呼吸法からの学びについて500文字以内でレポートする。	戸村
第4回	自律神経訓練法（Autogenic Training）と漸進的筋弛緩法（Progressive Muscle Relaxation：PMR）① 実施前後の評価方法について討議する。	予習：参考文献①③⑭自律訓練法と、漸進的筋弛緩法の部分を整理しておくこと。 復習：自律訓練法と、漸進的筋弛緩法からの学びについて500文字以内でレポートする。	戸村
第5回	自律神経訓練法（Autogenic Training）と筋弛緩法（Progressive Muscle Relaxation：PMR） 実施前後の評価を行い、評価方法についても討議する。	予習：参考文献①③⑭自律訓練法と、漸進的筋弛緩法の部分を整理しておくこと。 復習：自律訓練法と、漸進的筋弛緩法からの学びについて500文字以内でレポートする。	戸村
第6回	アロマセラピーとリンパマッサージ① 実施前後の評価方法について討議する。	予習：参考文献①⑦アロマセラピーについて事前学習。 復習：アロマセラピー、リンパマッサージからの学びを500文字以内でレポートする。	戸村
第7回	【テーマ】アロマセラピーとリンパマッサージ② 実施前後の評価を行い、評価方法についても討議する。	予習：参考文献⑥⑦アロマセラピー、リンパマッサージについて整理しておくこと。 復習：アロマセラピー、リンパマッサージからの学びについて500文字以内でレポートする。	戸村

第8回	TFT（Thought Field Therapy）タッピングセラピー① TFT タッピングセラピーに適應する症状や疾患の特徴、TFTの方法を理解する 実施前後の評価方法について討議する	予習：参考文献⑤⑬TFTについて整理しておくこと。 復習：TFTについての学びについて500文字以内でレポートする。	戸村
第9回	TFT（Thought Field Therapy）タッピングセラピー② 実施前後の評価を行い、評価方法についても討議する	予習：参考文献⑤⑬TFTについて整理しておくこと。 復習：TFTについての学びについて500文字以内でレポートする。	戸村
第10回	アートセラピーと音楽療法（ソルフェジオ：瞑想）① アートセラピーと音楽療法（ソルフェジオ：瞑想）に適應する症状や疾患の特徴、アートセラピーの方法、音楽療法の方法、また実施前後の評価方法について討議する	予習：参考文献①⑧アートセラピーについて整理しておくこと。 復習：アートセラピーについての学びについて500文字以内でレポートする。	戸村
第11回	アートセラピー と 音楽療法（ソルフェジオ：瞑想）② 実施前後の評価を行い、評価方法についても討議する。	予習：参考文献①⑧アートセラピーについて整理しておくこと。 復習：アートセラピーについての学びについて500文字以内でレポートする。	戸村
第12回	元気回復行動プラン（WRAP）① Intentional Peer Support 問題解決から人の関係を作り出す学びを主体的に行うピアの視点と 元気回復行動プランのコンセプトについて理解する。	予習：参考文献⑨⑩⑫WRAPのキーコンセプトについて整理しておくこと。 復習：IPSとWRAPのキーコンセプトについて500文字以内でレポートする。	戸村
第13回	元気回復行動プラン（WRAP）②	予習：参考文献⑨⑩⑫WRAPの道具箱について整理しておくこと。 復習：自分の取り扱い説明書の意義について500文字以内でレポートする。	戸村
第14回	セラピー実施評価① 既習のセラピーから1つを選出し、患者に実施した方法や評価振り返り等を行った内容について、プレゼンテーションをもとに討議する。	課題に対してのディスカッションをもとに1500文字以内でレポートする。	戸村
第15回	セラピー実施評価② 既習のセラピーから1つを選出し、患者に実施した方法や評価振り返り等を行った内容について、プレゼンテーションをもとに討議する。	課題に対してのディスカッションをもとに1500文字以内でレポートする。	戸村

参考文献	①坂田三允（2005）. 精神看護エクスペール③精神看護と関連技法. 中山書店. ②Kabat-Zin,J.(1990)/春木豊(訳)（2007）. マインドフルネスストレス低減法. 北大路書房. ③荒川唱子, 小坂橋喜久代（2001）. 看護にいかす リラクゼーション技法 ホリスティックアプローチ. 医学書院. ④角井都美子, 三羽理一郎（2006）. 看護師・セラピスト・コメディカルのための自己モニタリングと呼吸法, p69-81. メディカ出版. ⑤Roger, J.C.（2001)/穂積由利子(訳)（2001）. TFT(思考場)療法入門ータッピングで不安、うつ、恐怖症を取り除く. 春秋社. ⑦日本アロマセラピー学科（2010）. アロマセラピー標準テキスト 臨床編. 丸善出版. ⑧Yuzo Hayashi(2016). ソルフェジオ・ヒーリング528~脳力を高める5つの周波数. デラ. ⑨Copeland, M.E.（1997）/久野恵理(訳)（2015）. 元気回復行動プランWRAP. コンボ. ⑩増川ねてる, 藤田茂治（2016）. WRAPを始める. 精神看護出版. ⑪岡本佐智子（2017）. 根拠がわかる 看護マッサージ: 患者を癒やすリラクゼーション技術. 中央法規出版 ⑫小林智子（2018）. WRAP(元気回復行動プラン)のプログラム評価研究 リカバリーを促進するセルフヘルプツールの包括的検証 創造出版 ⑬Temes, R.(2006)/浅田仁子（2022）. タッピング入門 シンプルになった<TFT & EFT> ⑭中島節夫（2021）. 臨床家のための自律訓練法実践マニュアル 効果をあげるための正しい使い方 遠見書房
評価方法	①授業への参加・貢献度 30% ②プレゼンテーションと資料 30% ③課題レポート 40% プレゼンテーションと資料については授業中にコメント、フィードバックを行う。課題レポートにはコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程専攻分野共通科目4.精神看護理論、援助技法に関する科目に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学Ⅶ（リエゾン精神看護）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	後期
開講時期	2年次後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子
三浦 真衣

授業概要	リエゾン精神看護専門看護師として必要な能力を身につける。リエゾン精神看護専門看護師として、直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育機能（研究指導は実習時に実施する）を担うことができる知識と技術を修得し、事例、状況に対応したケアの検討を行う。精神的な課題を抱えた患者のみならず、家族、スタッフ、チームへの危機介入を含めた相談、支援について検討する。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. リエゾン精神看護専門看護師の6つの機能について、その特徴を理解し、説明することができる。 2. リエゾン精神看護領域における主な精神症状に対する査定と支援方法について理解し、説明することができる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	リエゾン精神看護領域の発展の歴史と現状 コンサルテーションリエゾン精神医療の歴史と、看護の歴史、役割の発展と現状について理解する。	予習：参考文献①③⑤をもとに、リエゾン精神看護領域の発展の歴史と現状について事前学習を行う。 復習：現在求められているリエゾン精神看護の課題とは何か、またそれに対する解決策について500文字以内でレポートする。	戸村
第2回	リエゾン精神看護専門看護師の機能および役割 精神科以外の医療の場の特性、患者・家族、医療チームをシステムとして評価しリエゾン精神看護専門看護師の6つの機能と役割について討議する。	予習：参考文献①③⑤をもとに、リエゾン精神看護の役割について事前学習を行う。 復習：リエゾン精神看護と精神看護専門看護師との違いについて、500文字以内でレポートする。	戸村
第3回	リエゾン精神看護領域での援助関係の構築の課題と対応 コンサルテーションリエゾン精神看護の相談機能を発揮する前提となる援助関係の構築を行うプロセスの検証を行い、その課題と対応について検討する。	予習：参考文献①⑤をもとに、コンサルテーションの相談機能について事前学習を行う。 復習：コンサルテーションにおける課題について、自分の考えを500文字以内でレポートする。	戸村
第4回	リエゾン精神看護領域でよく見る精神症状の査定とその対応①：不安障害 不安障害の鑑別査定から療法的介入を含む直接ケアの選択や、チームとの調整、コンサルテーション、倫理調整、教育について討議する。	予習：参考文献②③をもとに、不安障害について事前学習を行う。 復習：不安障害におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割について500文字以内でレポートする。	戸村
第5回	リエゾン精神看護領域でよく見る精神症状の査定とその対応②：疼痛コントロール がん患者や慢性疼痛性疾患患者の疼痛に関する治療的介入、直接ケア、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育について討議する。	予習：参考文献②③をもとに、疼痛コントロールについて事前学習を行う。 復習：疼痛コントロールにおけるリエゾンの役割について500文字以内でレポートする。	戸村
第6回	リエゾン精神看護領域でよく見る精神症状の査定とその対応③自殺企図 救急外来における初期対応とその後の精神面への治療的介入を含む直接ケアや、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育について討議する。	予習：参考文献②③をもとに、自殺企図について事前学習を行う。 復習：自殺企図におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割について500文字以内でレポートする。	戸村
第7回	リエゾン精神看護専門看護師の看護師へのメンタルヘルス支援 援助を必要とする看護師が少なからず存在する。自閉症スペクトラムの看護師を例題として、看護チーム内の集団力動や感情転移、介入について討議する。	予習：参考文献①p.257～p.282と自閉症スペクトラムの学習支援、職業支援をまとめる。 復習：メンタルヘルス支援におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割について500文字以内でレポートする。	戸村

第8回	組織変革者としてのリエゾン精神看護専門看護師 自らの組織の中で役割を開発していくための方策を院生の組織アセスメントをもとに討議する。	予習：参考文献①p.283～p.300を読み自らの所属していた組織をアセスメントする。 復習：ディスカッションをもとに自分の考えを500文字以内にレポートする。	戸村
第9回	リエゾン精神看護における家族看護 家族の体験を危機モデルおよび家族システム論、エンパワメント理論などを用いて評価し、直接ケア、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育の視点から討議する。	予習：家族看護について事前学習を行う。 復習：家族看護におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割について500文字以内でレポートする。	戸村
第10回	リエゾン精神看護専門看護師による相談の実際 一般病院でのリエゾン精神看護専門看護師の立場から、役割開発の第一歩として看護チーム、他職種から相談を受けるための工夫について事例を用いて検討する。	予習：組織改革のうち特に役割開発について事前学習を行う。 復習：組織改革におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割について500文字以内でレポートする。	三浦
第11回	リエゾン精神看護専門看護師によるコンサルテーションの実際 一般病院でのリエゾン精神看護専門看護師の立場から、さまざまな職種が入る医療チームや看護職へのコンサルテーションの実際を事例を用いて検討する。	予習：コンサルテーションについて事前学習を行う。 復習：総合病院におけるコンサルテーションについて500文字以内でレポートする。	三浦
第12回	リエゾン精神専門看護師による組織変革と倫理調整 チーム医療の現場から課題を提示し、倫理的観点、本人家族の権利擁護、よりよい医療サービスの公正な提供という観点から、対応策について事例を用いて検討する。	予習：組織改革について事前学習を行う。 復習：組織改革におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割について500文字以内でレポートする。	三浦
第13回	事例分析①：緩和医療における直接ケア、コンサルテーション ①ターミナル期のせん妄のアセスメントと身体的治療 ②病名告知後等短期で回復すると想定されるせん妄状態に対する援助	予習：事例について直接ケアとコンサルテーションについて検討する。 復習：事前学習の内容に、講義での討議結果を追加修正し提出する。	戸村
第14回	事例分析②：ICUにおける直接ケア、コンサルテーション 以下の視点で討議する。 ①ICUにおける自殺企図者を対象としたアセスメント ②ICUにおける不穏を呈する高齢者を対象とした援助法	予習：事例について直接ケアとコンサルテーションについて検討する。 復習：事前学習の内容に、講義での討議結果を追加修正し提出する。	戸村
第15回	事例分析③：短期精神療法的介入の直接ケア 以下の視点で討議する。 ①不眠を訴える対象へのアセスメントと援助計画 ②気分の変調を訴える対象へのアセスメントと援助計画	予習：事例について直接ケアとコンサルテーションについて検討する。 復習：事前学習の内容に、講義での討議結果を追加修正し提出する。	戸村

参考文献	①野木聖香(編) (2008) . リエゾン精神看護 患者ケアとナースの支援のために. 医歯薬出版. ②黒澤尚, 市橋秀夫, 皆川邦直(編) (1996) . 精神科プラクティス (4) コンサルテーション・リエゾン精神医学 (初版) . 星和書店. ③Rundell, J.R., Weise, M.G.(2000)/松浦雅人, 松島英介(監訳) (2002) . .コンサルテーション・リエゾン精神医学ガイド. メディカルサイエンスインターナショナル. ④岩田健太郎 (2011) . コンサルテーション・スキル 他科医師支援とチーム医療. 南江堂. ⑤坂田三允 (編) (2006). 精神看護エクスペール16 リエゾン精神看護. 中山書店. ⑥坂田三允 (編) (2005) . 精神看護エクスペール11 精神看護と家族ケア. 中山書店. ⑦坂田三允 (編) (2006) . 精神看護エクスペール17 精神看護と法・倫理. 中山書店. ⑧秋山剛 (2017) . 精神科リエゾンチームガイドブック はじめ方からトラブル対応まで. 医歯薬出版 ⑨日本看護協会：臨床倫理委員会の設置とその活用に関する指針. 日本看護協会公式ホームページ, ⑩南裕子監修) (2010). 精神科看護の理論と実践, ニューヴェルヒロカワ. 2010. ⑪鶴若麻理他編(2018). 看護師の倫理調整力 専門看護師の実際に学ぶ, 日本看護協会出版会, 2018 ⑫武用百子(2011).リエゾンナースと考える「困りごと」にどうかかわるか, ナースツールズ. ⑬平井元子 (2013) .身体疾患患者の精神看護, へるす出版. ⑭平井元子 (2014) . リエゾン 身体とところをつなぐかわり, 仲村書林, 2014. ⑮南裕子監修 (2010) : 精神科看護の理論と実践, ニューヴェルヒロカワ.
評価方法	①プレゼンテーションと資料 50% ②課題レポート 50% プレゼンテーションと資料については授業中にコメント、フィードバックを行う。課題レポートにはコメントをつけて返却する。
備考	※精神保健看護学Ⅶは、リエゾン精神看護と慢性期精神看護のどちらかの選択必須科目 この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程専攻分野専門科目8リエゾン精神看護に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30 ／ 三浦：講義前後

年度	2025
科目名	精神保健看護学Ⅶ（慢性期精神看護）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	6 時限
講義開講時期	後期
開講時期	2年次後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子
柳井 亮太

授業概要	長期入院患者・慢性精神障害者の回復を支援するための理論を中心に、具体的な事例の分析を通し、慢性期にある精神障害者の理解と支援方法を学習し、高度な精神看護を実践できる能力を培う。 この授業科目は、ディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 慢性期の精神障害者のセルフケア援助のためのアセスメントの方法について記述することができる。 2. 慢性期の精神障害者を支援する精神看護専門看護師としての役割（直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育）機能を果たすための理論や方法を理解し、その内容を説明することができる。 3. 性期の精神障害者の生活や支援における問題解決に向けた看護援助を展開する方法を理解し、説明することができる。 ＊精神看護専門看護師の役割である研究に関連する指導は、実習時に行うため本科目からは除外する。

授業内容

回	内 容	予習復習	担当教員
第1回	慢性期精神看護領域の発展の歴史と現状 精神科の慢性期治療や、リハビリテーション、退院支援等をめぐる医療政策の変遷、これらに関わってきた看護師の役割や精神看護専門看護師の活動について検討する。	予習：参考文献①、②から、退院促進と地域支援の拡充の歴史について事前学習を行う。 復習：長期入院患者の退院促進における精神看護専門看護師の役割について500文字以内でレポートする。	戸村
第2回	慢性期精神看護の機能と役割 慢性に経過した患者に対する直接ケア、感情転移を含めたスタッフとの相談、教育、倫理調整など精神看護専門看護師の機能と役割について検討する。	予習：慢性精神疾患患者への看護について、これまでの経験から事例をまとめる。 復習：授業を通して、事例患者への看護において精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるか500文字以内でレポートする。	戸村
第3回	慢性期精神看護 対応困難事例の検討①：統合失調症 陽性症状が持続している患者、残遺型で陰性症状が強くプログラム参加が困難な患者への関係性の再構築などの事例から精神看護専門看護師の役割について検討する。	予習：慢性期統合失調症患者の対応困難な事例についてこれまでの経験から事例をまとめる。 復習：授業を通して事例患者への看護において精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるか500文字以内でレポートする。	戸村
第4回	慢性期精神看護における対応困難事例の検討②：遷延性うつ病 遷延性うつ病で経過の長い患者等への認知療法的介入について討議する。	予習：遷延性うつ病患者の事例についてこれまでの経験から事例をまとめる。 復習：授業を通して事例患者への看護において精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるか500文字以内でレポートする。	戸村
第5回	慢性期精神看護における対応困難事例の検討③：衝動性のコントロール 衝動性や希死念慮の強い患者、行動化が著しい患者への行動療法的介入（行動連鎖分析、マインドフルネス等）について検討する。	予習：衝動性のある患者の事例についてこれまでの経験から事例をまとめる。 復習：授業を通して事例患者への看護において精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるか500文字以内でレポートする。	戸村

第6回	慢性期精神看護領域での援助関係の構築の課題と対応 看護チームと患者・家族との力動的関係（転移－逆転移）の分析、相互関係の行動分析を用いて事例検討を行い、精神看護専門看護師の直接ケアのスキル向上を図る。	予習：慢性期患者との援助関係構築についてこれまでの経験から事例をまとめる 復習：授業を通して事例患者への看護において精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるか500文字以内でレポートする。	戸村
第7回	慢性期精神看護で必要な援助技術①：援助モデル リカバリー、エンパワメント、ストレングスモデルを用いた援助モデルについて検討する。 これまでの看護を振り返り、精神看護専門看護師の役割について討議する。	予習：第3回の統合失調症患者の事例をもとに、左記3モデルのうち1モデルを選出し、精神看護学Ⅴで学修した内容を復習しておく。 復習：授業を通して事例患者への看護において精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるか500文字以内でレポートする。	戸村
第8回	慢性期精神看護で必要な援助技術②：アウトリーチ支援 アウトリーチ支援、精神障害者を地域で支える援助としてのAssertive Community Treatment（ACT）について討議する。	予習：参考資料をもとに、アクトについて事前学習を行う。 復習：アクトにおける精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるか500文字以内でレポートする。	戸村
第9回	慢性期精神看護で必要な援助技術③：症状マネジメント リカバリーの視点からの症状自己管理と心理教育プログラムについての事例検討を行う。	予習：参考資料をもとに、症状マネジメントの方法について事前学習を行う。 復習：症状マネジメントにおいて精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるか500文字以内でレポートする。	戸村
第10回	慢性期精神看護における家族とのかかわり 家族ダイナミクス、家族関係の構築を含めて家族の評価、家族心理教育、家族支援について討議する。	予習：参考資料や、精神保健看護学Ⅱ・Ⅴの講義資料を振り返り、慢性期精神疾患患者の特徴を考慮した事前学習を行う。 復習：慢性期精神疾患患者の家族看護にあたり、精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるか500文字以内でレポートする。	戸村
第11回	慢性期精神医療における地域包括ケア 地域連携に関する取り組み（精神保健福祉法や障害者総合支援法関連の施策、地域ネットワークを使った支援について）討議する。	予習：精神疾患患者の地域包括ケアについて事前学習を行う。 復習：慢性期精神疾患患者の地域包括ケアにおける精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるか500文字以内でレポートする。	戸村
第12回	慢性期精神看護の実践で生じる倫理的葛藤とその対応 現任精神看護専門看護師の実践事例をもとに倫理調整の実際と倫理プロセスの分析を行い討議する。	予習：看護倫理（共通科目）で学修した倫理分析の方法を復習する。 復習：慢性期精神疾患患者の倫理調整について、精神看護専門看護師としての課題を500文字以内でレポートする。	柳井・戸村
第13回	慢性期精神看護での調整 現任精神看護専門看護師の実践事例をもとに看護チーム内や医療チームの他職種との調整をもとに、精神看護専門看護師の調整機能について検討する。	予習：コンサルテーション論（共通科目）で学修した組織分析や調整機能について復習する。 復習：慢性期精神疾患患者に関わる調整役割として、精神看護専門看護師の課題を500文字以内でレポートする。	柳井・戸村
第14回	事例検討①：統合失調症患者の退院促進・症状マネジメント 統合失調症患者の退院促進や、慢性に経過している患者の症状マネジメントのための看護介入案の検討を行う。	予習：慢性期統合失調症患者の退院促進もしくは症状マネジメントについてこれまでの経験から事例をまとめる。 復習：授業を受け、精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるのか500文字以内でレポートする。	戸村
第15回	事例検討②：慢性期統合失調症患者の家族関係調整 家族関係調整のための看護介入案の検討を行う。	予習：慢性期統合失調症患者の家族看護についてこれまでの経験から事例をまとめる。 復習：授業を受け、精神看護専門看護師の役割としてどのように関われるのか500文字以内でレポートする。	戸村

参考文献	①寺田悦子（2023）. 精神科医療の未来を見据えて. 幻冬舎 ②精神保健福祉白書編集委員会(編)（2018）. 精神保健医療福祉白書2018/2019. 多様性と包括性の構築. 中央法規. ③宇佐美しおり, 岡谷恵子(編)（2008）. 長期入院患者および予備群への退院支援と精神看護. 医歯薬出版. ④坂田三允(編)（2004）. 精神看護エクスペール4 長期入院患者の社会参加とアセスメントツ－（第1版）. 中山書店. ⑤坂田三允(編)（2009）. 精神看護エクスペール5 精神リハビリテーション看護. 中山書店. ⑥坂田三允(編)（2009）. 精神看護エクスペール8 精神科訪問看護（第2版）. 中山書店. ⑦坂田三允(編)（2005）. 精神看護エクスペール11 精神看護と家族ケア. 中山書店. ⑧坂田三允(編)（2006）. 精神看護エクスペール17 精神看護と法・倫理. 中山書店. ⑨総合リハビリテーション（2021）総合リハビリテーション. 2021年9月号 特集 精神障害を地域で支える. 医学書院 ⑩伊藤順一郎（2018）. 病棟に頼らない地域精神医療論－精神障害者の生きる力をサポートする. 金剛出版 ⑪Rapp,C.A., & Goscha,R.J.（2008）/田中秀樹(監訳)(2014). ストレングスモデル [第3版] リカバリー志向の精神保健福祉サービス. 金剛出版. ⑫加藤敏, 八木剛平（2009）. レジリアンス現代精神医学の新しいパラダイム（第1版）. 金原出版. ⑬池淵恵美（2019）. こころの回復を支える精神障害リハビリテーション. 医学書院 ⑭日本看護協会出版会（2022）. コミュニティケア[訪問看護、介護・福祉施設のケアに携わる人へ]2022年11月臨時増刊号 【総特集 精神科訪問看護の実践知当事者の困り事へのアプローチ】(コミュニティケア 2022年11月臨時増刊号). 日本看護協会出版会. ⑮古屋龍太（2021）. 精神科病院と地域支援者をつなぐみんなの退院促進プログラム:実施マニュアル&戦略ガイドライン ミネルヴァ書房
------	--

評価方法	①プレゼンテーションと資料 40% ②課題レポート 60% プレゼンテーションと資料については授業中にコメント、フィードバックを行う。課題レポートにはコメントをつけて返却する。
備考	※精神保健看護学Ⅶは、リエゾン精神看護と慢性期精神看護のどちらかの選択必須科目 この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程専攻分野専門科目2.慢性期精神看護に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30 ／ 柳井：講義前後

年度	2025
科目名	精神保健看護学実習Ⅰ（リエゾン精神看護）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	1.0
総開講時間数	45.0
講義開講時期	通年
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	臨地・臨床の看護実践の場において、これまで共通基礎・共通専門、精神保健看護学の専門科目で習得した諸理論・概念や技術を駆使し、精神看護専門看護師（慢性期精神看護・リエゾン精神看護）に必要な卓越した看護実践能力と役割を遂行できる能力を養う。この科目においては精神看護専門看護師（以下CNS）の役割と機能について、シャドウイングしながら、その実際を学ぶ。 この授業科目はディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. CNSがどのような環境で役割開発をしてきているのかを説明できる。 2. CNSが卓越した実践、コンサルテーション、調整、教育、研究、倫理調整をどのように行っているか説明できる。 3. CNSへのニーズの掘り起こしのための働きかけ（役割開発のための素地づくり）の具体的な内容を説明できる。
授業内容	Ⅰ．学習内容 CNSについてシャドウイングを行いながら、次の内容に関しての実際を学ぶ。 1．実習施設でのCNSの位置づけ（組織図）と組織風土を知る。 2．卓越した実践、コンサルテーション、調整、教育、研究、倫理調整の実践内容を知る。 3．スタッフ（他職種を含む）がCNSの役割をどのように認知し、理解しているのかを知る。 4．CNSが役割を遂行するための看護師、中間管理職、看護のトップリーダーたちとの関係作りの工夫について説明できる。 Ⅱ．実習施設 ○医療法人社団碧水会　長谷川病院 Ⅲ．実習指導者 ○精神看護専門看護師 後藤優子・精神看護専門看護師　細谷真由・精神看護専門看護師　五味麻里 Ⅳ．実習時期および期間 1．時期：2年次前期の4月下旬に実施する。 2．期間：1日8時間で6日間とする。ただし、最終日は5時間とする。 最終的には、各学生の実習計画により実習施設・大学と話し合いのうえ決定する。 Ⅴ．実習方法 1．まず、学生がCNSから精神科病院組織と看護組織、CNSの役割についてのガイダンスを受け、実習日程を調整するための実習を2日間行い、実習計画についての指導を学内で受ける。 2．作成した実習計画に基づいて、4日間CNSの日々の活動についてシャドウイングをしながら、実践、コンサルテーション、調整、教育、研究、倫理調整の場面がどのように展開されているか、CNSの関わり方や判断を含め説明を受けながら学ぶ。 実習内容に関しては、日々の実践記録に記載して、翌朝までに教員に提出し（メールでの提出の場合はパスワードで保護する）、指導を受け、週末に学内で総括の指導を受ける。 3．学修した内容のまとめをCNSに送付し、フィードバックを受ける。

参考文献	適宜資料配付
予習復習	実習前には実習目標達成のための自己の課題を明確にし、講義・演習での資料や文献をもとに自己学習を行う。また実習目標達成のための実習計画案を作成する。 実習後には、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①詳細は、精神保健看護学実習Ⅰ・実習要項（別紙）を参照する。実習は定期的にスーパービジョンを行う。 ②評価は、実習目標の到達度（60％）、実習報告書（30％）、プレゼンテーション（10％）により総合的に評価する。 プレゼンテーションの評価は面接にて行う。実習報告書はコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程実習科目の専門看護師の役割機能実習に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学実習Ⅰ（慢性期精神看護）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	1.0
総開講時間数	45.0
講義開講時期	通年
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	臨地・臨床の看護実践の場において、これまで共通基礎・共通専門、精神保健看護学の専門科目で習得した諸理論・概念や技術を駆使し、精神看護専門看護師（慢性期精神看護・リエゾン精神看護）に必要な卓越した看護実践能力と役割を遂行できる能力を養う。この科目においては精神看護専門看護師（以下CNS）の役割と機能について、シャドウイングしながら、その実際を学ぶ。 この授業科目はディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. CNSがどのような環境で役割開発をしてきているのかを説明できる。 2. CNSが卓越した実践、コンサルテーション、調整、教育、研究、倫理調整をどのように行っているか説明できる。 3. CNSへのニーズの掘り起こしのための働きかけ（役割開発のための素地づくり）の具体的な内容を説明できる。
授業内容	I．学習内容 CNSについてシャドウイングを行いながら、次の内容に関しての実際を学ぶ。 1．実習施設でのCNSの位置づけ（組織図）と組織風土を知る。 2．卓越した実践、コンサルテーション、調整、教育、研究、倫理調整の実践内容を知る。 3．スタッフ（他職種を含む）がCNSの役割をどのように認知し、理解しているのかを知る。 4．CNSが役割を遂行するための看護師、中間管理職、看護のトップリーダーたちとの関係作りの工夫について説明できる。 II．実習施設 ○医療法人社団碧水会　長谷川病院 III．実習指導者 ○精神看護専門看護師 後藤優子・精神看護専門看護師　細谷真由・精神看護専門看護師　五味麻里 IV．実習時期および期間 1．時期：2年次前期の4月下旬に実施する。 2．期間：1日8時間で6日間とする。ただし、最終日は5時間とする。 最終的には、各学生の実習計画により実習施設・大学と話し合いのうえ決定する。 V．実習方法 1．まず、学生がCNSから精神科病院組織と看護組織、CNSの役割についてのガイダンスを受け、実習日程を調整するための実習を2日間行い、実習計画についての指導を学内で受ける。 2．作成した実習計画に基づいて、4日間CNSの日々の活動についてシャドウイングをしながら、実践、コンサルテーション、調整、教育、研究、倫理調整の場面がどのように展開されているか、CNSの関わり方や判断を含め説明を受けながら学ぶ。 実習内容に関しては、日々の実践記録に記載して、翌朝までに教員に提出し（メールでの提出の場合はパスワードで保護する）、指導を受け、週末に学内で総括の指導を受ける。 3．学修した内容のまとめをCNSに送付し、フィードバックを受ける。

参考文献	適宜資料配付
予習復習	実習前には実習目標達成のための自己の課題を明確にし、講義・演習での資料や文献をもとに自己学習を行う。また実習目標達成のための実習計画案を作成する。 実習後には、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①詳細は、精神保健看護学実習Ⅰ・実習要項（別紙）を参照する。実習は定期的にスーパービジョンを行う。 ②評価は、実習目標の到達度（60％）、実習報告書（30％）、プレゼンテーション（10％）により総合的に評価する。 プレゼンテーションの評価は面接にて行う。実習報告書はコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程実習科目の専門看護師の役割機能実習に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学実習Ⅱ（リエゾン精神看護）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	2.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	精神看護専門看護師（以下CNS）のケア（care）とキュア（cure）を融合させた能力開発のため、精神科専門医、臨床心理士および担当教員の指導のもとに、精神疾患の診断・治療過程を理解し、高度な精神状態の査定について学修する。また、精神疾患をもつ人が症状をコントロールしながら、より健康的な適応行動を選択し生活できるように支援する方法を学修する。この授業科目はディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 精神疾患をもつ人に専門的なケアを提供するために、病態生理、検査とその解釈、治療法(薬物療法・精神療法など)、症状マネージメントなどを含む治療過程が説明できる。 2. 指導を受けながら療法的介入の一部について実践することができる。 3. 精神疾患をもつ人が症状をコントロールしながら生活できるように、疾患管理・症状マネージメントについて具体的な方策を説明できる。 4. ケア(care)とキュア(cure)を融合させた高度な実践を行う専門看護師としての役割を説明できる。
授業内容	Ⅰ．学習内容 精神科専門医の精神疾患の診断・治療の実際の場面に立会って指導を受けることで、具体的な診療技術、向精神薬の知識について学修する。また、疾病管理、症状マネージメントを行うために臨床心理士の指導のもとで、個人および集団への精神療法的治療技法として、認知行動療法的援助技術について実践を通して学ぶ。 Ⅱ．実習施設 ○医療法人社団更生会　草津病院 Ⅲ．実習指導者 ○医師　　佐藤悟朗　（精神保健指定医・精神科専門医・指導医） 医師　　中津啓吾　（精神保健指定医・精神科専門医・指導医） ○臨床心理士 ○精神看護専門看護師　柳井亮太 Ⅳ．実習時期および期間 1．時期：2年次の5月中旬から10月下旬にかけて実施する。 2．期間：原則的には1日8時間として、5日間の集中実習と1週間に1日2.5時間、計20日の継続実習とする。 最終的には、各学生の実習計画により実習施設・大学と話し合いのうえ決定する。 Ⅴ．実習方法 1．第1週（5日間集中） 1）精神疾患を持つ患者に対する診療行為を見学し、見学内容から精神現症アセスメントを行い精神科医による診立てと治療計画、処方に関する指導を受ける。 2）気分障害の認知行動療法プログラムについてのガイダンスを受け、認知行動療法（以下CBT）のケースアセスメント、導入、介入、評価のプログラム運営の実際を臨床心理士の指導のもとで学ぶ。 2．第2週以降（1回2.5時間、計20日） CBTについて臨床心理士から指導を受けながら実施し、CNSや担当教員から、看護の視点からのCBT実践についてスーパーバイズを受ける。 1）毎週行われている入院中の気分障害を対象とした5回1クルールのCBT基礎編に参加し、CBTへの導入、実践、評価について学ぶ。 2）外来の気分障害を対象とした13回1クルールのCBTに参加し、CBTへの導入、実践、評価について学ぶ。

参考文献	適宜資料配付
予習復習	実習前には実習目標達成のための自己の課題を明確にし、講義・演習での資料や文献をもとに自己学習を行う。また実習目標達成のための実習計画案を作成する。 実習後には、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①詳細は、精神保健看護学実習Ⅱ・実習要項（別紙）を参照する。実習は定期的にスーパービジョンを行う。 ②評価は、実習目標の到達度（60％）、実習報告書（30％）、プレゼンテーション（10％）により総合的に評価する。 プレゼンテーションの評価は面接にて行う。実習報告書はコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程実習科目の医療施設等における精神科診断・治療実習に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学実習Ⅱ（慢性期精神看護）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	2.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	精神看護専門看護師（以下CNS）のケア（care）とキュア（cure）を融合させた能力開発のため、精神科専門医、臨床心理士および担当教員の指導のもとに、精神疾患の診断・治療過程を理解し、高度な精神状態の査定について学修する。また、精神疾患をもつ人が症状をコントロールしながら、より健康的な適応行動を選択し生活できるように支援する方法を学修する。この授業科目はディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 精神疾患をもつ人に専門的なケアを提供するために、病態生理、検査とその解釈、治療法(薬物療法・精神療法など)、症状マネージメントなどを含む治療過程が説明できる。 2. 指導を受けながら療法的介入の一部について実践することができる。 3. 精神疾患をもつ人が症状をコントロールしながら生活できるように、疾患管理・症状マネージメントについて具体的な方策を説明できる。 4. ケア(care)とキュア(cure)を融合させた高度な実践を行う専門看護師としての役割を説明できる。
授業内容	I. 学習内容 精神科専門医の精神疾患の診断・治療の実際の場面に立会って指導を受けることで、具体的な診療技術、向精神薬の知識について学修する。また、疾病管理、症状マネージメントを行うために臨床心理士の指導のもとで、個人および集団への精神療法的治療技法として、認知行動療法的援助技術について実践を通して学ぶ。 II. 実習施設 ○医療法人社団更生会 草津病院 III. 実習指導者 ○医師 佐藤悟朗 （精神保健指定医・精神科専門医・指導医） 医師 中津啓吾 （精神保健指定医・精神科専門医・指導医） ○臨床心理士 ○精神看護専門看護師 柳井亮太 IV. 実習時期および期間 1. 時期：2年次の5月中旬から10月下旬にかけて実施する。 2. 期間：原則的には1日8時間として、5日間の集中実習と1週間に1日2.5時間、計20日の継続実習とする。 最終的には、各学生の実習計画により実習施設・大学と話し合いのうえ決定する。 V. 実習方法 1. 第1週（5日間集中） 1）精神疾患を持つ患者に対する診療行為を見学し、見学内容から精神現症アセスメントを行い精神科医による診立てと治療計画、処方に関する指導を受ける。 2）気分障害の認知行動療法プログラムについてのガイダンスを受け、認知行動療法（以下CBT）のケースアセスメント、導入、介入、評価のプログラム運営の実際を臨床心理士の指導のもとで学ぶ。 2. 第2週以降（1回2.5時間、計20日） CBTについて臨床心理士から指導を受けながら実施し、CNSや担当教員から、看護の視点からのCBT実践についてスーパーバイズを受ける。 1）毎週行われている入院中の気分障害を対象とした5回1クルールのCBT基礎編に参加し、CBTへの導入、実践、評価について学ぶ。 2）外来の気分障害を対象とした13回1クルールのCBTに参加し、CBTへの導入、実践、評価について学ぶ。

参考文献	適宜資料配付
予習復習	実習前には実習目標達成のための自己の課題を明確にし、講義・演習での資料や文献をもとに自己学習を行う。また実習目標達成のための実習計画案を作成する。 実習後には、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①詳細は、精神保健看護学実習Ⅱ・実習要項（別紙）を参照する。実習は定期的にスーパービジョンを行う。 ②評価は、実習目標の到達度（60％）、実習報告書（30％）、プレゼンテーション（10％）により総合的に評価する。 プレゼンテーションの評価は面接にて行う。実習報告書はコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程実習科目の医療施設等における精神科診断・治療実習に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学実習Ⅲ（リエゾン精神看護）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	4.0
総開講時間数	180.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次後期～2年次後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	直接ケア実習では、精神看護専門看護師（以下CNS）に必要とされる、実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究、の実践能力の基礎を修得することを目的に直接ケア、およびケースマネジメントの実践能力の向上を目指す。 この授業科目はディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. CNSの指導のもと、精神症状のある患者の直接ケアを実施し、精神状態の評価、生活上のニーズ、セルフ ケアを評価し看護ケアを実施できる。 2. サブスペシャリティ領域においての直接ケアの実践として、以下のことができる。 1) CNSによる直接ケアの実際を理解する。 2) 受け持ち患者の健康課題、提供されている医療サービス、家族、集団のアセスメントを行い統合的に分析して、介入の方略を策定し、直接ケアが実践できる。 3) 直接ケアを実施した対象者のケアの向上に必要なケアプランを実施するために、CNS及び担当教員の指導のもと、直接ケアに関わる教育やコンサルテーション、調整、倫理調整を説明できる。
	I. 学習内容 1. リエゾン・慢性期に共通した直接ケアの基礎として、精神科病院においてCNSの指導のもとで、精神症状を持つ患者に対する直接ケアを実施する。 2. 慢性期精神看護専攻では、精神科病院において、回復期および回復期以降の患者の援助、退院支援を実施する。 サブスペシャリティ領域において、特有の臨床問題をもつ精神疾患患者または重度の精神的課題を持つ患者を一時期に1～2名、全期間を通して4名程度を受け持ち、直接ケアを実施する。同時に、直接ケアに関わる教育やコンサルテーション、調整、倫理調整について、CNSおよび担当教員の指導のもとで理解できる。 3. リエゾン精神看護専攻では、精神症状またはメンタルヘルス上のニーズを持つ患者を一時期に1～2名、全期間を通して4名程度を受け持ち、直接ケアを実施する。同時に、直接ケアに関わる教育やコンサルテーション、調整、倫理調整について、CNSおよび担当教員の指導のもとで理解できる。 II. 実習施設 1. 第1週目（4日間集中） ○医療法人社団碧水会 長谷川病院 2. 第2週目以降（慢性期精神看護専攻） ○医療法人社団更正会 草津病院 3. 第2週目以降（リエゾン精神看護専攻） ○広島赤十字・原爆病院 III. 実習指導者 1. 第1週目（4日間集中） ○精神看護専門看護師 後藤優子 精神看護専門看護師 細谷真由 精神看護専門看護師 五味麻里 2. 第2週目以降（慢性期精神看護専攻） ○精神看護専門看護師 柳井 亮太 3. 第2週目以降（リエゾン精神看護専攻） ○精神看護専門看護師 三浦 真衣 IV. 実習時期および期間 1. 時期：2年次5月～7月に実施する。 2. 期間：原則的には1日8時間として、各サブスペシャリティ共通の4日間の集中実習の後に、サブスペシャリティ領域における4日間の集中実習と1週間に3日のペースで5週間、合計7週間の継続実習を行う。ただし、7週目は2.5日とする。最終的には、各学生の実習計画により実習施設・大学と話合いのうえ決定する。 V. 実習方法

授業内容	1. 慢性期精神看護、リエゾン精神看護共通 第1週（4日間集中） 精神科病院においてCNSの指導のもとで、精神症状を持つ患者に対する直接ケアを実施する。実習内容に関しては、日々の実践記録に記載して、翌朝までに教員に提出し（メールでの提出の場合はパスワードで保護する）、指導を受け、学内で面談による指導を受ける。
	2. 慢性期精神看護専攻 1）第2週（4日間集中） 精神科病院において回復期以降の慢性期の患者の退院支援を含む直接ケアの実際について学ぶ。学生の受けもち患者数は病棟のニーズと学生の準備状況を見ながら、そのつど受け持ち患者数を決める。 ①受け持ち患者に総合的な視点から直接ケアを提供する。 ②ケアに参加しながら、実習記録を作成し、CNS、担当教員のスーパーバイズを受けながら実習を行う。 2）第3週～第7週（原則週3回） ①受け持ち患者に対しケースマネジメントを実施し、そのつど介入の方略を修正して、実施する。 ②実習の場で、ケアの向上のために必要な教育やコンサルテーションを実施するための準備を行う。 病棟や相談相手の状況、潜在的ニーズ、能力をアセスメントし、統合的に分析を行い、CNSや担当教員から指導を受ける。 3）病棟などの実習の場で、ケアの向上のために必要な教育やコンサルテーションのニーズを探る。 4）直接ケアに関連する実践内容をまとめ、その成果を報告（実践報告の形式）し、フィードバックを受ける。
	3. リエゾン精神看護専攻 1）第2週（4日間集中） 一般病院において精神症状または精神健康上のニーズを持つ患者に対する直接ケアの実際について学ぶ。学生の受け持ち患者数は病棟のニーズと学生の準備状況を見ながら、そのつど受け持ち患者数を決める。 ①受け持ち患者に総合的な視点から直接ケアを提供する。 ②ケアに参加しながら、実習記録を作成し、CNS、担当教員のスーパーバイズを受けながら実習を行う。 2）第3週～第7週（原則週3回） ①受け持ち患者に対しケースマネジメントを実施し、そのつど介入の方略を修正して、実施する。 ②実習の場で、ケアの向上のために必要な教育やコンサルテーションを実施するための準備を行う。 病棟や相談相手の状況、潜在的ニーズ、能力をアセスメントし、統合的に分析を行い、CNSや担当教員から指導を受ける。 ③病棟などの実習の場で、ケアの向上のために必要な教育やコンサルテーションのニーズを探る。 ④直接ケアに関連する実践内容をまとめ、その成果を報告（実践報告の形式）し、フィードバックを受ける。

参考文献	適宜資料配付
予習復習	実習前には実習目標達成のための自己の課題を明確にし、講義・演習での資料や文献をもとに自己学習を行う。また実習目標達成のための実習計画案を作成する。 実習後には、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①詳細は、精神保健看護学実習III・実習要項（別紙）を参照する。実習は定期的にスーパービジョンを行う。 ②評価は、実習目標の到達度（60％）、実習報告書（30％）、プレゼンテーション（10％）により総合的に評価する。プレゼンテーションの評価は面接にて行う。実習報告書はコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程実習科目の医療施設等における直接ケア実習に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学実習Ⅲ（慢性期精神看護）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	4.0
総開講時間数	180.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次後期～2年次後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	直接ケア実習では、精神看護専門看護師（以下CNS）に必要とされる、実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究、の実践能力の基礎を修得することを目的に直接ケア、およびケースマネジメントの実践能力の向上を目指す。 この授業科目はディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1. CNSの指導のもと、精神症状のある患者の直接ケアを実施し、精神状態の評価、生活上のニーズ、セルフ ケアを評価し看護ケアを実施できる。 2. サブスペシャリティ領域においての直接ケアの実践として、以下のことができる。 1) CNSによる直接ケアの実際を理解する。 2) 受け持ち患者の健康課題、提供されている医療サービス、家族、集団のアセスメントを行い統合的に分析して、介入の方略を策定し、直接ケアが実践できる。 3) 直接ケアを実施した対象者のケアの向上に必要なケアプランを実施するために、CNS及び担当教員の指導のもと、直接ケアに関わる教育やコンサルテーション、調整、倫理調整を説明できる。
	I. 学習内容 1. リエゾン・慢性期に共通した直接ケアの基礎として、精神科病院においてCNSの指導のもとで、精神症状を持つ患者に対する直接ケアを実施する。 2. 慢性期精神看護専攻では、精神科病院において、回復期および回復期以降の患者の援助、退院支援を実施する。 サブスペシャリティ領域において、特有の臨床問題をもつ精神疾患患者または重度の精神的課題を持つ患者を一時期に1～2名、全期間を通して4名程度を受け持ち、直接ケアを実施する。同時に、直接ケアに関わる教育やコンサルテーション、調整、倫理調整について、CNSおよび担当教員の指導のもとで理解できる。 3. リエゾン精神看護専攻では、精神症状またはメンタルヘルス上のニーズを持つ患者を一時期に1～2名、全期間を通して4名程度を受け持ち、直接ケアを実施する。同時に、直接ケアに関わる教育やコンサルテーション、調整、倫理調整について、CNSおよび担当教員の指導のもとで理解できる。 II. 実習施設 1. 第1週目（4日間集中） ○医療法人社団碧水会 長谷川病院 2. 第2週目以降（慢性期精神看護専攻） ○医療法人社団更正会 草津病院 3. 第2週目以降（リエゾン精神看護専攻） ○広島赤十字・原爆病院 III. 実習指導者 1. 第1週目（4日間集中） ○精神看護専門看護師 後藤優子 精神看護専門看護師 細谷真由 精神看護専門看護師 五味麻里 2. 第2週目以降（慢性期精神看護専攻） ○精神看護専門看護師 柳井 亮太 3. 第2週目以降（リエゾン精神看護専攻） ○精神看護専門看護師 三浦 真衣 IV. 実習時期および期間 1. 時期：2年次5月～7月に実施する。 2. 期間：原則的には1日8時間として、各サブスペシャリティ共通の4日間の集中実習の後に、サブスペシャリティ領域における4日間の集中実習と1週間に3日のペースで5週間、合計7週間の継続実習を行う。ただし、7週目は2.5日とする。最終的には、各学生の実習計画により実習施設・大学と話し合いのうえ決定する。 V. 実習方法

授業内容	1. 慢性期精神看護、リエゾン精神看護共通 第1週（4日間集中） 精神科病院においてCNSの指導のもとで、精神症状を持つ患者に対する直接ケアを実施する。実習内容に関しては、日々の実践記録に記載して、翌朝までに教員に提出し（メールでの提出の場合はパスワードで保護する）、指導を受け、学内で面談による指導を受ける。
	2. 慢性期精神看護専攻 1）第2週（4日間集中） 精神科病院において回復期以降の慢性期の患者の退院支援を含む直接ケアの実際について学ぶ。学生の受けもち患者数は病棟のニーズと学生の準備状況を見ながら、そのつど受け持ち患者数を決める。 ①受け持ち患者に総合的な視点から直接ケアを提供する。 ②ケアに参加しながら、実習記録を作成し、CNS、担当教員のスーパーバイズを受けながら実習を行う。 2）第3週～第7週（原則週3回） ①受け持ち患者に対しケースマネジメントを実施し、そのつど介入の方略を修正して、実施する。 ②実習の場で、ケアの向上のために必要な教育やコンサルテーションを実施するための準備を行う。 病棟や相談相手の状況、潜在的ニーズ、能力をアセスメントし、統合的に分析を行い、CNSや担当教員から指導を受ける。 3）病棟などの実習の場で、ケアの向上のために必要な教育やコンサルテーションのニーズを探る。 4）直接ケアに関連する実践内容をまとめ、その成果を報告（実践報告の形式）し、フィードバックを受ける。
	3. リエゾン精神看護専攻 1）第2週（4日間集中） 一般病院において精神症状または精神健康上のニーズを持つ患者に対する直接ケアの実際について学ぶ。学生の受け持ち患者数は病棟のニーズと学生の準備状況を見ながら、そのつど受け持ち患者数を決める。 ①受け持ち患者に総合的な視点から直接ケアを提供する。 ②ケアに参加しながら、実習記録を作成し、CNS、担当教員のスーパーバイズを受けながら実習を行う。 2）第3週～第7週（原則週3回） ①受け持ち患者に対しケースマネジメントを実施し、そのつど介入の方略を修正して、実施する。 ②実習の場で、ケアの向上のために必要な教育やコンサルテーションを実施するための準備を行う。 病棟や相談相手の状況、潜在的ニーズ、能力をアセスメントし、統合的に分析を行い、CNSや担当教員から指導を受ける。 ③病棟などの実習の場で、ケアの向上のために必要な教育やコンサルテーションのニーズを探る。 ④直接ケアに関連する実践内容をまとめ、その成果を報告（実践報告の形式）し、フィードバックを受ける。

参考文献	適宜資料配付
予習復習	実習前には実習目標達成のための自己の課題を明確にし、講義・演習での資料や文献をもとに自己学習を行う。また実習目標達成のための実習計画案を作成する。 実習後には、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①詳細は、精神保健看護学実習III・実習要項（別紙）を参照する。実習は定期的にスーパービジョンを行う。 ②評価は、実習目標の到達度（60％）、実習報告書（30％）、プレゼンテーション（10％）により総合的に評価する。プレゼンテーションの評価は面接にて行う。実習報告書はコメントをつけて返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程実習科目の医療施設等における直接ケア実習に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学実習Ⅳ（リエゾン精神看護）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	3.0
総開講時間数	135.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次前期～後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	リエゾン精神看護専攻の直接ケア実習では、一般病院にて、複雑な精神的課題を持つ対象者（患者・家族・ケア提供者）への直接ケア（短期精神療法的介入およびリラクセーション法等を含む）について実践を通して学ぶ。また、担当教員、リエゾン専門看護師（以下、CNS）の指導下で緩和ケアチーム、認知症ケアチームへの参加を通し、コンサルテーション・コーディネーションの実際を学ぶ。これらの実践を通し、リエゾン精神看護専門看護師のケアとキューを統合した高度実践、コンサルテーション、コーディネーション、教育、研究、倫理調整の実際を学ぶ。この授業科目はディプロマ・ポリシー2-1.2-2.2-3.2-4.2-5.2-6.に対応する。
到達目標	1. 一般病院にて、複雑な精神的課題を持つ対象者（患者・家族・ケア提供者）への直接ケア（短期精神療法的介入およびリラクセーション法等を含む）を実践できる。 2. 直接ケアを実施している対象者のケアの向上のために調整、倫理調整を計画、実施することができる。 3. 一般病院の緩和ケアチーム、認知症ケアチーム等の活動を通して、リエゾン精神看護の立場から状況を把握し、コンサルテーション・コーディネーションを行うことができる。
授業内容	I. 学習内容 一般病院にて複雑な精神的課題を持つ対象者（患者・家族・ケア提供者）を常時2～3名受け持ち、直接ケア（短期精神療法的介入およびリラクセーション法等を含む）を実践する。直接ケアを実施している対象者のケアの向上のために調整、倫理調整を計画、実施する。また、緩和ケアチーム、認知症ケアチーム等の活動を通して、リエゾン精神看護の立場から状況を把握し、コンサルテーション・コーディネーションを実施する。 II. 実習施設 ○広島赤十字・原爆病院 III. 実習指導者 ○精神看護専門看護師 三浦 真衣 IV. 実習時期および期間 1. 時期：2年次9月～10月に実施する。 2. 期間：原則として、1日8時間として、1週間に3日、計6週間とする。ただし、直接ケア実習として、4週間（4週目は2日間と2時間）、コンサルテーション・調整実習として、2週間（2週目は2日と5時間）とする。最終的には、各学生の実習計画により実習施設・大学と話し合いのうえ決定する。 V. 実習方法 1. サブスペシャリティにおける直接ケア実習 1）一般病院において精神的に高度なケアが必要な対象者（患者・家族・ケア提供者）に対して、アセスメントを行い、在院時間等の時間枠を考慮しながら、直接ケア（短期精神療法的介入およびリラクセーション法等を含む）を行う。 2）受け持ちケースに対しては、必要な身体的、心理的援助を実施し、継続的な介入が必要な場合は、そのつど介入の方略を修正して、教員・CNSと調整したうえで実施する。 3）ケアの実施に当たっては、看護チームとの連携や対象者のケアの一次的責任者へのフィードバックを行い、ケアの質の維持向上のための調整を行う。 4）実習期間中は実習記録を作成し、教員・CNSのスーパーバイズを受けながら実習を行う。 2. コンサルテーション、調整および教育、研究の相談指導の準備と実施 1）CNSの指導のもと、緩和ケアチームまたは認知症ケアチームの活動に参加し、組織横断的にコンサルテーション・コーディネーションを実施する。（状況によってはシャドウイングをしながら学ぶ） 2）直接ケアから得たニーズを基に病棟等の実習の場でケアの向上に必要な教育、研究の相談指導を実施する。その際に、実施可能なケースについては、実習Ⅲに引き続き、病棟の状況、潜在的ニーズ、能力等の組織アセスメントをし、統合的に分析してCNSの指導のもとに実施する。直接実施が困難な場合は、教育計画を立案し、教員、CNSから指導を受ける。 3）対象者のアセスメントや介入の結果を統合的に分析して、対象者に必要な調整、倫理調整を計画し、CNSと調整し実施する。 4）実践内容を病棟ニーズと調整した上でCNSおよび教員の指導の下で実施し、まとめとその成果を報告（実践報告の形式）しフィードバックを受ける。 ※臨床状況に応じて、日程配分の調整は可能とする。

参考文献	適宜資料配付
予習復習	実習前には実習目標達成のための自己の課題を明確にし、講義・演習での資料や文献をもとに自己学習を行う。また実習目標達成のための実習計画案を作成する。実習後には、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①詳細は、精神保健看護学実習Ⅳ・実習要項（別紙）を参照する。実習は定期的にスーパービジョンを行う。 ②評価は、実習目標の到達度（60％）、実習報告書（30％）、プレゼンテーション（10％）により総合的に評価する。プレゼンテーションの評価は面接にて行う。実習報告書はコメントをつけて返却する。
備考	*精神保健看護学実習Ⅳはリエゾン精神看護と慢性期精神看護のどちらかの選択必須科目 この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程実習科目の専攻分野専門科目（リエゾン精神看護）における直接ケア実習及び医療施設または地域におけるコンサルテーション・コーディネーション実習に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	精神保健看護学実習Ⅳ（慢性期精神看護）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	3.0
総開講時間数	135.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次前期～後期

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	慢性期精神看護専攻の直接ケア実習では、精神科病院での退院、地域移行支援を主とした実践、教育、コンサルテーション、調整、研究、倫理調整の実際を学ぶ。 教員、慢性期精神専門看護師（以下、CNS）の指導下で退院に向けた総合的治療・訓練プログラムへの参加を通し、コンサルテーション・コーディネーションの実際を学ぶ。 この授業科目はディプロマ・ポリシー2-1. 2-2. 2-3. 2-4. 2-5. 2-6. に対応する。
到達目標	1．統合失調症、気分障害等の入院中期から退院後初期への移行プログラム上にある対象者、家族、集団のアセスメントを行い、精神科病院での治療・訓練プログラムのプロセスを踏まえた援助を実施できる。 2．対象者の退院支援計画に沿った支援チーム間の調整、倫理調整を計画、実施することができる。 3．実習施設の状況、潜在的ニーズ、能力をアセスメントし、総合的に分析して、研究の相談指導、コンサルテーションを計画、実施することができる。
授業内容	I．学習内容 精神科病院での入院中期以降の患者への退院、地域移行支援を主とした看護援助（問題解決技法、WRAP等の治療的技法を含む）を実践し、看護チーム、治療チームへの教育、コンサルテーション、調整、研究、倫理調整を実践する。また入院中期から退院後初期への移行プログラム、退院支援チームミーティングに参加し、担当教員・CNSの指導下でコンサルテーション・コーディネーションを実施する。 II．実習施設 ○医療法人社団更正会 草津病院 III．実習指導者 ○精神看護専門看護師 柳井 亮太 IV．実習時期および期間 1．時期：2年次9月～10月に実施する。 2．期間：原則として、1日8時間として、1週間に3日、計6週間とする。ただし、直接ケア実習として、4週間（4週目は2日間と2時間）、コンサルテーション・調整実習として、2週間（2週目は2日と5時間）とする。 最終的には、各学生の実習計画により実習施設・大学と話し合いのうえ決定する。 V．実習方法 1．サブスペシャリティーにおける直接ケア実習 1）統合失調症、気分障害等の疾患の入院中期から退院後初期への移行プログラム上にある対象者、家族、集団のアセスメントを行い、治療・訓練プログラムのプロセスを踏まえた援助を実施する。 2）受け持ちケースに対しては、入院中期から退院後初期への移行プログラムを踏まえた治療的介入（問題解決技法、WRAP等）を含む看護援助を実施する。継続的な介入が必要な場合は、そのつど介入の方略を修正し、CNSおよび教員と調整しながら実施する。 3）実習期間中は実習記録を作成し、教員・CNSのスーパーバイズを受けながら実習を行う。 2．コンサルテーション、調整および教育、研究の相談指導の準備と実施 1）実習施設が行う心理教育、退院支援、長期リハビリテーションプログラムや退院支援チームミーティングに加わり、CNSの指導下でコンサルテーション、コーディネーションを実施する。 2）対象者のアセスメントや介入の結果を統合的に分析して、対象者に必要な調整、倫理調整を計画し、CNSと調整し実施する。 3）実践内容を病棟ニーズと調整した上でCNSおよび教員の指導の下で実施し、まとめとその成果を報告（実践報告の形式）し、フィードバックを受ける。 ※臨床状況に応じて、日程配分の調整は可能とする。

参考文献	適宜資料配付
予習復習	実習前には実習目標達成のための自己の課題を明確にし、講義・演習での資料や文献をもとに自己学習を行う。また実習目標達成のための実習計画案を作成する。 実習後には、次の実習に向けて、自己の課題を明らかにする。
評価方法	①詳細は、精神保健看護学実習Ⅳ・実習要項（別紙）を参照する。実習は定期的にスーパービジョンを行う。 ②評価は、実習目標の到達度（60％）、実習報告書（30％）、プレゼンテーション（10％）により総合的に評価する。 プレゼンテーションの評価は面接にて行う。実習報告書はコメントをつけて返却する。
備考	*精神保健看護学実習Ⅳはリエゾン精神看護と慢性期精神看護のどちらかの選択必須科目 この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における精神看護学専攻教育課程実習科目の専攻分野専門科目（慢性期精神看護）における直接ケア実習及び医療施設または地域におけるコンサルテーション・コーディネーション実習に該当する。
オフィスアワー	戸村：火曜日 16：30～17：30

年度	2025
科目名	災害看護学Ⅰ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
東 智子
高田 洋介
宇都宮 明美

授業概要	災害に関する基本的な知識（災害の定義、種類、災害サイクル等）を学び、災害が人々の生命や生活にどのような影響を与えるのかについて、過去の災害事例に基づいて深く検討する。災害サイクルに沿った人々の反応について、文献や実際の事例を用いて討議し探究する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-3. に対応する。
到達目標	1. 災害に関する基本的知識を身につける。 2. 災害の種類別に生じる健康問題を説明できる。 3. 災害時における人間の心身の反応を説明できる。 4. 災害サイクルの考え方について説明できる。 5. 災害サイクルに沿った人々の反応とともに社会の対応について説明できる。

授業内容

回	内容	予習復習	担当教員
第1回	昨今の災害の特徴と災害看護の重要性 災害の基本的な知識 （災害の種類や分類について検討する）	参考文献①のChapter1	高田
第2回	災害の基本的な知識（災害の定義について検討する）	参考文献①のChapter1	高田
第3回	災害の基本的な知識（災害サイクルのとらえ方について検討する）		中信
第4回	災害中長期の健康問題とその対応（避難所・仮設住宅）		中信
第5回	災害の種類別における健康問題（自然災害：地震、津波、台風、竜巻、噴火等）	参考文献①のChapter4&5	高田
第6回	災害の種類別における健康問題（人為災害：生物・化学・放射線災害、爆発等）	参考文献①のChapter4&5	高田
第7回	災害初期の健康問題とその対応		中信
第8回	静穏期における看護活動（復興住宅）		中信
第9回	災害時の人間の行動特性（人はなぜ逃げ遅れるのか）	参考文献②	中信
第10回	災害時の心身の反応（心身への影響とスクリーニング）		中信
第11回	災害時のマネジメントについて検討する		東
第12回	災害対応について検討する	参考文献③	東
第13回	災害時の看護専門職としての活動 -JR福知山線脱線事故時の活動を通して-		宇都宮
第14回	災害時の看護専門職としての活動 -JR福知山線脱線事故時の活動を通して-		宇都宮

第15回	災害看護のコアとなるコンピテンシーを検討する		中信
------	------------------------	--	----

参考文献	①Tener Goodwin (2007). Disaster Nursing and Emergency Preparedness for Chemical, Biological, and Radiological Terrorism and Other Hazards. Springer. ②広瀬弘忠（2004）. 人はなぜ逃げおくれるのか. 集英社新書. ③石巻赤十字病院, 由井りょう子（2011）. 石巻赤十字病院の100日間. 小学館. その他、適宜提示する。
予習復習	各講義内容に関する文献を自己学習し講義にのぞみ、終了後は資料・文献等で復習する。
評価方法	演習形式で行う。 ①演習への参加状況およびプレゼンテーション（50％）、②最終のレポート課題（50％）で総合的に評価する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「対象の理解に関する科目」に該当する。 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。レポートは後日コメントをして返却する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 宇都宮：講義前後 ／東：講義前後 ／ 高田：月曜日～金曜日 10：00～17：00

年度	2025
科目名	災害看護学Ⅱ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
東 智子
高田 洋介

授業概要	災害サイクル各期の看護活動の場の特性を理解する。国内外の災害救援活動における活動原則（倫理的側面を含む）や活動方法を理解し、他職種との連携について考察を深め、支援のあり方について理論的に探求する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-4. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 災害サイクル各期における看護活動の場の特性を説明できる。 2. 災害サイクル各期で展開する看護活動について具体的に説明できる。 3. 国内外の災害救援活動における活動原則および方法を説明できる。 4. 災害時における倫理課題について説明できる。 5. 上記のことをふまえて、災害時に効果的に活動するための他職種間の連携について考察できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	災害サイクルと看護活動	高田
第2回	世界の災害状況と医療福祉保健の現状 世界の健康状態と持続的開発目標 （MDGs達成状況とSDGsへの移行）	高田
第3回	緊急救援活動の実際と課題 ERU（Emergency Response Unit)の基本的概念と種類とその役割	高田
第4回	急性期の看護活動 DMATにおける看護活動と課題 DMATの発祥・活動目的とその変遷：東日本大震災時のDMAT活動の課題	高田
第5回	急性期の看護活動 避難所の特性を理解し、避難所における看護活動とその課題を検討する	高田
第6回	急性期の看護活動 被災した医療施設・後方支援の医療施設における看護活動と課題	東
第7回	中長期における看護活動 仮設住宅・復興住宅における看護活動と課題	中信
第8回	復興期における看護活動（住民に対して） 地域社会における災害に対する備え	中信
第9回	復興期における看護活動（医療従事者に対して） 医療機関における災害に対する備え	中信
第10回	災害時にパートナーとなる救援組織：国際機関、政府組織、NGO等との連携	高田
第11回	クラスターアプローチとは？どのような連携をとるのか	高田
第12回	活動における基準となるもの：「Sphere Project」と「Code of Conduct」	高田
第13回	災害救援活動における倫理的課題とは何か	中信

第14回	災害救援活動における倫理的課題の実際：大規模災害時の事例を用いて	中信
第15回	災害各期の看護活動における専門看護師としての役割	中信

参考文献	適宜提示する。
予習復習	各講義内容に関する文献を自己学習し講義にのぞみ、終了後は資料・文献等で復習する。
評価方法	①プレゼンテーション50%、②レポート50%によって総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーションの内容や方法等についてコメントを返す。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「災害サイクルと看護援助に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 東：講義前後 ／ 高田：月曜日～金曜日 10：00～17：00

年度	2025
科目名	災害看護学Ⅲ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	前期
開講時期	前期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子

授業概要	国内外で災害救援活動を展開する上で必要となる法制度について理解を深める。さまざまな災害に関連した法律や制度等を歴史的な観点から概観し、災害法制の仕組みを理解したうえで、災害各期における災害対応の現状と具体的な課題（健康や生活課題等）について、事例を活用しながら探求する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1.2-4.に対応する。
到達目標	1. 国内外で災害救援活動を展開する上で必要となる基本的な法律について説明できる。 2. 災害と法の歴史について概要を説明できる。 3. 災害後の教訓から生まれた災害対応等（施策等）について、事例を分析することができる。 4. 災害各期における災害対応の現状（法的側面）と課題について説明できる。

授業内容

回	内 容	予習復習	担当教員
第1回	災害法制の仕組み　法の序列	①第 2 章	中信
第2回	災害と法の歴史 江戸時代～明治時代～戦前後～阪神・淡路大震災～東日本大震災	①第1章	中信
第3回	静穏期の法制度　災害対策基本法の成立と変遷	①第 3 章	中信
第4回	対応期の法制度　災害救助法の成立と変遷	①第 4 章	中信
第5回	復旧・復興期の法的制度　被災者生活再建支援法など（生活再建） （阪神・淡路大震災後の教訓とともに鳥取西部地震後の事例を含む）		中信
第6回	復興期の法制度　震災復興とまちづくり（地域コミュニティの再建）	①第 5 章	中信
第7回	災害に備える法制度　防災・減災の観点から	①第 6 章	中信
第8回	災害対応の担い手(日本赤十字社、その他NGO)と法的側面		中信
第9回	東日本大震災時の災害対応　カウンタパート方式		中信
第10回	多職種との関係：消防、自衛隊等との連携		中信
第11回	災害と個人情報保護法　（JR福知山線脱線事故後の事例を含む）	①第 9 章	中信
第12回	災害医療に関する法律（救急業務、災害時の医療体制等）		中信
第13回	原子力災害と法(原爆被害後、東日本大震災後の事例を含む)	①第 8 章	中信
第14回	諸外国における災害時の法制度		中信
第15回	総括：災害後における健康や生活を支えるための法制度		中信

参考文献	①津久井進（2012）. 大災害と法. 岩波新書. ②阿部泰隆（1995）. 大震災の法と政策－阪神・淡路大震災に学ぶ政策法学－. 日本評論社. その他、適宜提示する。
予習復習	各講義内容に関する文献を自己学習し、事例を取り上げ資料としてまとめ、講義にのぞみ、終了後は資料・文献等で復習する。

評価方法	①演習への参加状況およびプレゼンテーション（50％）、②最終のレポート課題（50％）で総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「法律や制度に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	災害看護学Ⅳ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
東 智子
世良 俊樹

授業概要	災害の発生からの時間軸に沿って、災害急性期の命を救う活動、避難所や仮設住宅での生活をする人たちへの看護活動を含めて、災害に備えた準備や訓練等を行う静穏期の看護活動について深く探求する。それぞれの看護活動を行う際に、どのようにアセスメントを行い看護活動につなげることができるのかを検討し、具体的な災害事例を通して災害時における看護活動について理解を深める。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. に対応する。
到達目標	1. 災害の発生からの時間経過に沿った看護活動について説明できる。 2. 災害時特有の健康問題を説明できる。 3. 災害時特有の健康問題に対する看護活動について説明できる。 4. 災害後の心身のスクリーニングについて説明できる。 5. 災害事例を取り上げて、災害の時間軸にそった看護の展開について、具体的に説明できる。 6. 演習を通して、災害時における看護の役割について具体的に説明できる。

授業内容

回	内容	担当教員
第1回	災害発生からの時間軸にそった看護活動（概要）	東
第2回	過去の事例から学ぶ（災害の時間軸にそった看護活動の事例展開）	東
第3回	災害発生直後～急性期の災害時特有の健康問題と看護活動 （クラッシュシンドローム、フレイルチェスト等）	世良
第4回	災害発生直後～急性期の災害時特有の健康問題と看護活動 （クラッシュシンドローム、フレイルチェスト等）	世良
第5回	災害中期～後期の健康問題と看護活動 （深部静脈血栓症、感染症等）	世良
第6回	災害中期～後期の健康問題と看護活動 （深部静脈血栓症、感染症等）	世良
第7回	災害後期の健康問題と看護活動 （PTSD、うつ、アルコール依存症等）	中信
第8回	災害後期の健康問題と看護活動 （PTSD、うつ、アルコール依存症等）	中信
第9回	災害発生直後からの心身のスクリーニングとそのフォロー体制	中信
第10回	避難所アセスメントの方法および避難所アセスメント後の看護介入方法について	中信
第11回	災害の時間軸にそった看護活動の展開：地震の場合 【演習】	中信
第12回	災害の時間軸にそった看護活動の展開：噴火の場合 【演習】	中信
第13回	災害の時間軸にそった看護活動の展開：風水害の場合 【演習】	中信

第14回	災害の時間軸にそった看護活動の展開：人為災害の場合　【演習】	中信
第15回	総括：災害時における看護の役割について検討する	中信

参考文献	適宜提示する。
予習復習	各講義内容に関する文献を自己学習し講義にのぞみ、終了後は資料・文献等で復習する。
評価方法	演習形式で行う。 ①プレゼンテーション(50%)、②課題レポート(50%)によって総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「災害時の看護活動に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 世良：講義前後 ／ 東：講義前後

年度	2025
科目名	災害看護学Ⅴ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
東 智子
高田 洋介

授業概要	災害の被害を少なくする為に、個人・家族・地域・医療機関などの防災・減災に向けた体制づくりについての原理と援助方法をHUG等の演習を通して学ぶ。さらに、地域住民や医療従事者に対して、災害看護教育の専門家として、これからの巨大災害への備えの重要性について検討する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-4. に対応する。
到達目標	1. これまでの災害事例を分析に基づき、災害の備えの重要性について説明できる。 2. 災害に備えた組織体制や被害対応について説明できる。 3. 医療機関における災害に対する備えの重要性と具体的な対策について説明できる。 4. 地域における災害の備えの重要性についてHUGを通して具体的に検討することができる。 5. 今後起こり得る巨大災害に対する備えについて説明できる。

授業内容

回	内 容	予習復習	担当教員
第1回	災害の備えの重要性について（防災の定義、減災と危機管理、災害からの復旧・復興とレジリエンス等）		中信
第2回	災害に備えた事業継続計画：BCP		高田
第3回	「リスク社会」と防災人間学 防災研究の新しい形	①序章、第1章	中信
第4回	防災の「時間論」	①第2章	中信
第5回	避難行動：「正常化の偏見」を再考する	①第3章	中信
第6回	避難生活における被災者の課題と看護職のかかわり 【講義・演習】		高田
第7回	地域における指定避難所、福祉避難所の備え 【講義・演習】		高田
第8回	医療機関における災害への備え：災害基幹病院・拠点病院として 【講義・演習】		東
第9回	防災教育・学習/ゲーム作りを通した防災学習 【講義・演習】	①第 7 ・ 8 章	高田
第10回	HUGによる災害時の要配慮者を考慮した運営（机上シミュレーション） 【演習】		高田
第11回	HUGによる災害時の要配慮者を考慮した運営（机上シミュレーション） 【演習】		高田
第12回	大学が福祉避難所となった場合（机上シミュレーション） 【演習】		高田
第13回	大学が福祉避難所となった場合（机上シミュレーション） 【演習】		高田
第14回	大都市での災害対応：帰宅困難者に対する対応について検討する 【演習】		高田
第15回	これからの巨大災害に備えるためには（オーダーメイド避難の必要性）		高田

参考文献	①矢守克也（2009）. 防災人間科学. 東京大学出版会. その他、適宜提示する。
予習復習	各講義内容に関する文献を自己学習し講義にのぞみ、終了後は資料・文献等で復習する。

評価方法	演習形式で行う。 ①プレゼンテーション(50%)、②課題レポート(50%) によって総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーションの内容や方法等についてコメントを返す。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「防災・減災備え活動に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 東：講義前後 ／高田：月曜日～金曜日 10：00～17：00

年度	2025
科目名	災害看護学Ⅵ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	土曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
高田 洋介
高橋 佳子

授業概要	災害時に支援ニーズの高い対象（小児・妊産褥婦・高齢者、障がい者等）が持つ健康問題とそれに対する援助方法を修得する。特に上記のような災害時要配慮者は、それぞれに個別の問題を抱えており、看護援助を検討するための一つのツールとしてPCM（Project Cycle Management)を活用し、PCMの演習を通して災害時要援護者の看護援助について修得する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-3. 2-4. に対応する。
到達目標	1. 災害時要援護者の定義について述べることができる。 2. それぞれの災害時要援護者の健康問題について具体例を挙げて説明できる。 3. それぞれの災害時要援護者に対する援助方法を具体的に説明できる。 4. PCM手法を用いて、これらの問題を分析することができる（事例を用いた分析）。

授業内容

回	内 容	予習復習	担当教員
第1回	災害時要配慮者の定義と災害時要配慮者が実際に抱える健康課題について（共通部分）		高田
第2回	災害時要配慮者に対する環境への配慮（生活・公衆衛生の視点から） 【講義・演習】		高田
第3回	災害時要配慮者に対する避難所におけるトリアージ 要配慮者の区分と判断基準（要配慮者トリアージのシミュレーション） 【講義・演習】		高田
第4回	災害時要配慮者の特徴を考慮した健康問題や生活への援助（高齢者）		高田
第5回	災害時要配慮者の特徴を考慮した健康問題や生活への援助（妊産褥婦）		高田
第6回	災害時要配慮者の特徴を考慮した健康問題や生活への援助（子ども）		高田
第7回	災害時要配慮者の特徴を考慮した健康問題や生活への援助（慢性疾患や心身に障がいを持つ人）		高田
第8回	災害時要配慮者の特徴を考慮した健康問題や生活への援助（視聴覚障がいを持つ人）		高田
第9回	災害時要配慮者の支援の一方法 PCM（Project Cycle Management)とは何か？【講義・演習】	参考文献①	中信
第10回	PCM手法：住民参加型計画手法（災害事例を用いた演習） *災害時要配慮者に対する関わりについての課題を取り上げる 【演習】	参考文献①	高橋・中信
第11回	プロジェクトの選択とプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM） *災害時要配慮者の課題に対しての問題分析を演習を通して検討する 【演習】	参考文献①	高橋・中信
第12回	PCM手法におけるモニタリング・評価 *災害時要配慮者に対する事例分析 【演習】	参考文献①および②	高橋・中信
第13回	PCM手法におけるモニタリング・評価 *災害時要配慮者に対する事例のモニタリング・評価【演習】	参考文献①および②	高橋・中信

第14回	災害時要配慮者に対する援助のあり方について（総括）		中信
第15回	脆弱な人の声を聴く方法には何があるか？（PCM以外の方法でアプローチする）		中信

参考文献	①FASID（国際開発高等教育機構）（2024）. 開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネジメント：参加型計画編 改訂第9版. FASID. ②FASID（国際開発高等教育機構）（2022）. 開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネジメント：モニタリング・評価編 改訂第8版. FASID. ③NPO法人アース（2004）. 国際協力プロジェクト評価. 国際開発ジャーナル社.
予習復習	各講義内容に関する文献を自己学習し講義にのぞみ、終了後は資料・文献等で復習する。
評価方法	演習形式で行う。 ①プレゼンテーション(50%)、②課題レポート(50%) によって総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーションの内容や方法等についてコメントを返す。レポートは後日コメントをして返却する。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「要援護者の看護援助に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30 ／高橋：講義前後 ／ 高田：月曜日～金曜日 10：00～17：00

年度	2025
科目名	災害看護学Ⅶ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	後期
開講時期	後期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
東 智子
高田 洋介

授業概要	国内外の災害現場における、災害サイクル別の危機的状況に対して、看護専門職や他職種等との連携のあり方、行政や関係機関との連携支援システムや災害看護コーディネーターの役割等について、理解を深める。国内外の事例を通して、災害各期における専門職の連携と多職種の連携の重要性を深く探求する。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-3. 2-4.に対応する。
到達目標	1. 災害時における危機の特性と他職種連携の重要性について説明できる。 2. 災害サイクルに沿った危機管理とともに他職種との連携をしている看護活動について説明できる。 3. 災害医療現場における連携と協働についてCSCATTTの視点から説明できる。 4. 避難所における連携と協働について、生活と健康の視点から説明できる。 5. 仮設住宅における連携と協働について生活再建の視点から説明できる。 6. 国内外の災害発生時における災害医療/災害看護コーディネーターの重要性について説明できる。 7. 災害時における外部支援のあり方、受援の仕方について説明できる。

授業内容

回	内 容	予習復習	担当教員
第1回	災害サイクル別における活動現場の特性、他職種との連携の重要性		中信
第2回	災害急性期：災害現場における連携と協働、CSCATTT （行政、住民組織、看護専門職、他職種、ボランティア等との連携と協働）		中信
第3回	災害急性期：避難所の立ち上げから閉所までの運営支援の連携・調整 （行政、住民組織、看護専門職、他職種、ボランティア等との連携と協働） 【講義・演習】		中信
第4回	災害中長期：仮設住宅で暮らす住民を取り巻く生活問題や健康問題への対応と他職種連携 （行政、住民組織、看護専門職、他職種、ボランティア等との連携と協働） 【講義・演習】		中信
第5回	災害復興期：生活再建とコミュニティづくりにおける連携調整 （行政、住民組織、看護専門職、他職種、ボランティア等との連携と協働） 【講義・演習】		中信
第6回	災害復興期：原発事故被災者の生活再建上の課題とその対応と連携調整		中信
第7回	災害静穏期：病院防災プログラムの構築（BCPの視点から）と調整機能		東
第8回	東日本大震災における危機管理とその課題一事例分析（医療機関）の演習	参考文献 ①or②	東
第9回	災害時のIPW（Inter-professional Work：専門職間連携協働）に関する演習 （国際的な災害） 【演習】		中信
第10回	災害時のIPW（Inter-professional Work：専門職間連携協働）に関する演習 （国際的な災害） 【演習】		中信

第11回	災害時のIPW（Inter-professional Work：専門職間連携協働）に関する演習（国際的な災害） 【演習】		中信
第12回	災害時のIPWの事例発表 【演習】		中信
第13回	クラスターアプローチの必要性について検討する（国際救援活動の事例） 【演習】		高田
第14回	人為的災害における危機管理（イギリスの災害医療体制に学ぶNational Health Serviceの連携支援）		中信
第15回	災害時における危機管理とリーダーシップ：災害看護コーディネーターの役割 災害時の外部支援のあり方、受援の仕方について考察する		中信

参考文献	①越野修三（2011）. 東日本大震災津波岩手県防災危機管理監の150日. ぎょうせい. ②石巻赤十字病院, 由井りょう子（2011）. 石巻赤十字病院の100日間. 小学館. ③田村由美(編)(2018). 新しいチーム医療－看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門 （改訂版）. 看護の科学社. その他、適宜提示する。
予習復習	各講義内容に関する文献を自己学習し講義にのぞみ、終了後は資料・文献等で復習する。
評価方法	①演習への参加状況およびプレゼンテーション（50％）、②最終のレポート課題（50％）で総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーションの内容や方法等についてコメントを返す。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「災害サイクル各期における調整に関する科目」に該当する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30 ／ 東：講義前後 ／高田：月曜日～金曜日 10：00～17：00

年度	2025
科目名	災害看護学実習Ⅰ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	4.0
総開講時間数	180.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次後期～2年次前期

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
高田 洋介

授業概要	災害発生直後からの看護活動が展開できるように、災害後の急性期における高度な専門的治療ケアを実践する能力・卓越したアセスメント力を育成する。また、災害後の被害を少なくするため、起こりうる災害に備えた医療機関の平常時からの備えや災害医療看護に関する訓練等を企画することや研究ニーズを把握することを通し、災害看護専門看護師としての教育・研究的能力を養う。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-2. 2-5. に対応する。
到達目標	1. 災害基幹・拠点病院で災害を想定した日常からの医療ケア体制を理解する（実践）。 2. 災害基幹・拠点病院における急性期の患者の高度な看護実践を行う（実践）。 3. 災害基幹・拠点病院における災害看護に関する教育的なかかわりを実践する（教育）。 4. 災害看護領域における知識や技術の向上のために実践の場で必要とされる研究について理解する（研究）。
授業内容	【災害看護学実習Ⅰ】 医療機関での実習 災害基幹・拠点病院 急性期/静穏期 180時間（4単位） ・災害発生直後からの看護活動が展開できるように、高度な専門的治療ケアを実践する能力・卓越したアセスメント力を育成する。また、災害後の被害を少なくするため、起こりうる災害に備えた医療機関の平常時からの備えや災害医療看護に関する院内の防災訓練等を企画することを通して、学ぶ。 ・病院（病棟）の看護スタッフの災害看護に関する研究ニーズを理解し、これまでの知見を活かした助言を行う。 どちらの施設から実習をするのかは、受け入れ側との調整により決定するが、それぞれの災害医療センターの特性や教育体制の相違等について学ぶ。 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター 2単位 実習管理者：森由美子（副看護部長） 実習指導者：花房亮・江津繁 兵庫県災害医療センター 2単位 実習管理者：勝田清美（看護部長） 実習指導者：津田雅美・山本裕梨子・秋武友和 この実習については、主に教育・実践・研究の3つの役割に関するレポートを適宜作成する。 実習場所の選定や手続きについては学生と相談の上で決定し、自分で実習計画を立案して実施する。なお、実習期間及び実習施設および実習病棟、手続きの方法等についてはオリエンテーションの後、学生との調整の上、決定する。 * 実際に災害が発生した場合に、自施設あるいは関連学会やNGOから現地で救援活動を実施する場合には、急性期の看護活動の実習とすることができる。

参考文献	適宜提示する。
予習復習	各実習内容に関する文献やこれまでの講義・演習等を自己学習し、終了後は資料・文献等で復習を行う。
評価方法	次の①から③で、総合的に評価する。 ①事前準備をする（事前の実習計画立案）；10点 ②責任を持ち、かつ積極的に実習に臨み、自己評価する（評価表）；40点 ③実習記録（毎日の記録および課題レポート）；50点 評価のフィードバックは面談を通して行う。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「災害看護学実習Ⅰ」に該当する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	災害看護学実習Ⅱ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	4.0
総開講時間数	180.0
講義開講時期	通年
開講時期	2 年次

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
東 智子

授業概要	災害後の中長期における看護活動（仮設住宅・復興住宅）を行うことにより、災害時要配慮者への看護介入、必要となる他職種との調整を行い、高度実践能力、連携・調整する能力を養う。 また、災害からの生活再建、人生の再建に対する意思決定支援や他職種・他機関との連携について考察を深め、倫理調整、コンサルテーションの能力を養う。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-1. 2-3. 2-4. 2-6. に対応する。
到達目標	- 被災地における中長期の看護活動を実践できる（実践）。 - 災害後の地域保健活動において、個人（災害要配慮者等）や家族、集団に対して高度な看護実践のケア活動を行う（実践）。 - 災害後のコミュニティ構築に向けた看護活動を理解し、保健医療福祉に関わる人々の間の調整を行う（調整）。 - 災害後の中長期において、看護職者や他職種へのコンサルテーションの必要性を理解する（コンサルテーション）。 - 災害看護領域における倫理的な問題・葛藤について関係者間で倫理調整を理解する（倫理）。
授業内容	【災害看護学実習Ⅱ】 被災地での地域保健活動（仮設住宅・復興住宅地区） 中長期 180時間（4単位） ・災害後の中長期の医療機関の看護活動に携わり、下記のような問題解決能力を養う。 第1段階（第1・2週）：被災地域の中長期における地域や医療機関の現状を理解したうえで、組織が抱える課題あるいは対象が抱えている生活・健康問題に対して、地域の保健医療職を含む他施設・他職種と協働して、必要な連携・調整をはかり、ケアコーディネートを行う。組織や対象者が抱えている倫理的課題に気づく。 第2段階（第3・4週）：第1段階の実習を踏まえて、災害後の中長期の看護活動に関する理解を深める。対象あるいは組織が抱えている問題に対して、災害からの時期を考慮して、地域の保健医療職を含む他施設・他職種と協働して、必要な連携・調整をはかり、ケアコーディネートあるいは意思決定支援に関するコンサルテーション等を実施・評価する。そこでの倫理的問題について把握し、ともに考えていく機会を持ち、解決策について検討する。 熊本赤十字病院 1単位 実習管理者：村田美和 実習指導者：村田美和・小林賢吾 この実習については、主に実践・コンサルテーション・調整・倫理調整の4つの役割に関するレポートを適宜作成する。 実習場所の選定や手続きについては学生と相談の上で決定し、自分で実習計画を立案して実施する。なお、実習期間及び実習場所、手続きの方法等についてはオリエンテーションの後、学生との調整の上、決定する。

参考文献	適宜提示する。
予習復習	各実習内容に関する文献やこれまでの講義・演習等を自己学習し、終了後は資料・文献等で復習を行う。
評価方法	次の①から③で、総合的に評価する。 ①事前準備をする（事前の実習計画立案）；10点 ②責任を持ち、かつ積極的に実習に臨み、自己評価する（評価表）；40点 ③実習記録（毎日の記録および課題レポート）；50点 評価のフィードバックは面談を通して行う。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「災害看護学実習Ⅱ」に該当する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	災害看護学実習Ⅲ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	1.0
総開講時間数	45.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
東 智子

授業概要	国内外の災害に対応した備えをしている国際医療救援拠点病院である熊本赤十字病院で、国内外の災害発生時の対応とともに、災害に対する備えや人材育成について学び、関連機関との派遣調整を学ぶ。更に、異文化の中での看護活動に関する理解を深め、人権侵害等などの倫理に対する判断と調整のための能力を養う。 この授業科目は、ディプロマポリシー 2-2. 2-4. 2-6. に対応する。
到達目標	1. 国際医療救援拠点病院で国内・国際救援活動を想定した日常からの医療ケア体制や派遣システムについて理解する（教育）。 2. 国際医療救援拠点病院が担っている教育的なかわりについて理解する（教育）。 3. 国際救援活動を展開するため、異なる政治・社会・文化にある対象（国）を援助するために必要と思われるさまざまな組織との調整の実践活動を理解する（調整）。 4. 国際救援活動領域における倫理的問題について倫理的調整の実践を理解する（倫理）。
授業内容	【災害看護学実習Ⅲ】 国際医療救拠点病院での実習 45時間（1単位） ・国内・国際的な救援活動を展開している国際医療救援拠点病院で実習を行い、平常時からの国内外の災害に対する備えや備蓄、人材育成等をどのようにしているのかについて学ぶ。 ・災害発生時の要員派遣に関連して関連機関および院内での連携・調整を理解する。 ・国際救援活動に必要な備蓄や人材育成に関する体制を理解する。 文化・宗教・政治・生活習慣等の異なる国での国際救援活動で感じたジレンマ等について実際のお話を聞き、倫理的問題を検討する。 熊本赤十字病院 1単位 実習管理者：村田美和 実習指導者：村田美和・小林賢吾 この実習については、主に教育・調整・倫理調整の3つの役割に関するレポートを適宜作成する。 実習場所の選定や手続きについては学生と相談の上で決定し、自分で実習計画を立案して実施する。なお、実習期間及び実習病棟、手続きの方法等についてはオリエンテーションの後、学生との調整の上、決定する。

参考文献	適宜提示する。
予習復習	各実習内容に関する文献やこれまでの講義・演習等を自己学習し、終了後は資料・文献等で復習を行う。
評価方法	次の①から③で、総合的に評価する。 ①事前準備をする（事前の実習計画立案）；10点 ②責任を持ち、かつ積極的に実習に臨み、自己評価する（評価表）；40点 ③実習記録（毎日の記録および課題レポート）；50点 評価のフィードバックは面談を通して行う。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「災害看護学実習Ⅲ」に該当する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	災害看護学実習Ⅳ
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	実習
基準単位数	1.0
総開講時間数	45.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子
高田 洋介

授業概要	地域特性を考慮し、地域災害拠点病院が実施している地域住民に対する災害の備え・教育や相談を実践することにより、自己の教育能力、コンサルテーション能力を養う。住民に対して必要となる災害の備え教育に関して、保健師や関連機関と連携しながらチームアプローチを実践・調整する能力を養う。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-2, 2-3, 2-4. に対応する。
到達目標	1. 静穏期の地域保健活動において、地域災害拠点病院が実施している地域住民に対する災害看護に関する教育的なかかわりを理解する（教育）。 2. 静穏期の地域保健活動において、災害時要配慮者を援助するために必要と思われるさまざまな組織との調整の実践活動を理解する（調整）。 3. 医療ケアの必要な対象者の退院支援時における援助の実際を通して、在宅ケアに向けた課題を検討する。 4. 静穏期において、災害時要配慮者の抱えた課題に対して看護職者や他職種へのコンサルテーションを行う（コンサルテーション）。
授業内容	【災害看護学実習Ⅳ】 地域住民に対する災害教育の実習 45時間（1単位） ・地域災害拠点病院で実習を行い、地域の特性を考慮し、地域住民に対してどのような災害の備えをしていくことが必要なのか等について、保健師や関連機関との連携について学ぶ。 ・地域特性を理解した上で、災害に関する教育を企画し、実施・評価する。 ・地域包括ケア時代に向けた医療機関の地域保健活動について、特に災害時要配慮者に対するケアに関した他職種との連携等を考察する。 ・特に災害時における対応で支援を必要とする対象者の課題に対するスタッフのニーズに応じて、抱えている課題に対する助言を行う。 ・医療ケアの必要な対象者の退院調整や地域連携関連部署で行われている援助について学ぶ。 JA広島総合病院 1単位 実習管理者：佐藤澄香 実習指導者：竹野香織・阿部伸也 この実習については、主に教育・コンサルテーション・調整の3つの役割に関するレポートを適宜作成する。 実習場所の選定や手続きについては学生と相談の上で決定し、自分で実習計画を立案して実施する。なお、実習期間及び実習施設、手続きの方法等についてはオリエンテーションの後、学生との調整の上、決定する。

参考文献	適宜提示する。
予習復習	各実習内容に関する文献やこれまでの講義・演習等を自己学習し、終了後は資料・文献等で復習を行う。
評価方法	次の①から③で、総合的に評価する。 ①事前準備をする（事前の実習計画立案）；10点 ②責任を持ち、かつ積極的に実習に臨み、自己評価する（評価表）；40点 ③実習記録（毎日の記録および課題レポート）；50点 評価のフィードバックは面談を通して行う。
備考	この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「災害看護学実習Ⅳ」に該当する。
オフィスアワー	中信：金曜日 12：30～14：30

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ(基礎看護学)
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 川西 美佐

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ(基礎看護学)
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 川西 美佐

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ(基礎看護学)
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 川西 美佐

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（看護教育・管理学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 田村 由美

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（看護教育・管理学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 田村 由美

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（看護教育・管理学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 田村 由美

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（看護教育・管理学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 村田 由香

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（看護教育・管理学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 村田 由香

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（看護教育・管理学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 村田 由香

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（母性看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 奥村 ゆかり

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（母性看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 奥村 ゆかり

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（母性看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 奥村 ゆかり

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（小児看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（小児看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（小児看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（成人看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（成人看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（成人看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（老年看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 百田 武司

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（老年看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 百田 武司

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（老年看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 百田 武司

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（老年看護学）
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 山本 浩子

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が行い組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（老年看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 山本 浩子

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（老年看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 山本 浩子

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（老年看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 中村 もとゑ

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（老年看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 中村 もとゑ

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（老年看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 中村 もとゑ

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（精神看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（精神看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめる。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（精神看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（地域看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 水馬 朋子

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に主指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（地域看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 水馬 朋子

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（地域看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 水馬 朋子

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（地域看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 松原 みゆき

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に主指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（地域看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 松原 みゆき

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（地域看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 松原 みゆき

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅰ（災害看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子

授業概要	専攻領域に関連する研究課題を選択し、それに関連した先行研究の文献を検索する。そして、文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にする。最終的に、自身が取り組もうとする研究課題を明確化し、研究計画書（ドラフト版）としてまとめ、事前検討会で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3. 1-5. に対応する。
到達目標	1. 先行研究の文献を検索することが出来る。 2. 文献を批判的吟味し、先行研究で明らかなことと明らかでないことを明確にすることができる。 3. 研究課題を明確にすることができる。 4. 大掴な研究計画書を作成することができる。
授業内容	文献検索 文献の批判的吟味 研究課題の探索 研究課題の明確化 研究デザインの検討 分析方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書（ドラフト版）の作成 研究計画を「事前検討会」で発表 ・事前検討会の開催は年2回（前期7月/後期2月） ・発表時間10分/質疑応答10分 研究計画書（ドラフト版）の提出 （事前検討会で発表後、1週間以内に研究指導教員へ提出する）

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究指導教員が研究計画書審査基準（P38参照）により総合的に評価する。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅱ（災害看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次～2年次

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子

授業概要	特別研究Ⅰで作成した研究計画書（ドラフト版）を洗練し、修士論文として実現可能で具体的な研究計画に修正する。そして、研究計画書（最終版）としてまとめ、研究計画一次審査で発表する。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 研究内容を適切に表した研究タイトルを示すことができる。 2. 研究目的が明確で、看護学の研究としての独創性や意義がある研究計画を示すことができる。 3. 研究目的に沿った研究方法、分析方法を示すことができる。 4. 研究遂行が可能な研究計画を示すことができる。 5. 倫理的に配慮した研究計画を示すことができる。 6. 論理構成が適切な研究計画書を作成することができる。
授業内容	研究デザインの再検討 研究の実現性の検討・フィールドの開拓 調査票、インタビューガイド等の作成 分析方法の具体的検討 倫理的配慮の具体的検討 研究計画書（最終版）の作成 研究計画書の提出

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	研究計画書審査基準（P38参照）により評価する。 研究計画書審査：研究計画一次審査および研究計画二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、再審査となった場合、院生は修正後の研究計画書を二次審査の翌日から1か月以内に再提出し、同学期内で2回目の一次審査と二次審査を受ける。 ・研究計画二次審査の結果、不合格となった場合、次の学期の「前期／後期の研究計画書審査願」期日までに申請し、一次審査と二次審査を受ける。
備考	この授業を履修するにあたって、特別研究Ⅰの履修登録をしていることが条件になる。研究計画書、研究計画書事前検討会の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	特別研究Ⅲ（災害看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	3.0
総開講時間数	90.0
講義開講時期	通年
開講時期	2年次

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子

授業概要	学位論文研究計画書審査会および研究倫理審査委員会による審査で承認された各自の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。 この授業科目は、ディプロマポリシー1-3.1-5.に対応する。
到達目標	1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を遂行することができる。 2. 適切な分析手法を遂行することができる。 3. 研究目的を反映し、データ分析に基づいた研究結果を、論理的に述べることができる。 4. 結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある考察を述べることができる。 5. 先行研究を十分に検討し、適切に文献を引用して考察を述べることができる。 6. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 7. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。 8. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	データ収集 データ整理 データ分析、結果の解釈 研究結果の記述 考察の記述 研究内容・研究の進捗状況の中間報告 時期：データ収集開始後、修士論文審査申請の前に中間発表会にて発表し内容を吟味する。 ・「中間発表会」の開催は年2回（前期5月/後期11月） ・発表10分/質疑応答10分 修士論文提出 修士論文審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・発表15分/質疑応答10

参考文献	適宜紹介する。
評価方法	修士論文審査にて、修士論文審査基準（P39参照）により総合的に評価する。 修士論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	論文の提出期限や手続きなどの詳細については履修ガイドの所定欄を参照のこと。 専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	課題研究（小児看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次後期～2年次

担当教員

氏名
◎ 山村 美枝

授業概要	看護実践の場において研究課題をみつけ、系統的・科学的な方法を用いて、事例研究、または、文献研究を行う。この過程を通して、専門看護師としての専門的知識や技術を深めるための基礎的な研究能力を養う。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-5. に対応する。
到達目標	1. 実践の場における研究課題を明確化することができる。 2. 実践の場における研究課題に対し、自らの看護実践を基盤とし科学的・論理的に探求する。 3. 実践の場における研究課題に対し、論理性、一貫性のある事例研究、または、文献研究を行うことができる。 4. 専門看護師として研究的に取り組むための基礎知識や「リサーチャー・マインド」を身につけることができる。
授業内容	1. 課題研究 事例研究または文献研究 1) 事例研究の作成 実践の場から得られた研究課題をもとに、研究計画を作成し、研究倫理審査を受ける。そして、文献等を用いて探求した事例研究を行う。なお、実習で受け持った事例で行う場合は、研究計画書を作成し、研究倫理審査を受けた後、実習中の関わり等をデータとして使用することの承諾を得て、加えて実習とは別にインタビュー等でデータ収集を実施する。 （1）テーマ設定 （2）研究方法（事例の検討方法） （3）結果と考察（系統的な事例概要、考察） （4）実践の場への示唆や貢献内容 （5）論旨の一貫性 2) 文献研究）の作成 実践の場において問題解決が必要な課題を取り上げ、その課題に関連する先行研究を踏まえて、課題解決の具体的方策を文献レビューする。 そしてその結果を実践の場に活かすことができるような内容を含めた文献研究を行う。 （1）テーマ設定 （2）研究方法（文献の検索対象の基準、検索手順など） （3）結果と考察（結果：文献を比較し、統合されているか、考察：結果に基づき議論されているか） （4）実践の場への示唆や貢献内容 （5）論旨の一貫性 2. 課題研究の進捗状況の中間報告 時期：課題研究を提出する前の「中間発表会」にて発表し内容を吟味する。 ・ 中間発表会の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・ 発表10分/質疑応答10分 3. 課題研究提出 4. 課題研究審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・ 発表15分/質疑応答10分

参考文献	①Polit, D. F., & Beck, C.T.(2004)/近藤潤子(監訳)(2010). 看護研究 原理と方法（第2版）. 医学書院. ②Gray.J.R., Grove, S.K, (2021)/黒田裕子, 逸見功,佐藤富美子(2023). 看護研究入門 原著第9版 -評価・統合・エビデンスの生成-. エルゼビア・ジャパン. ③American Psychological Association. (2019) / 前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦(訳)(2023). APA論文作成マニュアル(第2版). 医学書院. ④その他適宜資料配付
予習復習	①進めかたについては、初回時にオリエンテーションを行う。 ②事例研究や文献研究に関する基礎知識は、各自、文献等で学習しておく。 ③学内外の研修会や学会に積極的に参加するなど、主体的に学習活動を行う。

評価方法	「課題研究（事例研究）」評価基準あるいは「課題研究（文献研究）」評価基準（P38参照）に基づき、総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	課題研究（がん看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次後期～2年次

担当教員

氏名
◎ 新任教員（非常勤講師）

授業概要	看護実践の場において研究課題を見つけ、系統的・科学的な方法を用いて、事例研究、または、文献研究を行う。この過程を通して、専門看護師としての専門的知識や技術を深めるための基礎的な研究能力を養う。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-5. に対応する。
到達目標	1. 実践の場における研究課題を明確化することができる。 2. 実践の場における研究課題に対し、自らの看護実践を基盤とし科学的・論理的に探求する。 3. 実践の場における研究課題に対し、論理性、一貫性のある事例研究、または、文献研究を行うことができる。 4. 専門看護師として研究的に取り組むための基礎知識や「リサーチャー・マインド」を身につけることができる。
授業内容	1. 課題研究 事例研究または文献研究 1) 事例研究の作成 実践の場から得られた研究課題をもとに、研究計画を作成し、研究倫理審査を受ける。そして、文献等を用いて探求した事例研究を行う。なお、実習で受け持った事例で行う場合は、研究計画書を作成し、研究倫理審査を受けた後、実習中の関わり等をデータとして使用することの承諾を得て、加えて実習とは別にインタビュー等でデータ収集を実施する。 （1）テーマ設定 （2）研究方法（事例の検討方法） （3）結果と考察（系統的な事例概要、考察） （4）実践の場への示唆や貢献内容 （5）論旨の一貫性 2) 文献研究）の作成 実践の場において問題解決が必要な課題を取り上げ、その課題に関連する先行研究を踏まえて、課題解決の具体的方策を文献レビューする。 そしてその結果を実践の場に活かすことができるような内容を含めた文献研究を行う。 （1）テーマ設定 （2）研究方法（文献の検索対象の基準、検索手順など） （3）結果と考察（結果：文献を比較し、統合されているか、考察：結果に基づき議論されているか） （4）実践の場への示唆や貢献内容 （5）論旨の一貫性 2. 課題研究の進捗状況の中間報告 時期：課題研究を提出する前の「中間発表会」にて発表し内容を吟味する。 ・ 中間発表会の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・ 発表10分/質疑応答10分 3. 課題研究提出 4. 課題研究審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・ 発表15分/質疑応答10分

参考文献	①Polit, D. F., & Beck, C.T.(2004)/近藤潤子(監訳)(2010). 看護研究 原理と方法（第2版）. 医学書院. ②Gray.J.R., Grove, S.K, (2021)/黒田裕子, 逸見功,佐藤富美子(2023). 看護研究入門 原著第9版 -評価・統合・エビデンスの生成-. エルゼビア・ジャパン. ③American Psychological Association. (2019) / 前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦(訳)(2023). APA論文作成マニュアル(第2版). 医学書院. ④その他適宜資料配付
予習復習	①進めかたについては、初回時にオリエンテーションを行う。 ②事例研究や文献研究に関する基礎知識は、各自、文献等で学習しておく。 ③学内外の研修会や学会に積極的に参加するなど、主体的に学習活動を行う。

評価方法	「課題研究（事例研究）」評価基準あるいは「課題研究（文献研究）」評価基準（P38参照）に基づき、総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	課題研究（精神看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次後期～2年次

担当教員

氏名
◎ 戸村 道子

授業概要	看護実践の場において研究課題をみつけ、系統的・科学的な方法を用いて、事例研究、または、文献研究を行う。この過程を通して、専門看護師としての専門的知識や技術を深めるための基礎的な研究能力を養う。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-5. に対応する。
到達目標	1. 実践の場における研究課題を明確化することができる。 2. 実践の場における研究課題に対し、自らの看護実践を基盤とし科学的・論理的に探求する。 3. 実践の場における研究課題に対し、論理性、一貫性のある事例研究、または、文献研究を行うことができる。 4. 専門看護師として研究的に取り組むための基礎知識や「リサーチャー・マインド」を身につけることができる。 5. 研究プロセスを通して、自主的・計画的に取り組むことができる。
授業内容	1．課題研究　事例研究または文献研究 1) 事例研究の作成 実践の場から得られた研究課題をもとに、研究計画を作成し、研究倫理審査を受ける。そして、文献等を用いて探求した事例研究を行う。なお、実習で受け持った事例で行う場合は、研究計画書を作成し、研究倫理審査を受けた後、実習中の関わり等をデータとして使用することの承諾を得て、加えて実習とは別にインタビュー等でデータ収集を実施する。 （１）テーマ設定 （２）研究方法（事例の検討方法） （３）結果と考察（系統的な事例概要、考察） （４）実践の場への示唆や貢献内容 （５）論旨の一貫性 2) 文献研究）の作成 実践の場において問題解決が必要な課題を取り上げ、その課題に関連する先行研究を踏まえて、課題解決の具体的方策を文献レビューする。 そしてその結果を実践の場に活かすことができるような内容を含めた文献研究を行う。 （１）テーマ設定 （２）研究方法（文献の検索対象の基準、検索手順など） （３）結果と考察（結果：文献を比較し、統合されているか、考察：結果に基づき議論されているか） （４）実践の場への示唆や貢献内容 （５）論旨の一貫性 2．課題研究の進捗状況の中間報告 時期：課題研究を提出する前の「中間発表会」にて発表し内容を吟味する。 ・ 中間発表会の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・ 発表10分/質疑応答10分 3．課題研究提出 4．課題研究審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・ 発表15分/質疑応答10分

参考文献	①Polit, D. F., & Beck, C.T.(2004)/近藤潤子(監訳)(2010). 看護研究 原理と方法（第2版）. 医学書院. ②Gray.J.R., Grove, S.K, (2021)/黒田裕子, 逸見功,佐藤富美子(2023). 看護研究入門 原著第9版 -評価・統合・エビデンスの生成-. エルゼビア・ジャパン. ③American Psychological Association. (2019) / 前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦(訳)(2023). APA論文作成マニュアル(第2版). 医学書院. ④その他適宜資料配付
予習復習	①進めかたについては、初回時にオリエンテーションを行う。 ②事例研究や文献研究に関する基礎知識は、各自、文献等で学習しておく。 ③学内外の研修会や学会に積極的に参加するなど、主体的に学習活動を行う。

評価方法	「課題研究（事例研究）」評価基準あるいは「課題研究（文献研究）」評価基準（P38参照）に基づき、総合的に評価する。 課題研究論文審査：一次審査と最終試験および二次審査を受ける。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照

年度	2025
科目名	課題研究（災害看護学）
学部／大学院	看護学研究科 修士課程
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	通年
開講時期	1年次後期～2年次

担当教員

氏名
◎ 中信 利恵子

授業概要	看護実践の場において研究課題をみつけ、系統的・科学的な方法を用いて、事例研究、または、文献研究を行う。この過程を通して、専門看護師としての専門的知識や技術を深めるための基礎的な研究能力を養う。 この授業科目は、ディプロマポリシー2-5. に対応する。
到達目標	1. 実践の場における研究課題を明確化することができる。 2. 実践の場における研究課題に対し、自らの看護実践を基盤とし科学的・論理的に探求する。 3. 実践の場における研究課題に対し、論理性、一貫性のある事例研究、または、文献研究を行うことができる。 4. 専門看護師として研究的に取り組むための基礎知識や「リサーチャー・マインド」を身につけることができる。
授業内容	1. 課題研究 事例研究または文献研究 1) 事例研究の作成 実践の場から得られた研究課題をもとに、研究計画を作成し、研究倫理審査を受ける。そして、文献等を用いて探求した事例研究を行う。なお、実習で受け持った事例で行う場合は、研究計画書を作成し、研究倫理審査を受けた後、実習中の関わり等をデータとして使用することの承諾を得て、加えて実習とは別にインタビュー等でデータ収集を実施する。 （1）テーマ設定 （2）研究方法（事例の検討方法） （3）結果と考察（系統的な事例概要、考察） （4）実践の場への示唆や貢献内容 （5）論旨の一貫性 2) 文献研究）の作成 実践の場において問題解決が必要な課題を取り上げ、その課題に関連する先行研究を踏まえて、課題解決の具体的方策を文献レビューする。 そしてその結果を実践の場に活かすことができるような内容を含めた文献研究を行う。 （1）テーマ設定 （2）研究方法（文献の検索対象の基準、検索手順など） （3）結果と考察（結果：文献を比較し、統合されているか、考察：結果に基づき議論されているか） （4）実践の場への示唆や貢献内容 （5）論旨の一貫性 2. 課題研究の進捗状況の中間報告 時期：課題研究を提出する前の「中間発表会」にて発表し内容を吟味する。 ・ 中間発表会の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・ 発表10分/質疑応答10分 3. 課題研究提出 4. 課題研究審査において合格の後、研究成果報告「修士論文・課題研究発表会」 時期：「修士論文・課題研究発表会」の開催は年2回（前期9月/後期2月） ・ 発表15分/質疑応答10分

参考文献	①Polit, D. F., & Beck, C.T.(2004)/近藤潤子(監訳)(2010). 看護研究 原理と方法（第2版）. 医学書院. ②Gray.J.R., Grove, S.K, (2021)/黒田裕子, 逸見功,佐藤富美子(2023). 看護研究入門 原著第9版 -評価・統合・エビデンスの生成-. エルゼビア・ジャパン. ③American Psychological Association. (2019) / 前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦(訳)(2023). APA論文作成マニュアル(第2版). 医学書院. ④その他適宜資料配付
予習復習	①進めかたについては、初回時にオリエンテーションを行う。 ②事例研究や文献研究に関する基礎知識は、各自、文献等で学習しておく。 ③学内外の研修会や学会に積極的に参加するなど、主体的に学習活動を行う。

評価方法	「課題研究（事例研究）」評価基準あるいは「課題研究（文献研究）」評価基準（P38参照）に基づき、総合的に評価する。 授業中にプレゼンテーション内容や方法等についてコメントを返す。
備考	専門看護師コース履修者は、「課題研究」に代えて、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修することができる。
オフィスアワー	教員一覧（P4）参照